

**スポーツキャリアサポート支援事業における
スポーツ人材の効果的な活用のための
基礎的調査研究**

報告書

令和3年3月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

目次

エグゼクティブサマリー	1
I. 調査概要	9
1. 調査目的	11
2. 調査内容	12
II. スポーツ・パラスポーツに関わる人材に関する調査結果	19
1. スポーツの指導者・審判員に関するアンケート	21
2. パラスポーツの指導者・審判員に関するアンケート	56
3. ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート	87
4. トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート	105
5. スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート	114
6. 指導者・専門スタッフ・審判員経験者に対するアンケート	123
III. スポーツに関わる人材の活躍支援に向けた課題分析	139
1. スポーツに関わる人材（指導者・専門スタッフ・審判員）規模と活動環境の現状	141
2. スポーツに関わる人材の需給バランスと今後の見通し	145
3. 人材確保・維持に向けた活動環境の課題と対応方針の検討	153
IV. 参考（アンケート調査画面）	165

＜本報告書で使用する用語について＞

本報告書では、次の用語、組織名について、一部、以下の略称を用いて表記する。

正式名称	略称
中央競技団体（National Federations）	NF
公益財団法人日本オリンピック委員会（Japanese Olympic Committee）	JOC
公益財団法人日本スポーツ協会（Japan Sport Association）	JSP0
日本パラリンピック委員会（Japanese Paralympic Committee）	JPC

中央競技団体名は以下の略称を用いて記載する。

正式名称	本報告書における記載（略称）
公益財団法人日本陸上競技連盟	陸上競技連盟
公益財団法人日本水泳連盟	水泳連盟
公益財団法人日本サッカー協会	サッカー協会
公益財団法人全日本スキー連盟	スキー連盟
公益財団法人日本テニス協会	テニス協会
公益財団法人日本ボート協会	ボート協会
公益財団法人日本ホッケー協会	ホッケー協会
一般財団法人日本ボクシング連盟	ボクシング連盟
公益財団法人日本バレーボール協会	バレーボール協会
公益財団法人日本体操協会	体操協会
公益財団法人日本バスケットボール協会	バスケットボール協会
公益財団法人日本スケート連盟	スケート連盟
公益財団法人日本レスリング協会	レスリング協会
公益財団法人日本セーリング連盟	セーリング連盟
公益財団法人日本ウエイトリフティング協会	ウエイトリフティング協会
公益財団法人日本ハンドボール協会	ハンドボール協会
公益財団法人日本自転車競技連盟	自転車競技連盟
公益財団法人日本ソフトテニス連盟	ソフトテニス連盟
公益財団法人日本卓球協会	卓球協会
公益財団法人全日本軟式野球連盟	軟式野球連盟
公益財団法人日本相撲連盟	相撲連盟
公益財団法人日本馬術連盟	馬術連盟
公益財団法人日本フェンシング協会	フェンシング協会
公益財団法人全日本柔道連盟	柔道連盟
公益財団法人日本ソフトボール協会	ソフトボール協会
公益財団法人日本バドミントン協会	バドミントン協会
公益財団法人全日本弓道連盟	弓道連盟
公益財団法人日本ライフル射撃協会	ライフル射撃協会
一般財団法人全日本剣道連盟	剣道連盟
公益財団法人日本近代五種協会	近代五種協会
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	ラグビーフットボール協会
公益財団法人日本山岳・スポーツクライミング協会	山岳・スポーツクライミング協会
公益財団法人日本カヌー連盟	カヌー連盟
公益財団法人全日本アーチェリー連盟	アーチェリー連盟

公益財団法人全日本空手道連盟	空手道連盟
公益財団法人日本アイスホッケー連盟	アイスホッケー連盟
公益社団法人全日本銃剣道連盟	銃剣道連盟
一般社団法人日本クレール射撃協会	クレール射撃協会
公益財団法人全日本なぎなた連盟	なぎなた連盟
公益財団法人全日本ボウリング協会	ボウリング協会
公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
公益財団法人日本野球連盟	野球連盟
公益社団法人日本綱引連盟	綱引連盟
一般財団法人少林寺拳法連盟	少林寺拳法連盟
公益財団法人日本ゲートボール連合	ゲートボール連合
公益社団法人日本武術太極拳連盟	武術太極拳連盟
公益財団法人日本ゴルフ協会	ゴルフ協会
公益社団法人日本カーリング協会	カーリング協会
公益社団法人日本パワーリフティング協会	パワーリフティング協会
公益社団法人日本オリエンテーリング協会	オリエンテーリング協会
公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会	グラウンド・ゴルフ協会
公益社団法人日本トライアスロン連合	トライアスロン連合
一般財団法人日本バウンドテニス協会	バウンドテニス協会
公益社団法人日本エアロビック連盟	エアロビック連盟
一般社団法人日本バイアスロン連盟	バイアスロン連盟
公益社団法人日本スポーツチャンバラ協会	スポーツチャンバラ協会
一般財団法人日本ドッジボール協会	ドッジボール協会
公益社団法人日本チアリーディング協会	チアリーディング協会
公益社団法人日本ベタンク・ブル連盟	ベタンク・ブル連盟
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟	ダンススポーツ連盟
一般社団法人日本拳法競技連盟	拳法競技連盟
一般社団法人ワールド スケート ジャパン	ワールド スケート ジャパン
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会	アメリカンフットボール協会
一般社団法人日本フライングディスク協会	フライングディスク協会
一般財団法人全日本野球協会	野球協会
公益社団法人日本スカッシュ協会	スカッシュ協会
公益社団法人日本ビリヤード協会	ビリヤード協会
公益社団法人日本ボディビル・フィットネス連盟	ボディビル・フィットネス連盟
一般社団法人全日本テコンドー協会	テコンドー協会
一般社団法人日本サーフィン連盟	サーフィン連盟
一般社団法人日本カバディ協会	カバディ協会
一般社団法人日本セパタクロール協会	セパタクロール協会
一般社団法人日本クリケット協会	クリケット協会
一般社団法人日本身体障害者アーチェリー連盟	身体障害者アーチェリー連盟
一般社団法人日本パラ陸上競技連盟	パラ陸上競技連盟
一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟	障がい者バドミントン連盟
特定非営利活動法人日本ブラインドマラソン協会	ブラインドマラソン協会
一般社団法人日本ボッチャ協会	ボッチャ協会
一般社団法人日本障害者カヌー協会	障害者カヌー協会
一般社団法人日本パラサイクリング連盟	パラサイクリング連盟
一般社団法人日本障がい者乗馬協会	障がい者乗馬協会

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会	ブラインドサッカー協会
一般社団法人日本 CP サッカー協会	CP サッカー協会
一般社団法人日本ゴールボール協会	ゴールボール協会
特定非営利活動法人日本視覚障害者柔道連盟	視覚障害者柔道連盟
特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟	パラ・パワーリフティング連盟
特定非営利活動法人日本障害者セーリング協会	障害者セーリング協会
特定非営利活動法人日本障害者スポーツ射撃連盟	障害者スポーツ射撃連盟
一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟	身体障がい者水泳連盟
一般社団法人日本肢体不自由者卓球協会	肢体不自由者卓球協会
一般社団法人日本パラバレーボール協会	パラバレーボール協会
一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟	車いすバスケットボール連盟
NPO 法人日本車いすフェンシング協会	車いすフェンシング協会
一般社団法人日本車いすラグビー連盟	車いすラグビー連盟
一般社団法人日本車いすテニス協会	車いすテニス協会
一般社団法人日本パラアイスホッケー協会	パラアイスホッケー協会
特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟	障害者スキー連盟
一般社団法人日本車いすカーリング協会	車いすカーリング協会
一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会	視覚障害者ボウリング協会
特定非営利活動法人ローンボウルズ日本	ローンボウルズ日本
一般社団法人日本デフ陸上競技協会	デフ陸上競技協会
一般社団法人日本デフバドミントン協会	デフバドミントン協会
特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会	デフバスケットボール協会
日本ろう者ボウリング連合	ろう者ボウリング連合
一般社団法人日本ろう自転車競技協会	ろう自転車競技協会
一般社団法人日本ろう者サッカー協会	ろう者サッカー協会
特定非営利活動法人日本デフゴルフ協会	デフゴルフ協会
一般社団法人日本ろう者水泳協会	ろう者水泳協会
一般社団法人日本ろう者テニス協会	ろう者テニス協会
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会	ろうあ者卓球協会
一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会	デフビーチバレーボール協会
一般社団法人日本デフバレーボール協会	デフバレーボール協会
一般社団法人日本ろう者スキー協会	ろう者スキー協会
特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟	知的障がい者陸上競技連盟
一般社団法人日本 FID バスケットボール連盟	FID バスケットボール連盟
特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟	知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟	知的障害者水泳連盟
一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟	知的障がい者卓球連盟
一般社団法人日本ろう者柔道協会	ろう者柔道協会

エグゼクティブサマリー

調査概要

1. 調査目的

- 本調査は、アスリートを始めとするスポーツ界の多様な人材の一層の活用を図るため、指導者、スタッフ等、スポーツに関わる人材の数、雇用形態、需要状況の全体像や課題を明らかにし、中央競技団体やその地方組織において強化活動や大会運営等を担う人材の活動環境に関する課題を抽出・検証するための基礎的調査を行うことを目的としている。

2. 調査方法・調査内容

- 競技団体やチームへのアンケート調査を実施し、指導者、スタッフ等、スポーツに関わる人材の数、雇用形態、需要状況の全体像や課題についての基礎情報を取りまとめた。

調査種別	アンケート調査名	調査項目
調査 1A	中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSP0 加盟団体向け）	・ 競技別規模感…登録指導者数の人数 ・ 資格レベル別の需給バランス…資格別人数、過不足状況、増減見込み ・ 給与実態（審判員のみ）…手当の有無、金額 ・ 運営上の課題…過不足の理由、感じている課題
調査 1B	中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC 加盟競技団体向け）	
調査 2	ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート	・ 競技別規模感、活動実態…専業／兼業別人数 ・ 雇用・給与実態…手当の有無、金額 ・ 運営上の課題…感じている課題
調査 3	トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート	・ 競技別規模感…人数、資格別人数 ・ 雇用実態…雇用形態 ・ 活動実態…年間活動日数 ・ 運営上の課題…過不足の理由、感じている課題
調査 4	スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート	・ 競技別規模感…専業／兼業別人数 ・ 雇用・給与実態…指導者の属性、手当の有無、金額 ・ 活動実態…指導者の属性 ・ 運営上の課題…過不足の理由、感じている課題

- さらに、競技団体へのヒアリングを実施し、指導者・審判員の育成上の課題や対応策を調査した。
- 以上のアンケート及びヒアリングの結果を踏まえ、1. スポーツに関わる人材（指導者・専門スタッフ・審判員）規模と活動環境の現状、2. スポーツに関わる人材の需給バランスと今後の見通し、3. 指導者・専門スタッフ・審判員経験者からみた活動の実態、4. 人材確保・維持に向けた活動環境の課題、5. 対応方針の検討について取りまとめた。

1. スポーツに関わる人材（指導者・専門スタッフ・審判員）規模と活動環境の現状

【指導者】

スポーツ【p. 22～】

- JSP0 に加盟する競技団体の登録者指導者数は全国で約 16 万人である。40 代、50 代で全体の約 5 割を占めており、女性比率は 2 割程度となっている。
- 登録指導者数が多い上位 3 競技（サッカー、バレーボール、水泳）で登録指導者全体の 45.5%を占めている。

パラスポーツ【p. 57～】

- 指導者数をみると、40 代、50 代で全体の約 5 割を占めており、女性比率は約 2 割と、スポーツの指導者と同様の傾向がみられる。

トップアスリート【p. 87～／p. 107～】

- ナショナルチームの指導者は、兼業の割合が専業の 2 倍以上である。
- トップリーグの指導者の雇用形態は正社員が最も多いが、業務委託契約と嘱託社員を合計すると正社員と同程度のチーム数となる。トップリーグ指導者でも半数以上は安定雇用されているわけではない。

ジュニア【p. 116～】

- ジュニア育成を支える人材としては、指導者の多くが、保護者、地域住民、OB・OG で支えられている。

【審判員・スタッフ】

スポーツ【p. 42～】

- アンケート回答団体では、スポーツ全体で約 75 万人の審判員が登録されている。20 代、60 代以上で全体の約 5 割を占めており、女性比率は 1 割である。

パラスポーツ【p. 69～】

- 審判員は 50 代、60 代で全体の約 4 割を占め、女性比率は 2 割未満である。

トップアスリート【p. 87～】

- ナショナルチームのトレーナーは、専業の割合が約 1 割である。年間活動日数の平均は、専業トレーナーは兼業トレーナーに比べ約 4 倍多く稼働している。

2. スポーツに関わる人材の需給バランスと今後の見通し

【指導者】

スポーツ【p. 34～】

- すべてのコーチレベルにおいて、「不足している（やや不足＋不足＋非常に不足）」が6割以上を占める。

パラスポーツ【p. 62～】

- すべての指導者レベルにおいて、「不足している（やや不足＋不足＋非常に不足）」が約8割を占める。

トップアスリート【p. 110～】

- トップリーグの指導者は、充足している（充足＋概ね充足）が44.8%、不足している（やや不足＋不足＋非常に不足）が55.3%である。
- 過不足の理由や背景として、より丁寧な指導を行える指導者の確保に課題を感じている。

ジュニア【p. 120～】

- スポーツ少年団の指導者は、充足している（充足＋概ね充足）が49.6%、不足している（やや不足＋不足＋非常に不足）が50.4%である。
- 過不足の理由や背景は、「必要最低限の人数はいるが、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と考えている」と「必要最低限の人数を確保するのに苦労している」が多い。人数を確保することにも苦労しており、確保ができて有資格指導者の必要性を感じている。

【審判員】

スポーツ【p. 44～】

- すべてのレベルにおいて、「不足している（やや不足＋不足＋非常に不足）」が約6割を占める。

パラスポーツ【p. 73～】

- すべてのレベルにおいて、「不足している（やや不足＋不足＋非常に不足）」が約6～7割を占める。

3. 指導者・専門スタッフ・審判員経験者からみた活動の実態

【p. 123～】

- 活動頻度は、指導者で「週 2～3 回程度」と「ほぼ毎日」で 5 割以上、スタッフで「週 1 回程度」が 6 割以上、審判員は「月 1 回程度」が約 4 割と指導者の活動頻度が多い。
- 活動形態は、兼業（審判員・指導者の他に本業がある）が 87.6%を占め、中でも審判員は 96.0%、指導者でも 80.1%と専業は 5 人中 1 人に留まっている。
- 活動する上では、正確・公平なジャッジや知識、経験、コーチング能力のほか、ケア能力やコミュニケーション能力等、いわゆる“人間力”に関わる能力が必要とされている。それらの能力は、過去の競技経験や実践、研修会・講習会を通じて修得されている。
- 活動のきっかけは、「子供とふれ合いたかった」「学校の部活顧問であったため」「選手としての経験」「自分の子どもが少年野球チームに入団したため」「大学のサークル活動の一環」「知人に協力を頼まれたため」等が挙げられた。
- 過去に指導者や審判員、スタッフとして従事していたが、現在は携わっていない方の理由としては、「家事や仕事の両立の難しさ」「子供の卒業」「審判指導者講習を定期的に受け免許の更新が出来ない」「高齢化、自身の体力の限界」「お金がもらえないため、ボランティアの限界」等が挙げられた。
- 活動やキャリア形成の課題は、「選手の技術力の強化・指導力不足」「子供への指導方法」「本業との両立の難しさ・時間の拘束」「運営資金の不足」「高齢化」「人員不足」等が挙げられた。

4. 人材確保・維持に向けた活動環境の課題

【p. 153～】

（１）指導者数の変動傾向の違いによる課題

①指導者数が減少傾向にある競技団体が抱える課題

- 指導者数が減少していることから、人材発掘、人材確保や適切な人材の配置ができていない、中でも、地域による不足、若年層の不足、国際水準の指導者や審判の育成ができていないという課題が挙げられている。
- 指導者数減少の背景として、指導者のレベルに対し待遇が見合わないなど高齢化の進展や報酬に関する課題が挙げられている。

②指導者数が横ばいまたは増加傾向にある競技団体が抱える課題

- 指導者数の減少はみられないものの、地域、年齢層、コーチレベルに偏りがあるほ

か、女性が不足している。特に、海外経験の豊富な指導者や、上位資格保有者、障がい者を適切に指導できる指導者が不足しているという課題が挙げられている。

- その背景として、「兼業者が多く、活動できる曜日や時間帯、海外派遣に制約がある」、「業務に対し報酬が十分でない」、「国際資格を取得させるための環境整備や予算の確保ができていない」、「パラスポーツへの理解や受け入れが進まない」など兼業者が多いことと予算上の課題が挙げられている。

（２）育成計画の有無による課題

①育成計画を策定している競技団体が抱える課題

- 育成計画を策定している競技団体では、年齢層、コーチレベルに偏りがあるほか、女性が不足している。さらに、海外経験の豊富な指導者や、上位資格保有者、障がい者を適切に指導できる指導者の不足が課題として挙げられており、実質的には指導者や審判員等の質的不足が存在している。
- その背景として、講習の講師不足など、育成体制が整っていないことや審判員への理解が進まず資格取得者が伸びない点が課題となっている。

②育成計画を策定していない競技団体が抱える課題

- 育成計画を策定していない競技団体では、育成計画を策定している団体と同様に、地域、年齢層、コーチレベルに偏りがあるほか、女性が不足している。中でも海外経験の豊富な指導者や、上位資格保有者、障がい者を適切に指導できる指導者が不足している。
- その背景として、国際資格を取得させるための環境整備や予算の確保ができていない、選手引退後に協会を離れてしまうなどの課題が挙げられている。

5. 対応方針の検討

【p. 159～】

①指導者数・審判員数等スポーツ人材のアンバランス化の解消

- グラスルーツのスポーツの指導者は地域単位で養成、確保することが基本であるが、地位格差と競技格差が大きな問題である。その背景には、地域の競技団体の経営力も関係しており、人材不足、地域格差、競技格差を解消するためには、地域の競技団体のマネジメント人材をどのように配置するかを並行して考える必要がある。
- 有資格者は闇雲に増やせばよいというわけではなく、供給過多により活躍の場が制約されることもあり得る。一定期間のスパンで需給関係の把握を正確に行う必要がある。
- なり手の視点からは、指導者や審判員の高齢化や女性比率の低さなどのアンバラン

スから発生する人材不足を解消するためには、指導者や審判員のステータスや待遇改善、働きやすい環境の整備により、若年層が魅力を感じる仕事でなければならない。

②現場ニーズに即した指導者・審判員等の育成

- 育成計画を策定している競技団体は策定していない競技団体より指導者数が増加すると見込んでいる割合が高い。審判員に関しても、同様の結果がみられており、目標人数の設定および育成計画の策定は競技環境を支える人材確保に重要であるといえる。

③適切な人材配置を実現する仕組みづくり

- 指導者数および審判員数がおおむね充足している競技においても、実際に登録しているだけで稼働していない「ノンアクティブ指導者・審判員」が一定程度存在している。指導者・審判員の資格のレベルに応じた稼働の場があることが質の向上にもつながり、適正人数を考慮した配置の必要性が指摘されている。

④トップアスリートの競技力向上に向けた指導者・審判員等の育成方法の検討

- トップアスリートの育成環境では、能力・スキルの高い指導者・審判員の不足が指摘されている。上級レベルの指導者等を充実させるためには、より現場ニーズに即した必要スキルと能力を具現化し、育成手法を検討することが必要である。

⑤ジュニアの育成環境を充実させるための仕組みづくり

- ジュニア育成においては、指導者や審判員がボランティアで支えられている現状がある。保護者以外には、OB・OGや地域レベルで子供たちを支えているケースも多いことから、地域単位での指導者等育成・確保する方法の検討が重要だと思われる。
- また、パラスポーツにおいては医療的サポートが必須であり、ドクター、理学療法士等が指導者として選手に関わる。こうしたサポートが地域レベルでできる環境の構築が必要である。医療と支援学校との連携構築等、スポーツ専門家を軸に医療や教育といった多様なメンバーでチームを組んで選手を支えることが重要である。

I. 調査概要

調査概要

1. 調査目的

アスリートが競技活動終了後のキャリアにおいてスポーツで培った能力を発揮し活躍することは、アスリート自身の人生の充実という点のみならず、アスリートが有する価値を社会に還元する点においても重要である。また、アスリートの競技活動内外の継続的な活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、ひいては競技力の向上にも寄与する。

本調査では、アスリートを始めとするスポーツ界の多様な人材の一層の活用を図るための基礎的調査を行う。

現在、「ささえる」スポーツの担い手であるスポーツ指導者、審判員、その他の強化・運営スタッフは、スポーツ界において不可欠な存在であるが、その多くは兼業等により活動しており、本業の職場の理解や時間的制約、費用負担等、活動環境に様々な課題を抱えている。

このため本調査は、指導者、スタッフ等、スポーツに関わる人材の数、雇用形態、需要状況の全体像や課題を明らかにし、中央競技団体やその地方組織において強化活動や大会運営等を担う人材の活動環境に関する課題を抽出・検証するための、基礎的な調査研究を行うことを目的とし実施するものである。

《本調査におけるスポーツ人材の定義》

スポーツに関わる人材には、地域のクラブや部活動等でスポーツに取り組む人からトップレベルのアスリート、プロ選手まで含めた「プレイヤー」を中心に、指導者、医科学等の知見により選手を支える専門スタッフ、審判員やボランティアなど試合や大会を支える人材、試合を観戦し応援するサポーターがいる。さらに、こうしたスポーツ活動を成り立たせるために、スポーツ団体・チームの経営を担う人材や、国・地方でスポーツ政策の推進を担う人材がいるほか、スポーツ用品の製造やスポーツ施設運営などを行う民間事業者、スポーツの魅力を伝える報道関係者などがある。（出所：スポーツ庁「スポーツ審議会スポーツ基本計画部会」資料）

本調査では、これらのスポーツに関わる多様な人材のうち、指導者、審判員、選手やチームに直接関わるスタッフ（スポーツドクター、トレーナー、栄養士、アナリスト等）を調査対象とした。

また、本調査における「専業指導者」「専業審判員」「専業トレーナー」とは、それぞれ、指導者、審判員、トレーナーを本業としている者、「兼業指導者」「兼業審判員」「兼業トレーナー」とは、指導者、審判員、トレーナーの他に本業（他チームとの兼任を含む）がある者を指す。

2. 調査内容

（1）スポーツに関わる人材の全体像の把握のための調査の実施

「①競技団体、チームに対するアンケート」、「②指導者、審判員に対するアンケート」の2種類のアンケート調査を実施した。

①競技団体、チームに対するアンケート

●調査目的

指導者、スタッフ等スポーツに関わる人材の数、雇用形態、需要状況の全体像を把握するため、各競技団体及び関係団体等に対してアンケート調査等を実施した。

●調査方法

アンケート回答画面の URL・QR コードを記した依頼状をメール（電子媒体）添付の上、統括団体を介し対象先へ展開し、WEB アンケート画面から回答いただいた。

●調査期間

令和2年11月20日（金）に統括団体へ順次配布し、令和3年2月5日（金）まで回収を行った。

●調査内容

競技団体、チームに対するアンケートは、以下の4種類を実施した。なお、調査1はJOC及びJSPO加盟団体向けアンケートと、JPC加盟団体向けアンケートの2種類に分け、それぞれ調査1A、調査1Bとして実施した。

調査票の種類及び各調査の主な調査項目は、以下のとおりである。

調査 種別	調査票名	調査項目
調査 1A	中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO 加盟団体向け）	・競技別規模感…登録指導者数の人数 ・資格レベル別の需給バランス…資格別人数、過不足状況、増減見込み
調査 1B	中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC 加盟競技団体向け）	・給与実態（審判員のみ）…手当の有無、金額 ・運営上の課題…過不足の理由、感じている課題

調査 2	ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート	・競技別規模感、活動実態…専業／兼業別人数 ・雇用・給与実態…手当の有無、金額 ・運営上の課題…感じている課題
調査 3	トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート	・競技別規模感…人数、資格別人数 ・雇用実態…雇用形態 ・活動実態…年間活動日数 ・運営上の課題…過不足の理由、感じている課題
調査 4	スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート	・競技別規模感…専業／兼業別人数 ・雇用・給与実態…指導者の属性、手当の有無、金額 ・活動実態…指導者の属性 ・運営上の課題…過不足の理由、感じている課題

●調査対象及び回収結果

調査種別ごとの調査対象団体及び回収結果は以下のとおり。

調査種別	調査票名	対象団体	対象数	有効回答数 (有効回答率)
調査 1A	中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSP0 加盟団体向け）	JOC、JSP0 加盟団体及び準加盟団体	73 団体	61 (83.6%)
調査 1B	中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC 加盟競技団体向け）	JPC 加盟団体	49 団体 ¹	39 (79.6%)
調査 2	ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート	ナショナルチーム	121 団体	91 (72.2%)
調査 3	トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート	トップリーグ	12 リーグ 計 327 チーム	10 リーグ 計 123 チーム (37.9%)
調査 4	スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート	単位スポーツ少年団	登録する全単位団(約 3 万団体)	3,302 (10.6% ²)

調査 1A、調査 1B の調査対象となる具体的な競技団体は、以下のとおり。

¹ JPC 加盟団体のうち、知的障がい者スポーツ協会、ろうあ連盟スポーツ委員会の 2 団体については、特定の競技の団体でないため調査対象外とした。

² スポーツ少年団の回収率の分母は、公益財団法人日本スポーツ協会発表の「令和元年度 都道府県別競技別団数（31,282 団体）」とした。

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/R1_todouhukunbetudansu.pdf（令和 3 年 2 月 15 日アクセス）

図表 I-1 調査 1A 調査対象団体

日本スポーツ協会		日本オリンピック委員会
JSP0のみ正加盟 (14団体) 野球連盟 綱引連盟 少林寺拳法連盟 ゲートボール連合 パワーリフティング協会 (※JOC承) オリエンテーリング協会 (※JOC承) グラウンド・ゴルフ協会 バウンドテニス協会 エアロビクス連盟 スポーツチャンバラ協会 ドッジボール協会 チアリーディング協会 (※JOC準) ペタンク・ブール連盟 (※JOC承) 拳法競技連盟	JOC・JSP0両方に正加盟 (47団体) 陸上競技連盟 水泳連盟 サッカー協会 スキー連盟 テニス協会 ボート協会 ホッケー協会 ボクシング連盟 バレーボール協会 体操協会 バスケットボール協会 スケート連盟 レスリング協会 セーリング連盟 ウエイトリフティング協会 ハンドボール協会 自転車競技連盟 ソフトテニス連盟 卓球協会 軟式野球連盟 相撲連盟 馬術連盟 フェンシング協会 柔道連盟 ソフトボール協会 バドミントン協会 弓道連盟 ライフル射撃協会 剣道連盟 近代五種協会 ラグビーフットボール協会 山岳・スポーツクライミング協会 カヌー連盟 アーチERY連盟 空手道連盟 アイスホッケー連盟 銃剣道連盟 クレー射撃協会 なぎなた連盟 ボウリング協会 ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟 武術太極拳連盟 ゴルフ協会 カーリング協会 トライアスロン連合 バイアスロン連盟 ダンススポーツ連盟	JOCのみ加盟 正加盟 (6団体) 野球協会 スカッシュ協会 ビリヤード協会 ボディビル・フィットネス連盟 テコンドー協会 サーフィン連盟 JOCのみ加盟 準加盟 (3団体) カバディ協会 セバタクロウ協会 クリケット協会

図表 I-2 調査 1B 調査対象団体

日本パラリンピック委員会

JPC加盟（51団体中49団体が調査対象）

身体障害者アーチェリー連盟	テコンドー協会	ろう自転車競技協会
パラ陸上競技連盟	トライアスロン連合	ろう者サッカー協会
障がい者バドミントン連盟	肢体不自由者卓球協会	デフゴルフ協会
ブラインドマラソン協会	パラバレーボール協会	ろう者水泳協会
ボッチャ協会	車いすバスケットボール連盟	ろう者テニス協会
障害者カヌー協会	車いすフェンシング協会	ろうあ者卓球協会
パラサイクリング連盟	車いすラグビー連盟	デフビーチバレーボール協会
障がい者乗馬協会	車いすテニス協会	デフバレーボール協会
ブラインドサッカー協会	パラアイスホッケー協会	ろう者スキー協会
CPサッカー協会	障害者スキー連盟	知的障がい者陸上競技連盟
ゴールボール協会	車いすカーリング協会	FIDバスケットボール連盟
視覚障害者柔道連盟	視覚障害者ボウリング協会	知的障がい者サッカー連盟
パラ・パワーリフティング連盟	ローンボウルズ日本	知的障害者水泳連盟
ボート協会	デフ陸上競技協会	知的障がい者卓球連盟
障害者セーリング協会	デフバドミントン協会	ろう者柔道協会
障害者スポーツ射撃連盟	デフバスケットボール協会	※知的障がい者スポーツ協会
身体障がい者水泳連盟	ろう者ボウリング連合	※ろうあ連盟スポーツ委員会

※本調査の目的に鑑み、知的障がい者スポーツ協会、ろうあ連盟スポーツ委員会は特定の競技の団体でないことから、調査対象外とした。

②指導者、審判員に対するアンケート

●調査目的

スポーツに関わる人材の活動状況、抱えている課題等についての詳細を明らかにするため、指導者、専門スタッフ、審判としての活動経験者に対してアンケート調査を実施した。

●調査方法

無記名式のインターネット方式

●調査期間

令和2年12月3日（木）～令和2年12月8日（火）

●調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・スポーツ活動に関わる活動経験
- ・活動状況…活動範囲、競技、活動頻度、専業／兼業、手当、指導者等の充足状況
- ・求められる能力や経験・キャリアパス…求められる能力、修得方法、競技経験、保有資格
- ・活動する上での課題

●調査対象及び回収結果

i) スクリーニング調査

インターネット調査会社が保有する約 430,000 人のリサーチモニターに対して、以下に該当する者を抽出し、調査対象とした。

- ・スポーツ活動に関わる活動として、指導者（監督・コーチ）・専門スタッフ³・審判員いずれかの経験がある。

ii) 本調査

スクリーニング調査で抽出したリサーチモニターに対して、本調査を実施し、指導者、専門スタッフ、審判員いずれかの経験者 3,000 人から回収を行った。

年代、性別で均等になるよう以下のとおり割り付けを行った。

³ スポーツチームのスタッフ：スポーツドクター、トレーナー、栄養士、アナリスト等

属性		回収数
1	男性／20代以下	304
2	男性／30代	304
3	男性／40代	303
4	男性／50代	303
5	男性／60代以上	303
6	女性／20代以下	283
7	女性／30代	304
8	女性／40代	289
9	女性／50代	304
10	女性／60代以上	303
合計		3,000

（２）調査結果の分析と考察

上記（１）の分析結果等とともに、中央競技団体やその地方組織において強化活動や大会運営等を担う人材の活動環境に関する課題について取りまとめた。

II. スポーツ・パラスポーツに関わる人材に関する調査結果

スポーツ・パラスポーツに関わる人材に関する調査結果

1. スポーツの指導者・審判員に関するアンケート

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート

(JOC、JSP0 加盟団体向け)

1 団体概要

- 都道府県協会の登録・加盟数をみると、「47 団体」とすべての都道府県協会が登録・加盟している中央競技団体が 39 団体と最も多く、都道府県協会の登録・加盟数平均は全体で 39.6 団体である。
- 市区町村協会の登録・加盟数をみると、「0 団体」と登録・加盟協会がない中央競技団体が 47 団体と最も多く、市区町村協会の登録・加盟数平均は全体で 112.8 団体である。
- チーム数の登録・加盟数をみると、「0 団体」と登録・加盟チームがない中央競技団体が 29 団体と最も多く、登録・加盟チーム数の平均は全体で 5,144.8 チームである。
- 競技者数の登録・加盟数をみると、「10,001 人以上」が 26 団体と最も多く、登録・加盟競技者数の平均は全体で 149,495.1 人である。

問 2. 貴団体に登録・加盟している団体数、競技者数を数字でお答えください。⁴

図表 II-1 登録・加盟団体数及び競技者数

	1.都道府県協会（団体数）		2.市区町村協会（団体数）		3.チーム（団体数）		4.登録・加盟競技者数
0団体	2	0団体	47	0団体	29	0人（不明等）	2
1～10団体	4	1～10団体	3	1～50団体	4	1～500人	5
11～20団体	2	11～20団体	1	51～100団体	1	501～1,000人	3
21～46団体	10	21～50団体	1	101～200団体	2	1,001～3,000人	7
47団体	39	51～100団体	3	201～500団体	10	3,001～5,000人	6
48団体以上	4	100団体以上	6	501団体以上	15	5,001～10,000人	12
平均	39.6	平均	112.8	平均	5,144.8	10,001人以上	26
最大	70	最大	3,567	最大	144,458	平均	149,495.1
最小	0	最小	0	最小	0	最大	3,002,074
回答件数	61	回答件数	61	回答件数	61	最小	0
						回答件数	61

上記以外に、地域協会（全国 8 地域）、実業団連盟、学生連盟、高等学校体育連盟、中学校体育連盟、クラブチーム等が加盟しているケースがある。

⁴ 問 1 は「団体名」を問う設問のため省略

2 指導者

① 人数

- 回答団体の平均登録指導者数は 6,046.4 人であり、最も多いのは「5,001 人以上」である。
- JSPO 加盟団体の登録指導者数は年々増加傾向にあり、2020 年 10 月 1 日時点の総数は 164,811 人である。
- 登録指導者数が最も多い競技はサッカーで 39,550 人である。次にバレーボールが 19,178 人、水泳が 16,338 人と、上位 3 競技で登録指導者全体の 45.5%を占めている。
- 年代別では、40 代が 41,972 人で全体の 25.5%、50 代が 37,478 人で 22.7%である。
- 性別では、男性が 129,791 人で全体の 78.8%、女性が 35,020 人で 21.2%である。
- 資格別指導者数では、コーチ 1 が 119,684 人で最も多く、コーチ 3 が 22,739 人、コーチ 2 が 11,509 人である。
- 競技者 1 人当たりの指導者数はテニスが 1.5 人で最も多く、次にエアロビックが 1.02 人である。
- 競技団体が独自に認定する資格は「ある（1 つある・2 つある・3 つ以上ある）」が 51.7%、「ない」が 48.3%である。

問 3. 2020 年 10 月時点における、貴団体への登録指導者の総数（協同認定資格と独自認定資格の合計）を数字でお答えください。

図表 II-2 登録指導者の総数

	登録指導者の総数
0人	6
1～100人	6
101～500人	9
501～1,000人	8
1,001～3,000人	12
3,001～5,000人	6
5,001人以上	13
平均	6,046.4
最大	86,353
最小	0
回答件数	60

登録指導者については、JSPO より過去 10 年間の競技別、指導者資格別、男女別、年代別人数のデータ提供を受け、集計した。なお、本アンケートが調査対象とした競技団体のうち 18 団体は JSPO 提供データには含まれていない。また、JSPO 提供データのうち、本アンケートの調査対象外である 6 競技については集計から除外した。

《JSPO 提供データに含まれない競技・競技団体》

野球連盟、野球協会、少林寺拳法、武術太極拳、オリエンテーリング、スポーツチャンバラ、ペタンク・ブール、拳法競技、ワールド スケート ジャパン、フライングディスク、スカッシュ、ビリヤード、ボディビル・フィットネス、テコンドー、サーフィン、カバディ、セパタクロー、クリケット

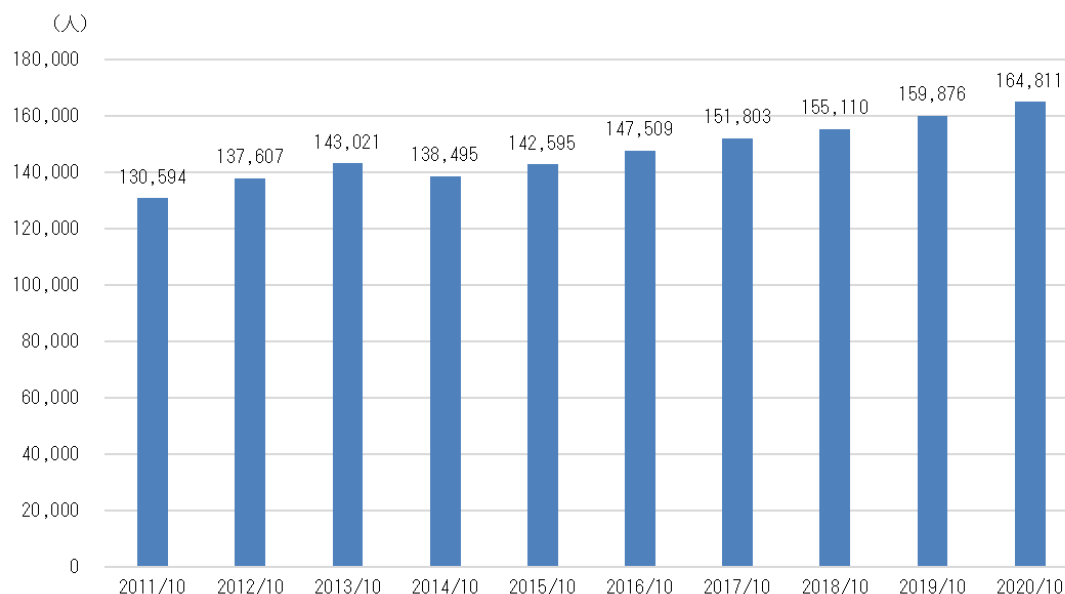
《JSPO 提供データのうち、調査対象外の競技》

ローラースポーツ、プロゴルフ、プロテニス、プロスキー、スクーバ・ダイビング、その他

i) 過去 10 年の指導者数の推移

登録指導者数の推移をみると、年々増加傾向にあり、2020 年 10 月時点で 164,811 人である。

図表 II-3 登録指導者数の推移

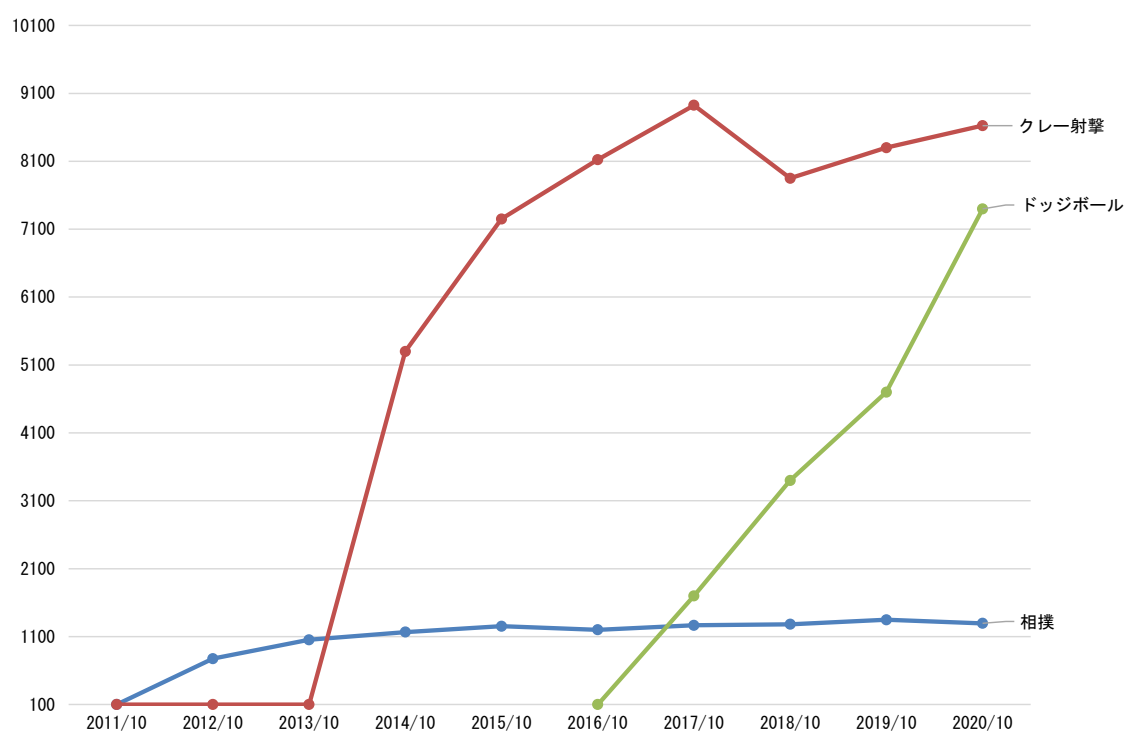


【出所】 JSPO 提供データ

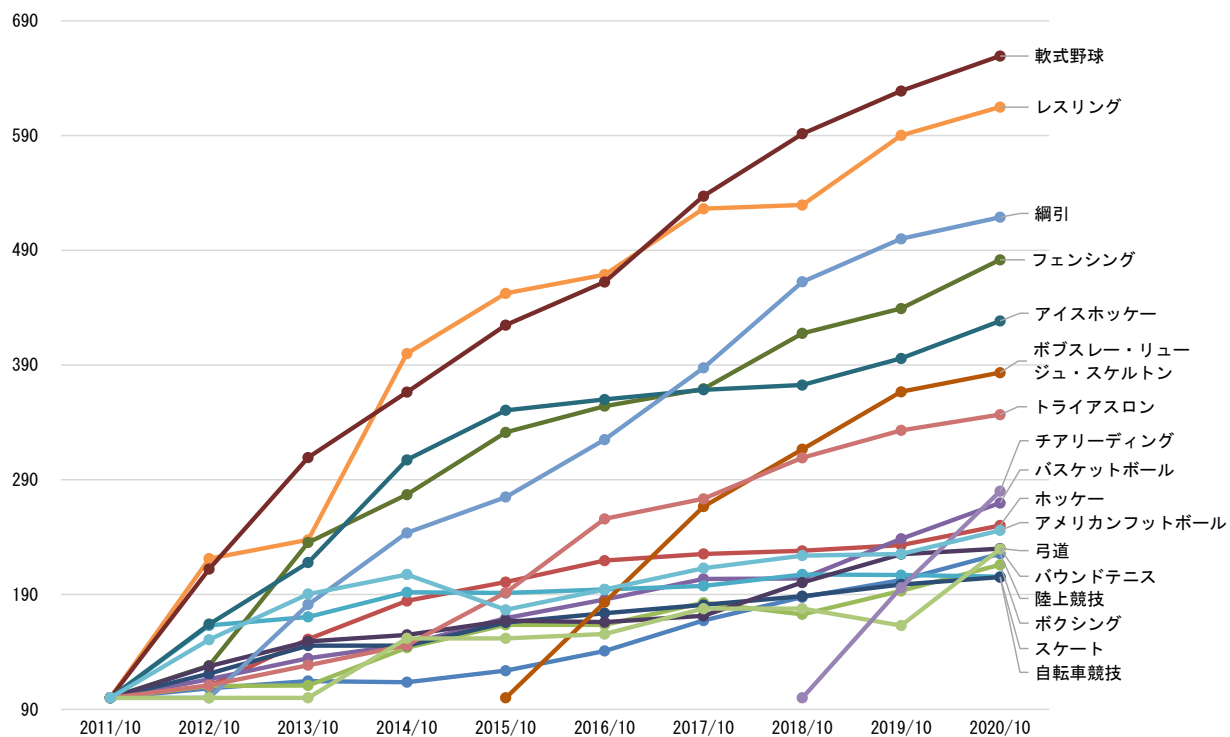
2011 年の指導者数を 100 とし、指導者数を指数化してその推移をみると、多くの競技で指導者数が増加傾向にある。

また、2011 年と 2020 年の指導者数を比較すると、42 競技が増加、4 競技が横ばい、9 競技が減少している。なお、2011 年と 2020 年の比較で増減が±5%以下の競技を横ばいと定義した。以下に、指導者数の増減率により分類した、指導者数指数の推移を示す。

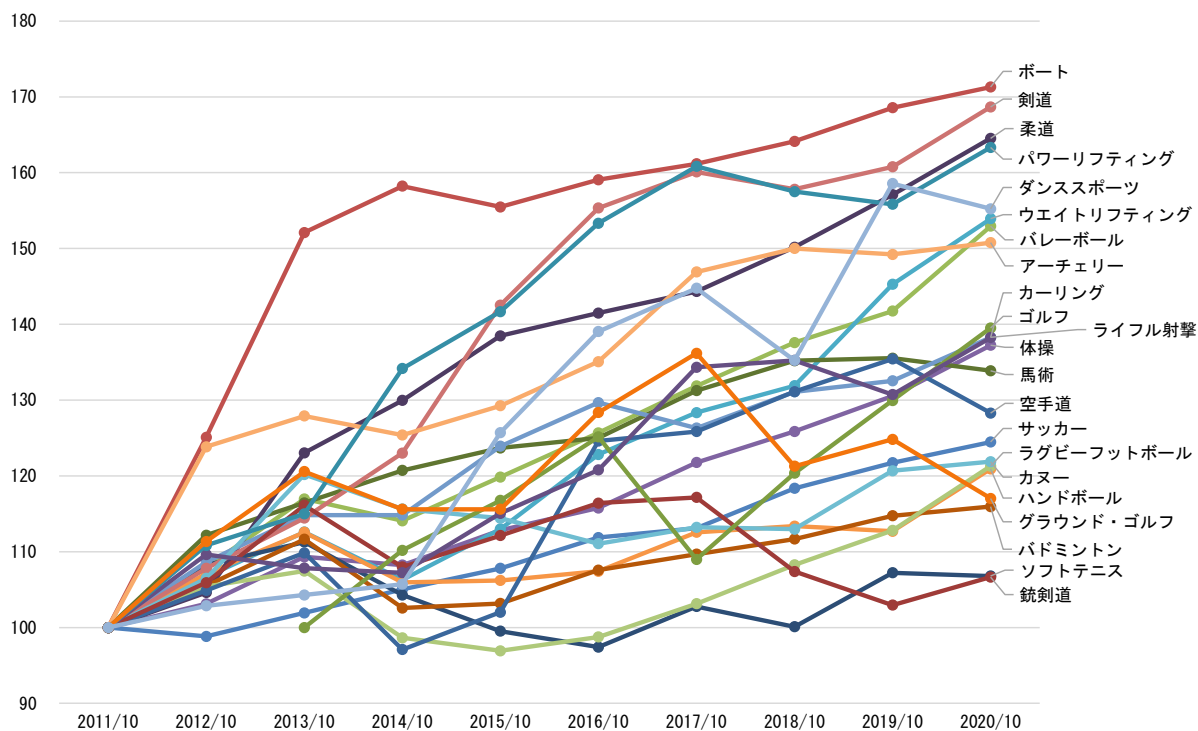
図表 II-4 競技別にみた指導者数指数の推移（2011 年＝100） ※1000%以上増加



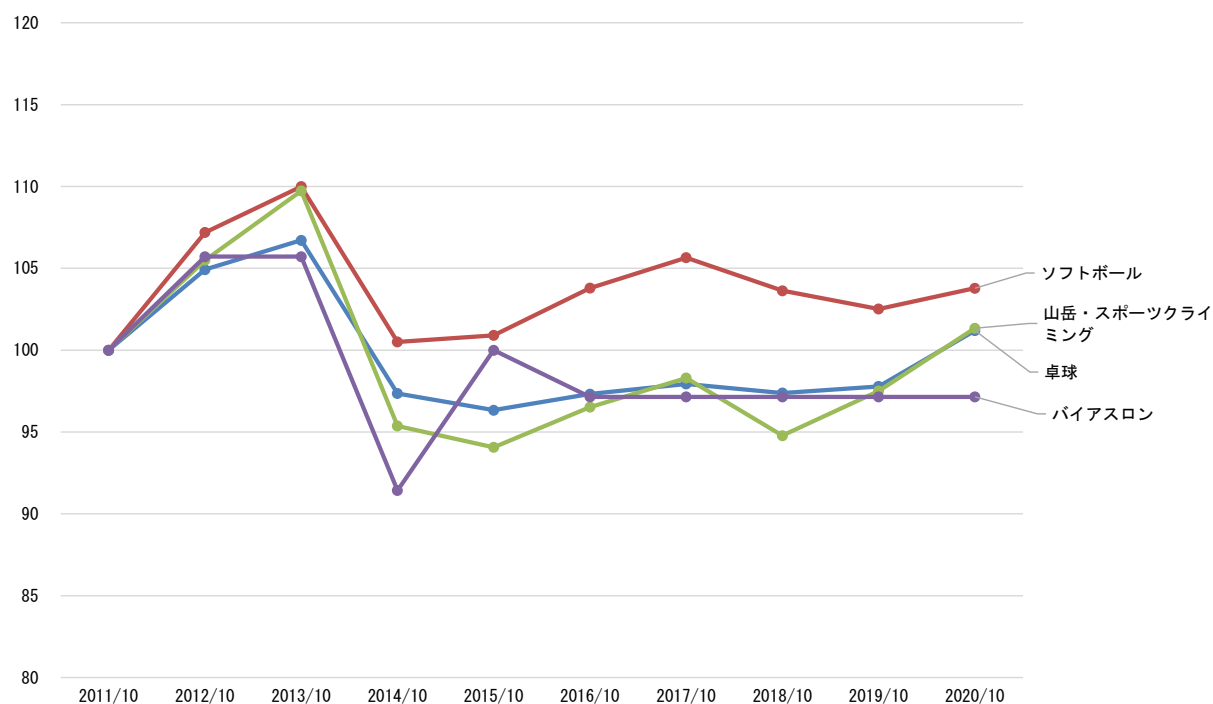
図表 II-5 競技別にみた指導者数指数の推移（2011 年＝100） ※200%以上 1000%未満
増加



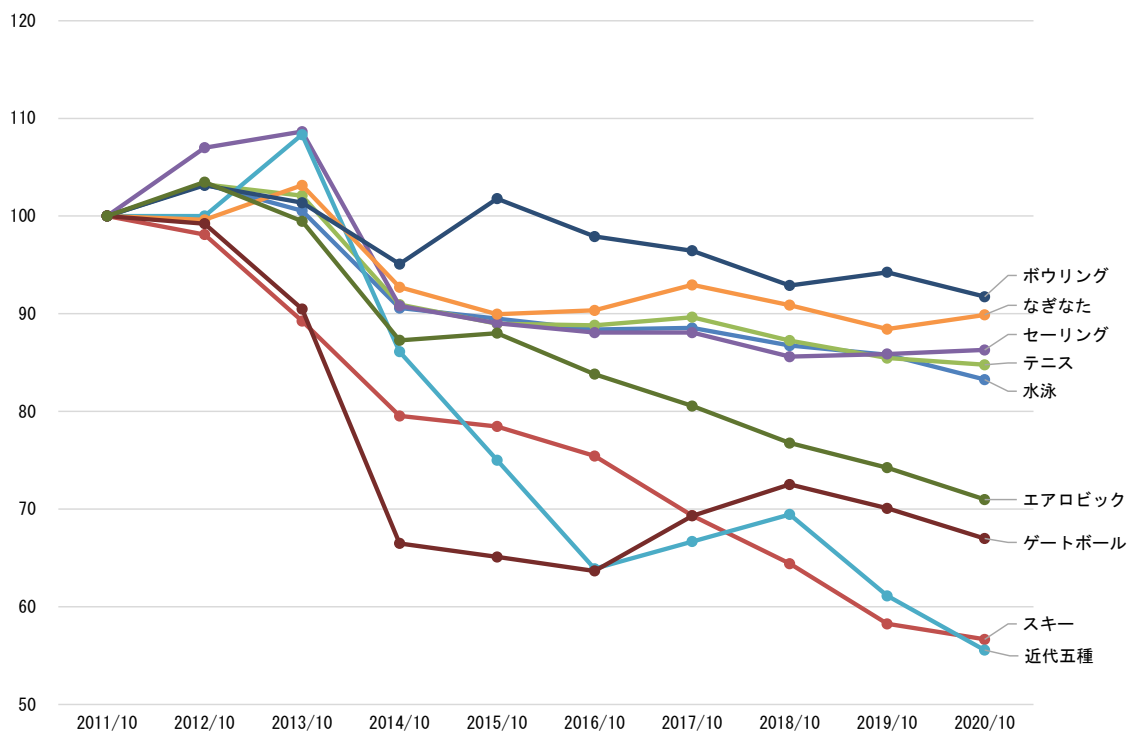
図表 II-6 競技別にみた指導者数指数の推移（2011 年＝100） ※200%未満増加



図表 II-7 競技別にみた指導者数指数の推移（2011 年＝100） ※横ばい



図表 II-8 競技別にみた指導者数指数の推移（2011 年＝100） ※減少

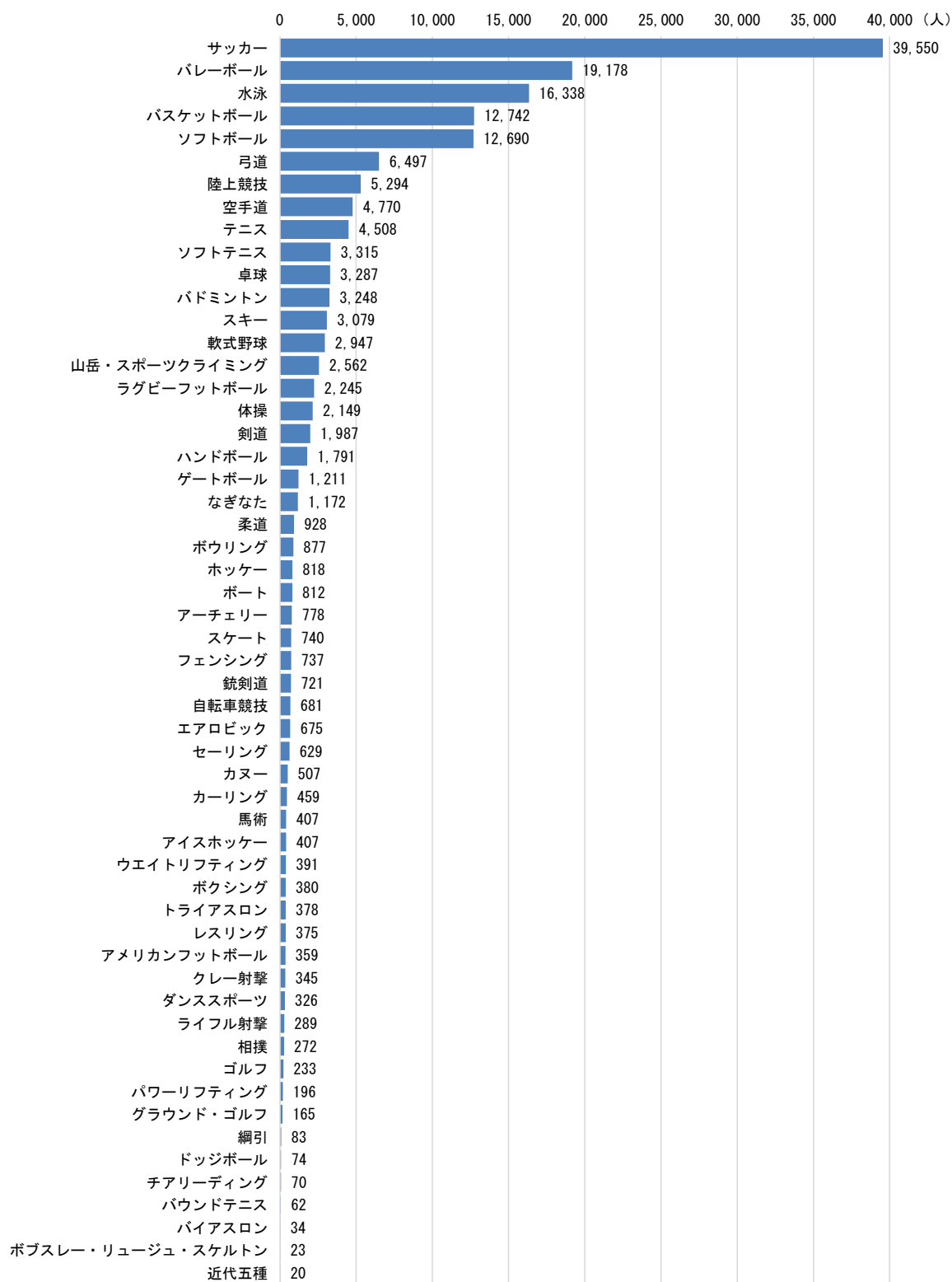


【出所】JSPO 提供データ

ii) 直近(2020年10月1日時点)の指導者数

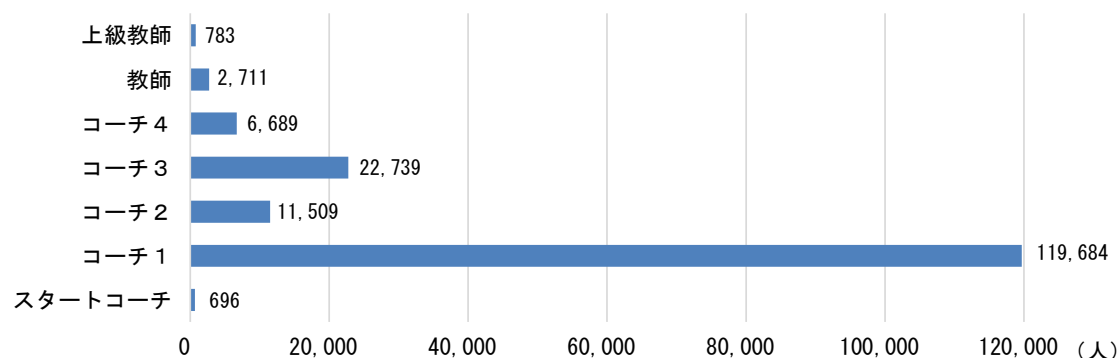
次に、2020年10月1日時点での競技別、資格別、年代別・男女別の登録指導者数、指導者1人当たりの競技者数を示す。なお、指導者1人当たりの競技者数(図表 II-12)の集計には JSPO 提供データに加えアンケート調査結果の値を用いたため、アンケートに未回答の競技は含まれない。

図表 II-9 競技別 登録指導者数（2020 年 10 月 1 日時点）



【出所】 JSPO 提供データ

図表 II-10 資格別 登録指導者数（2020 年 10 月 1 日時点）⁵



【出所】JSPO 提供データ

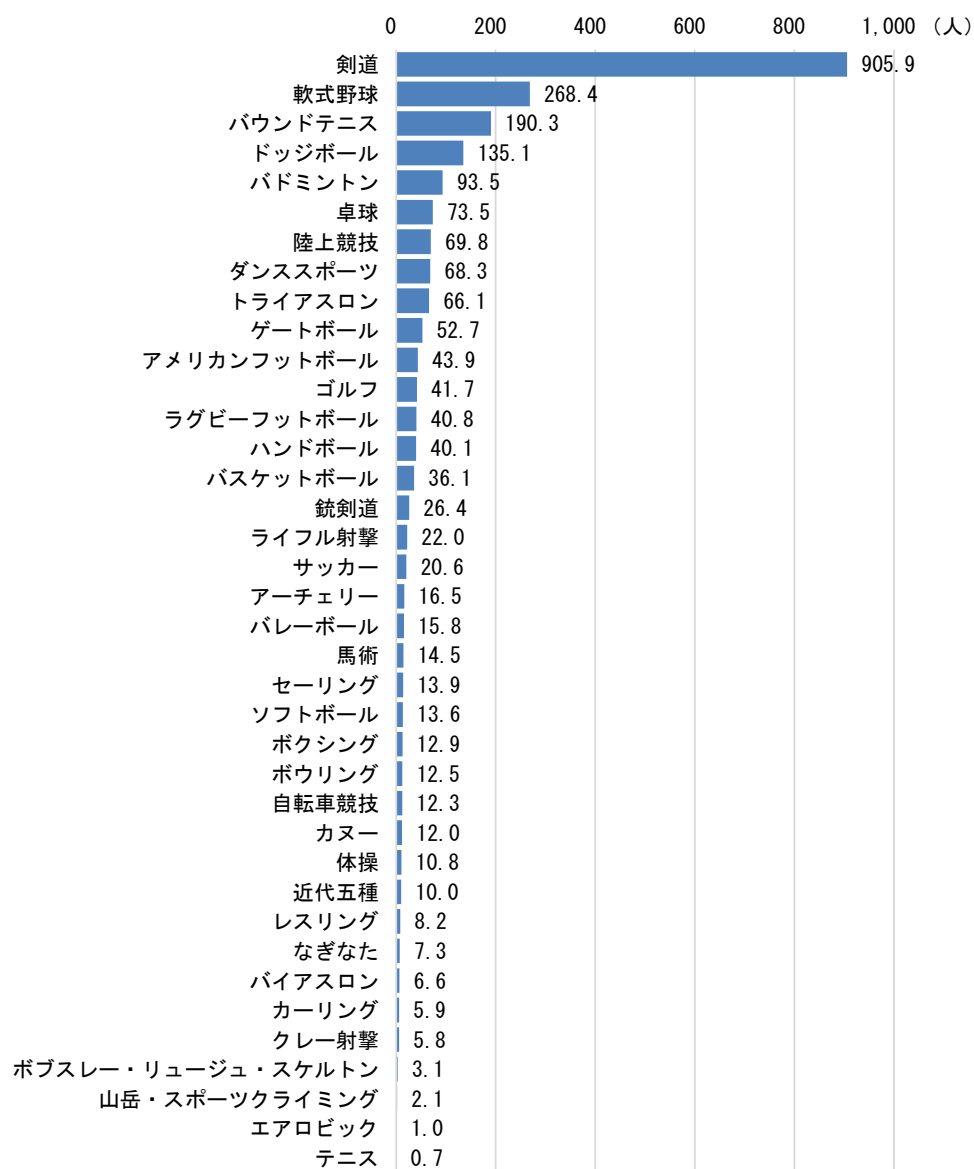
図表 II-11 年代別・男女別 登録指導者数（2020 年 10 月 1 日時点）

		20代以下		30代		40代		50代		60代		70代以上		合計
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
スタート コーチ	男性	26	5.7%	102	22.4%	205	45.0%	72	15.8%	41	9.0%	10	2.2%	456
	女性	24	10.0%	85	35.4%	99	41.3%	22	9.2%	7	2.9%	3	1.3%	240
	小計	50	7.2%	187	26.9%	304	43.7%	94	13.5%	48	6.9%	13	1.9%	696
コーチ 1	男性	9,160	9.8%	17,240	18.4%	25,614	27.4%	21,509	23.0%	13,073	14.0%	6,920	7.4%	93,516
	女性	3,146	12.0%	3,972	15.2%	5,804	22.2%	5,918	22.6%	4,664	17.8%	2,664	10.2%	26,168
	小計	12,306	10.3%	21,212	17.7%	31,418	26.3%	27,427	22.9%	17,737	14.8%	9,584	8.0%	119,684
コーチ 2	男性	51	0.6%	328	3.7%	889	10.1%	1,772	20.1%	3,124	35.4%	2,665	30.2%	8,829
	女性	24	0.9%	106	4.0%	332	12.4%	595	22.2%	815	30.4%	808	30.1%	2,680
	小計	75	0.7%	434	3.8%	1,221	10.6%	2,367	20.6%	3,939	34.2%	3,473	30.2%	11,509
コーチ 3	男性	1,337	7.2%	4,819	25.9%	5,588	30.1%	4,198	22.6%	1,945	10.5%	699	3.8%	18,586
	女性	741	17.8%	948	22.8%	1,026	24.7%	722	17.4%	448	10.8%	268	6.5%	4,153
	小計	2,078	9.1%	5,767	25.4%	6,614	29.1%	4,920	21.6%	2,393	10.5%	967	4.3%	22,739
コーチ 4	男性	39	0.6%	824	13.4%	1,788	29.1%	1,634	26.6%	1,139	18.6%	711	11.6%	6,135
	女性	12	2.2%	74	13.4%	161	29.1%	132	23.8%	97	17.5%	78	14.1%	554
	小計	51	0.8%	898	13.4%	1,949	29.1%	1,766	26.4%	1,236	18.5%	789	11.8%	6,689
教師	男性	226	13.9%	215	13.2%	261	16.0%	471	28.9%	378	23.2%	79	4.8%	1,630
	女性	144	13.3%	190	17.6%	159	14.7%	284	26.3%	195	18.0%	109	10.1%	1,081
	小計	370	13.6%	405	14.9%	420	15.5%	755	27.8%	573	21.1%	188	6.9%	2,711
上級教師	男性	1	0.2%	15	2.3%	37	5.8%	117	18.3%	325	50.9%	144	22.5%	639
	女性	0	0.0%	1	0.7%	9	6.3%	32	22.2%	49	34.0%	53	36.8%	144
	小計	1	0.1%	16	2.0%	46	5.9%	149	19.0%	374	47.8%	197	25.2%	783
全体	男性	10,840	8.4%	23,543	18.1%	34,382	26.5%	29,773	22.9%	20,025	15.4%	11,228	8.7%	129,791
	女性	4,091	11.7%	5,376	15.4%	7,590	21.7%	7,705	22.0%	6,275	17.9%	3,983	11.4%	35,020
	合計	14,931	9.1%	28,919	17.5%	41,972	25.5%	37,478	22.7%	26,300	16.0%	15,211	9.2%	164,811

【出所】JSPO 提供データ

⁵ スタートコーチの養成を行っているのはバレーボールのみ。上級教師、教師の養成を行っているのは水泳、スキー、テニス、スケート、エアロビックスの 5 競技。

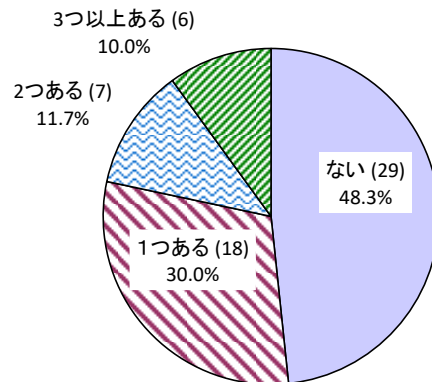
図表 II-12 指導者 1 人当たりの競技者数（2020 年 10 月 1 日時点）



【出所】 JSPO 提供データ、アンケート結果

問 4. JSPO との協同認定資格以外に、貴団体が独自に認定する指導者資格はありますか。

図表 II-13 団体が独自に認定する指導者資格の有無（独自認定資格数別）



問 4-1. 貴団体が独自に認定する資格について、具体的な資格名をお答えください。

団体独自の資格としては、普及指導員、学童コーチ、キッズリーダー、インストラクタ、ディレクタ、テクニカル・アドバイザー、強化コーチ、S 級コーチ等が挙げられている。

問 4-2. 上記の資格保有者の人数を数字でお答えください。（2020/10/1 時点の人数をご記入ください）

図表 II-14 団体独自の指導者資格保有者数

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	10,525	14,335	21,069	9,316	44,589	66,664	166,498
平均	172.5	235.0	345.4	152.7	731.0	1,092.9	2,729.5
最大	7,485	11,006	14,496	5,443	39,181	47,464	47,464
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	61	61	61	61	61	61	61

図表 II-15 団体独自の指導者資格保有者数（女性）

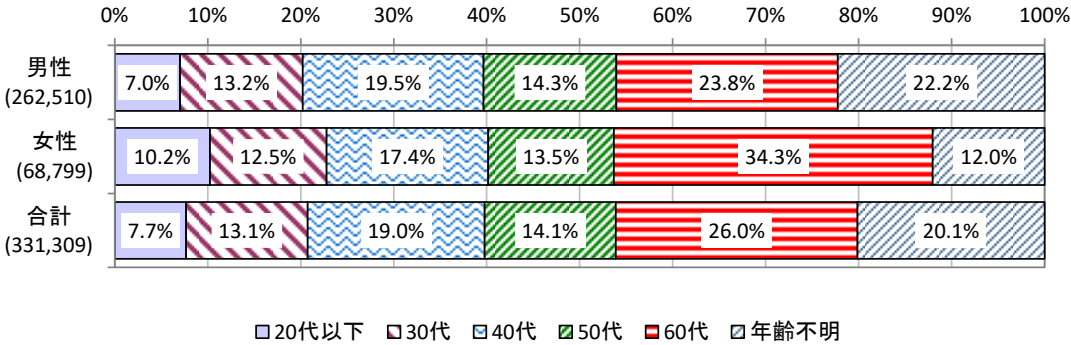
	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	2,950	3,257	4,367	1,600	13,333	8,272	33,779
平均	48.4	53.4	71.6	26.2	218.6	135.6	553.8
最大	2,648	3,068	4,033	1,234	12,054	5,021	12,054
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	61	61	61	61	61	61	61

図表 II-16 団体独自の指導者資格保有者の女性比率

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
女性比率	28.1%	22.7%	20.8%	17.3%	29.9%	12.4%	20.3%

JSPO 登録指導者数（図表 II-11）と団体独自の指導者数（図表 II-14、図表 II-15）より、スポーツ指導者全体での人数、年代別構成比は以下のとおりである。

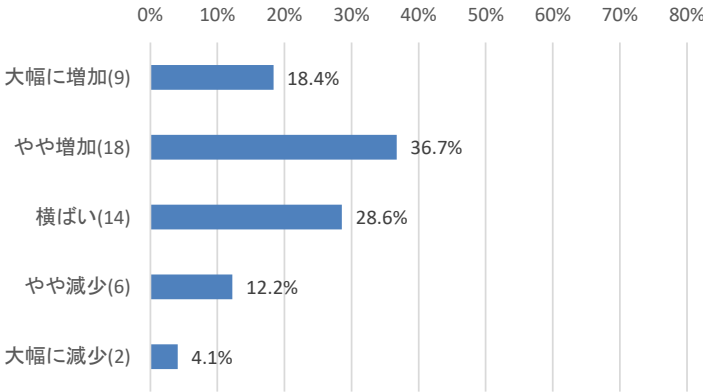
図表 II-17 スポーツ指導者全体の人数・構成比



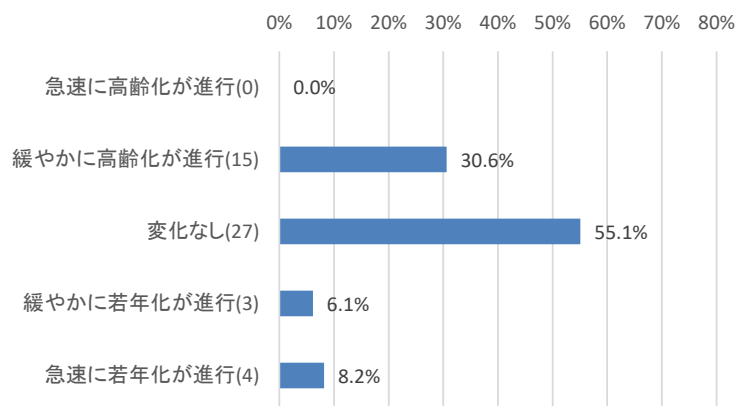
		20代以下		30代		40代		50代		60代以上		年齢不明		合計
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
JSPO登録指導者	男性	10,840	8.4%	23,543	18.1%	34,382	26.5%	29,773	22.9%	31,253	24.1%	-	-	129,791
	女性	4,091	11.7%	5,376	15.4%	7,590	21.7%	7,705	22.0%	10,258	29.3%	-	-	35,020
	合計	14,931	9.1%	28,919	17.5%	41,972	25.5%	37,478	22.7%	41,511	25.2%	-	-	164,811
団体独自資格	男性	7,575	5.7%	11,078	8.3%	16,702	12.6%	7,716	5.8%	31,256	23.6%	58,392	44.0%	132,719
	女性	2,950	8.7%	3,257	9.6%	4,367	12.9%	1,600	4.7%	13,333	39.5%	8,272	24.5%	33,779
	合計	10,525	6.3%	14,335	8.6%	21,069	12.7%	9,316	5.6%	44,589	26.8%	66,664	40.0%	166,498
合計	男性	18,415	7.0%	34,621	13.2%	51,084	19.5%	37,489	14.3%	62,509	23.8%	58,392	22.2%	262,510
	女性	7,041	10.2%	8,633	12.5%	11,957	17.4%	9,305	13.5%	23,591	34.3%	8,272	12.0%	68,799
	合計	25,456	7.7%	43,254	13.1%	63,041	19.0%	46,794	14.1%	86,100	26.0%	66,664	20.1%	331,309

問 5. （独自認定資格について）指導者の過去 5 年間の変化についてお答えください。※
貴団体としての印象でお答えください。

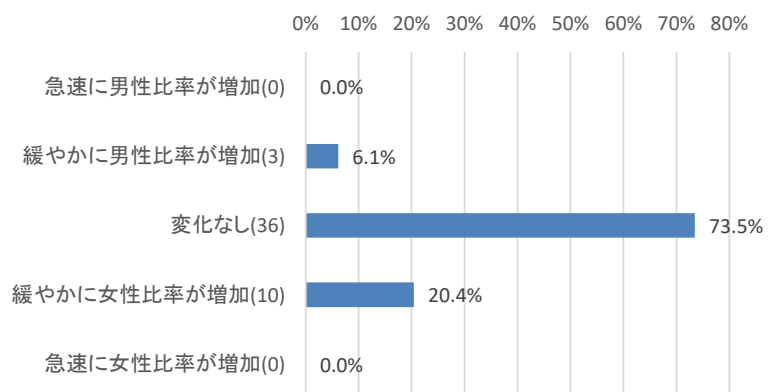
図表 II-18 独自資格指導者数 過去 5 年間の変化



図表 II-19 独自資格指導者の年齢層 過去5年間の変化



図表 II-20 独自資格指導者の男女比 過去5年間の変化

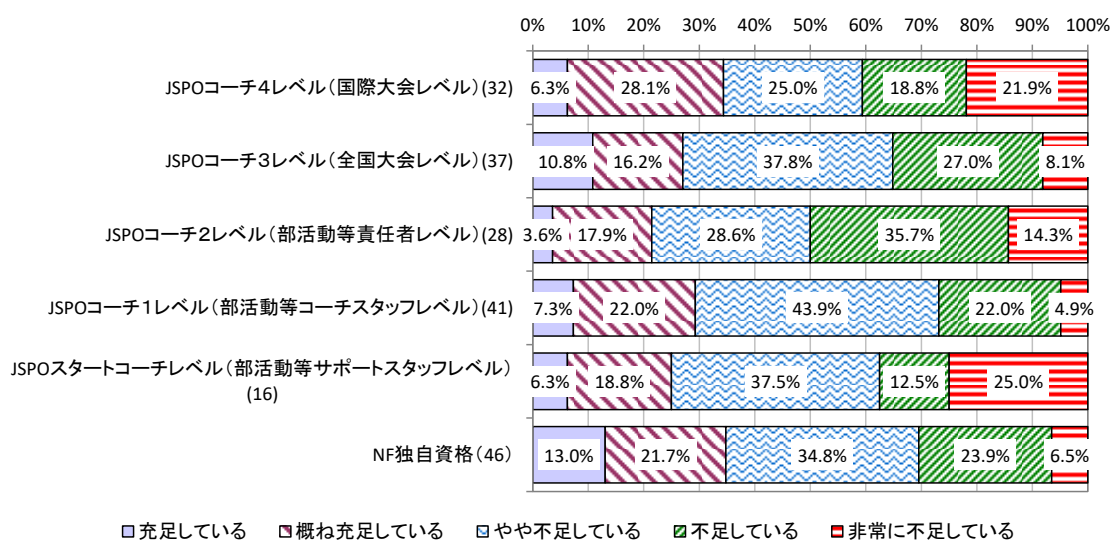


② 需給状況

- コーチレベル別の指導者の過不足状況について、不足（やや不足している+不足している+非常に不足している）を見ると、JSPO コーチ2レベルが 78.6%で最も高く、次に JSPO スタートコーチレベルが 75.0%である。
- 過不足の理由や背景は「必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、より多くの指導者の確保が必要と感じている」が 39.7%で最も高く、次に「現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している」が 25.9%である。
- コーチレベル別の5年後の増減見込みは、増加（大幅に増加+やや増加）を見ると、JSPO スタートコーチレベルが 66.7%と最も高く、次に JSPO コーチ3レベルが 59.5%である。

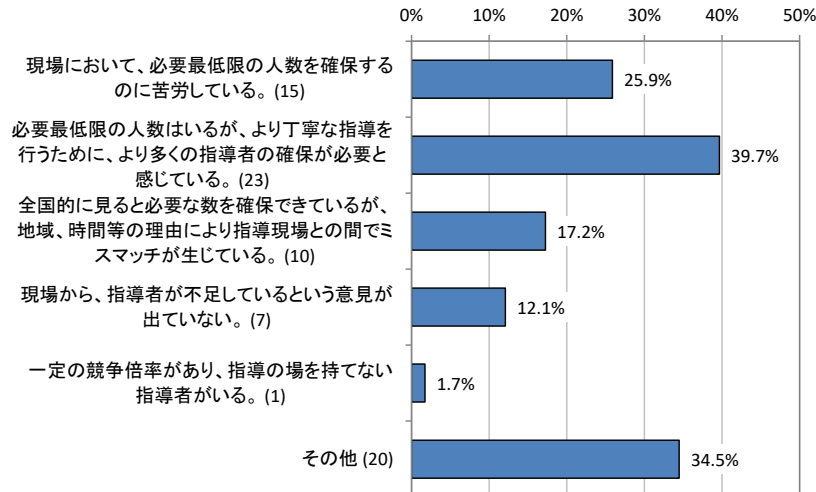
問 6. 下記の間 6-1 の選択肢を参照の上、貴競技の指導者数の過不足状況をお答えください。

図表 II-21 コーチレベル別 指導者の過不足状況



問 6-1. 問 6 の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(複数回答)

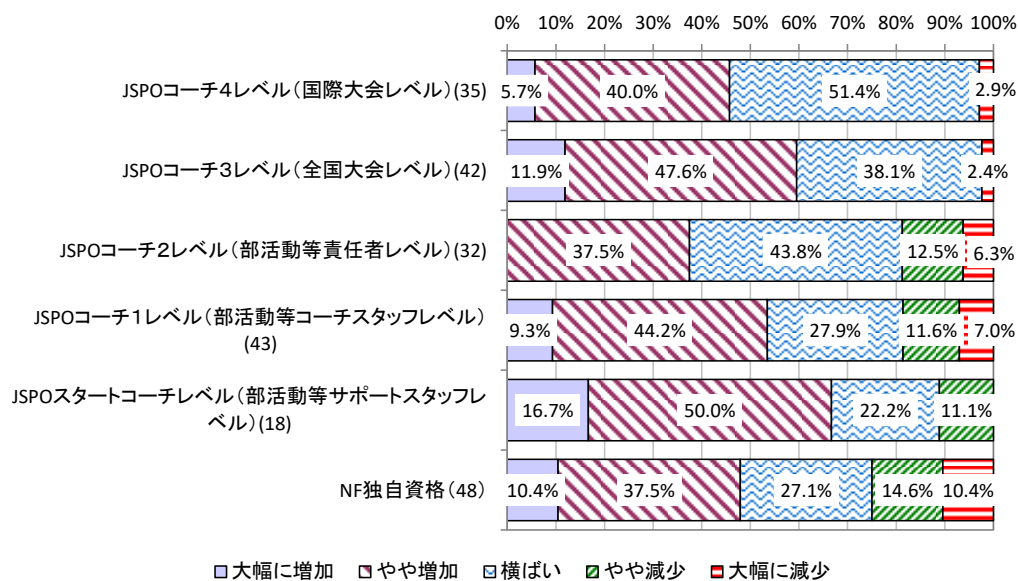
図表 II-22 過不足の理由や背景



その他の理由としては、不足はしているが指導の場や競技大会そのものが少ない、競技人口が少ないという回答や、競技大会が問題なく開催できているという回答がみられた。また、指導現場に資格条件がなく人数の過不足が資格と連動していない、指導者システムが確立していないといった、指導者配置の仕組みに関わる背景も挙げられている。

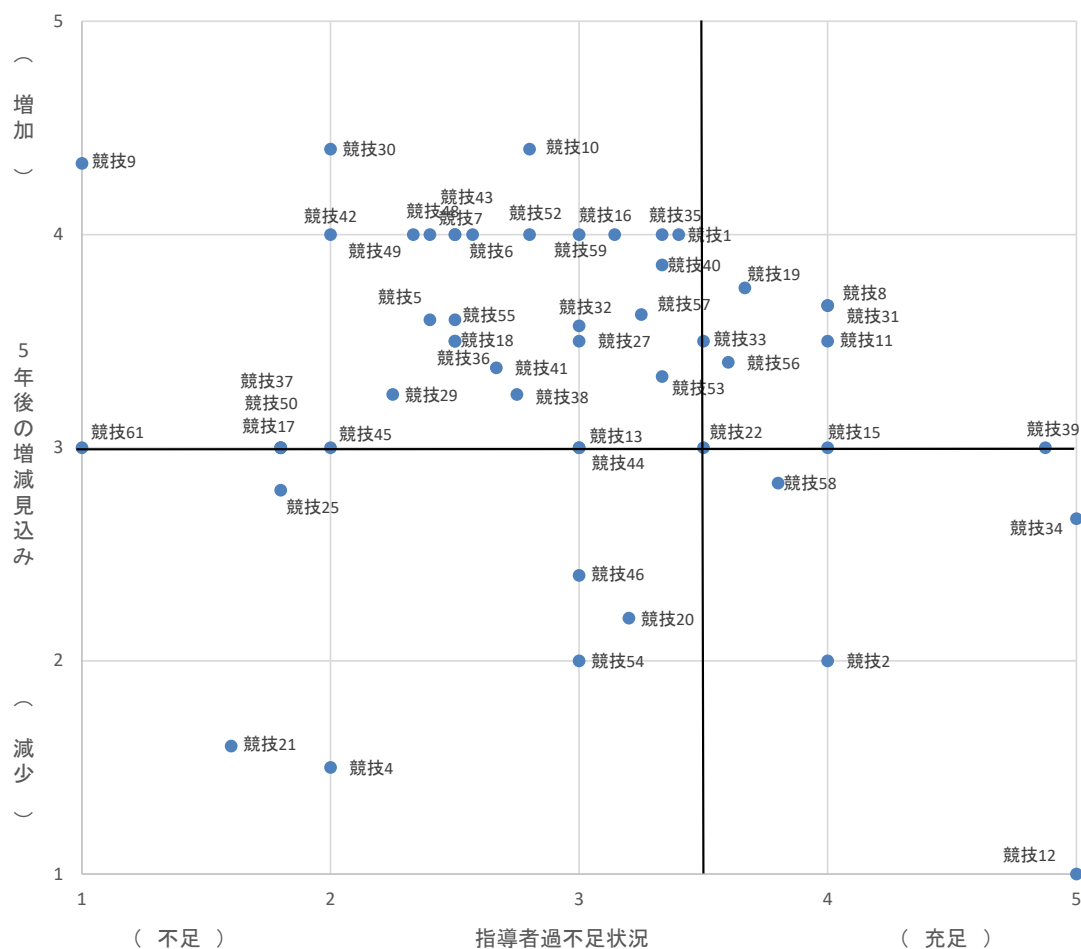
問 7. 将来（５年後）の指導者数の増減見込みをお答えください。

図表 II-23 JSPO コーチレベル別 ５年後の指導者数の増減見込み



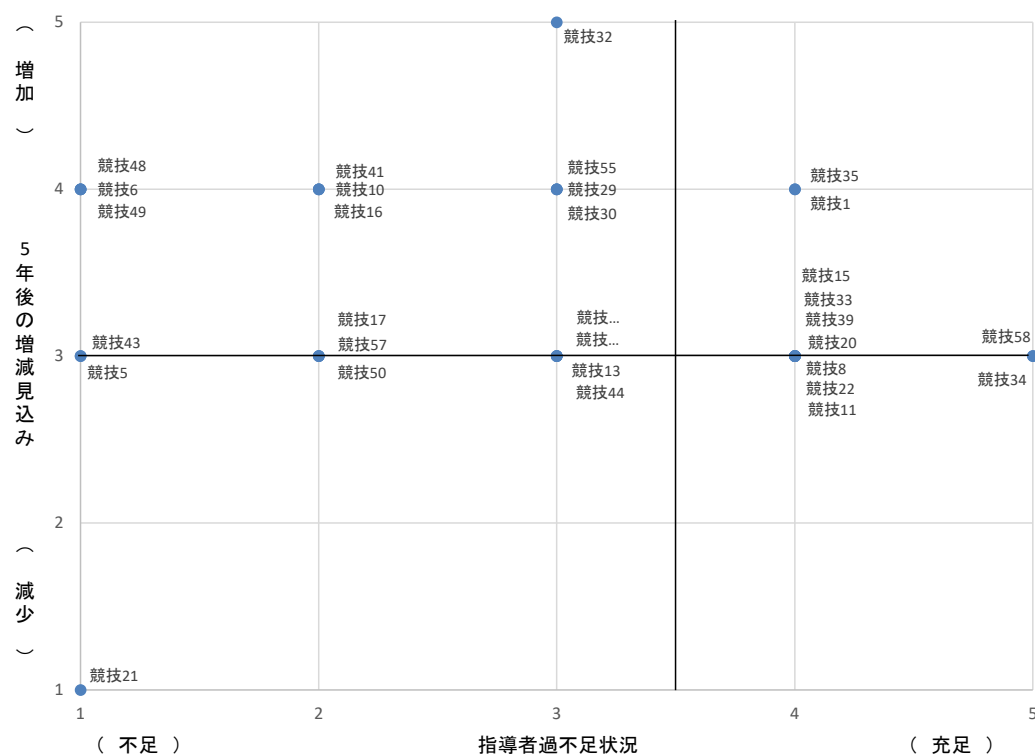
【クロス分析：問6指導者数過不足状況×問7増減見込み】⁶

図表 II-24 指導者全体（全コーチレベルの平均）

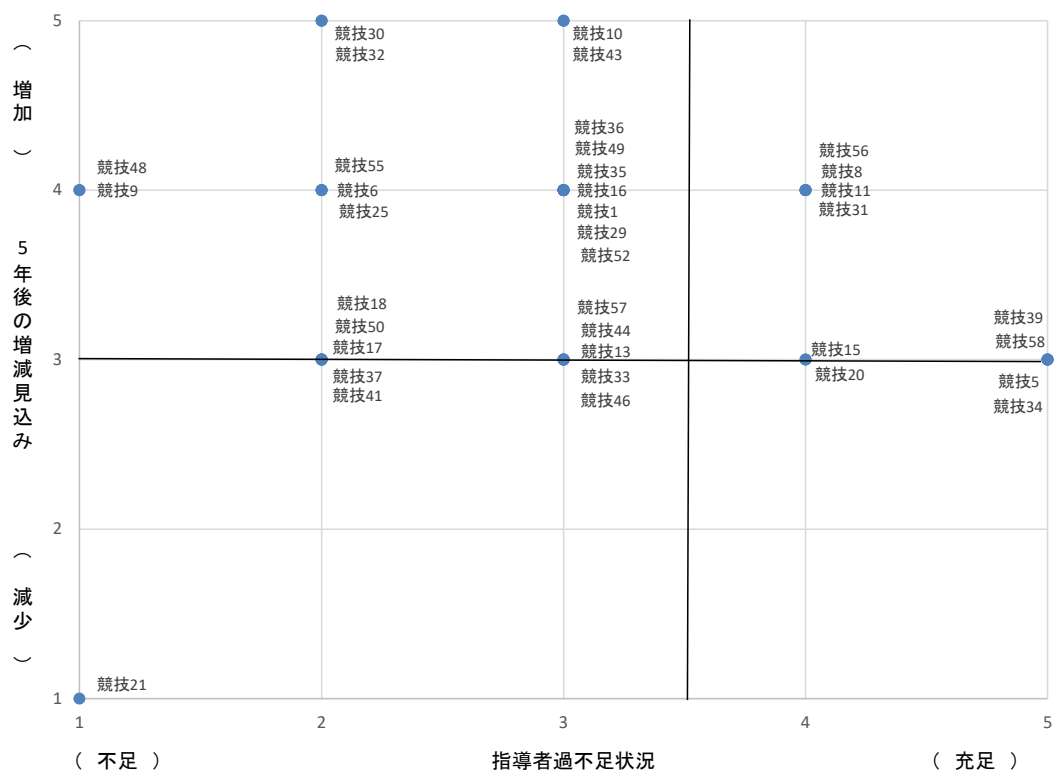


⁶ 問6・問7の両方に回答した団体のみ集計。競技名は一部省略して表示。

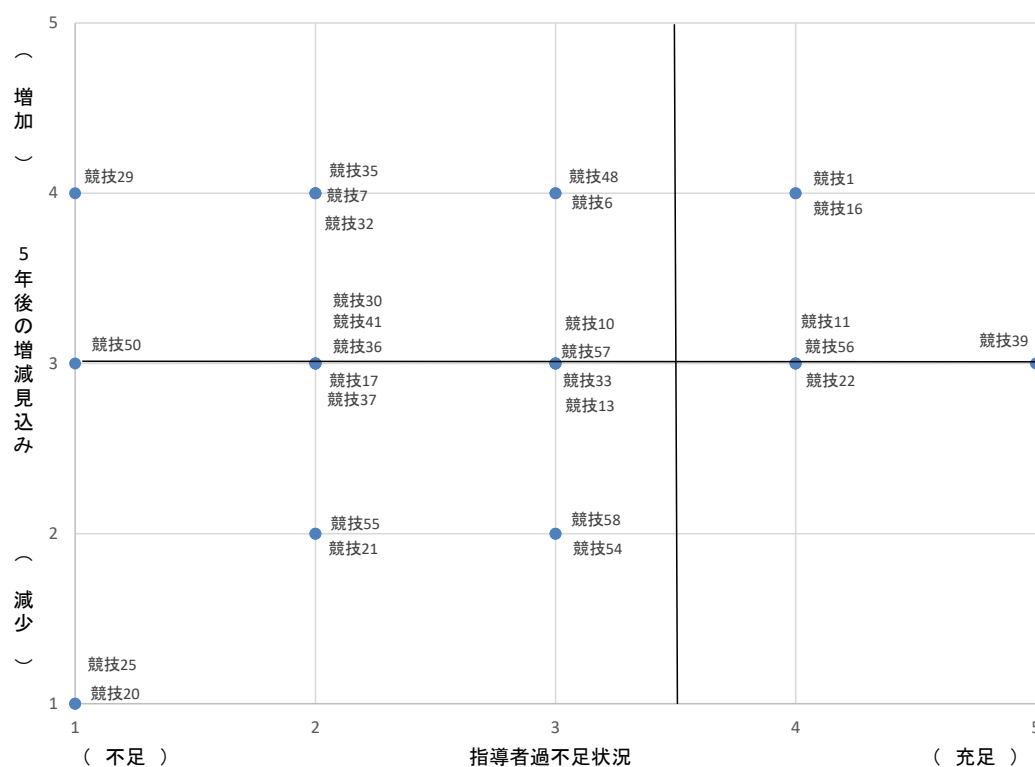
図表 II-25 JSPO コーチ 4 レベル（国際大会レベル）指導者



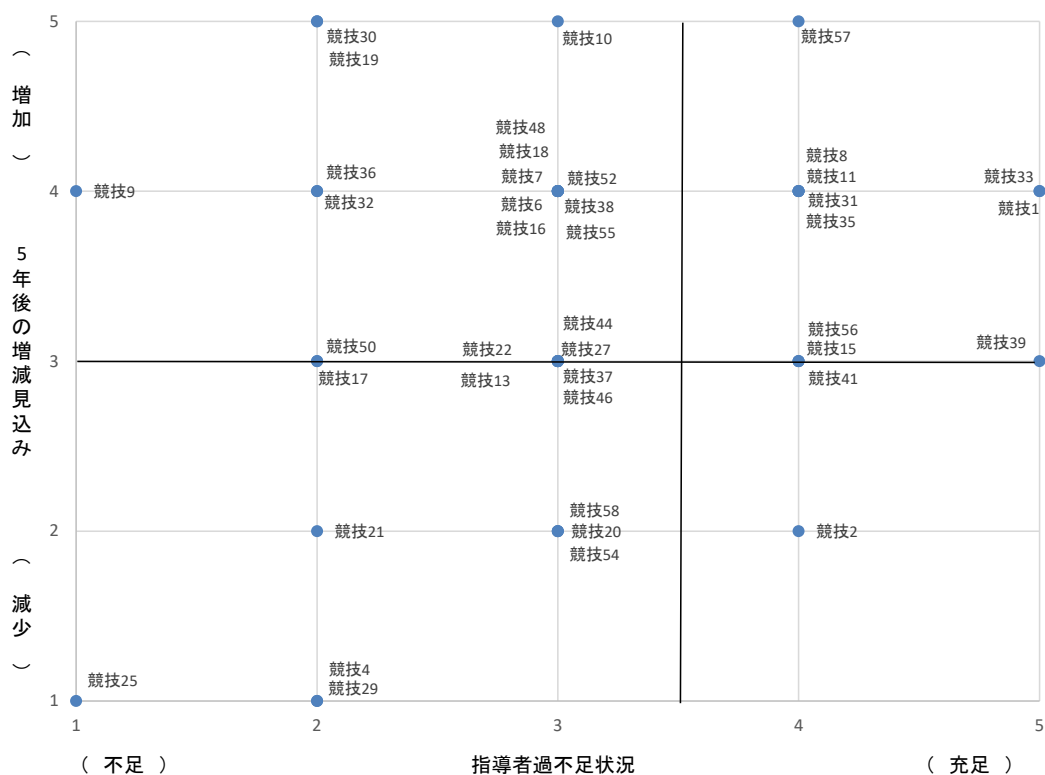
図表 II-26 JSPO コーチ 3 レベル（全国大会レベル）指導者



図表 II-27 JSPO コーチ 2 レベル（部活動等責任者レベル）指導者



図表 II-28 JSPO コーチ 1 レベル（部活動等コーチスタッフレベル）指導者

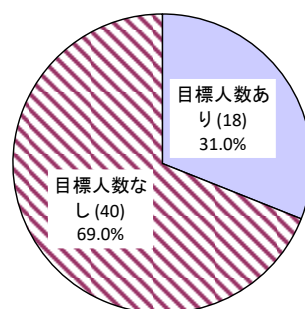


③ 育成計画

- 指導者の育成目標人数の有無は「あり」が31.0%、「なし」が69.0%である。
- 指導者育成計画の策定の有無は「策定している」が34.5%、「策定していない」が44.8%である。

問 8. 貴団体では指導者の育成目標人数を定めていますか。

図表 II-29 指導者の育成目標人数の有無

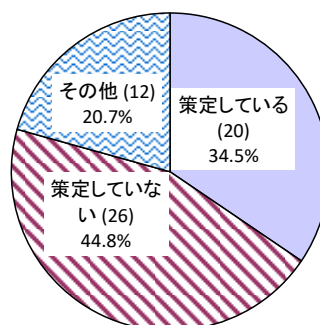


問 8-1. 指導者の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。

育成目標は、今後 1～2 年から 5 年後までの期間で、指導者の資格種別毎に育成目標を定めている団体が多い。

問 9. 貴団体では指導者の育成計画を策定されていますか。

図表 II-30 指導者育成計画の策定の有無



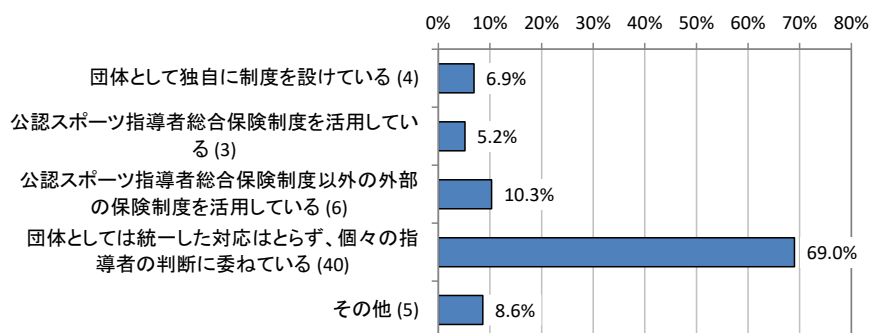
その他の回答として、現在整備・検討中である団体が 7 団体ある一方で、以前策定したが、見直しができていない団体もある。

④ 補償制度

- 指導者に対しての補償制度及び保険制度は、「団体としては統一した対応はとらず、個々の指導者の判断に委ねている」が 69.0%と最も高い。

問 10. 指導者に対して、指導活動による損害を補償する制度や保険制度はありますか。

図表 II-31 指導者に対しての補償制度及び保険制度の状況



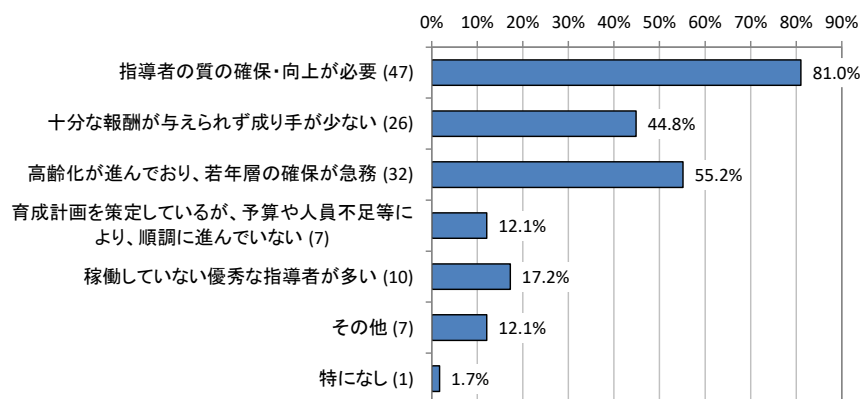
その他の回答としては、チームの判断に委ねている、大会の都度加盟団体や個人で加盟する等の対応が挙げられた。

⑤ 課題

- 指導者に関する課題は、「指導者の質の確保・向上が必要」が81.0%と最も高く、次に「高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務」が55.2%である。

問 11. 貴団体として感じておられる指導者に関する課題があればお答えください。（複数回答）

図表 II-32 指導者に関する課題



その他の回答としては、資格を持たない指導者が多いこと、指導者の育成にかかる人手や財源が不足していること、ライセンス別での指導者の研鑽機会や都道府県での指導者養成体制を整備することといった、育成に関わる課題が多く挙げられた。

3 審判員

① 人数

- JOC、JSPO 加盟団体及び準加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた 61 団体の審判員数の総数は 751,415 人である。
- 年代別では、20 代以下が 222,669 人、60 代以上が 133,510 人の順に多い。
- 性別では、男性が 679,045 人、女性が 72,370 人である。
- 審判資格別では、市区町村大会レベルで審判可能な資格保有者が最も多く 588,001 人、次に地域大会レベルで審判可能な資格保有者が 196,650 人である。
- プロとして専業で審判を行っている審判員は 324 人である。

問 12. 登録審判員の年代別人数を数字でお答えください。

図表 II-33 年代別 登録審判員数

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	222,669	76,123	114,274	76,506	133,510	128,333	751,415
平均	3,976.2	1,359.3	2,040.6	1,366.2	2,384.1	2,291.7	13,418.1
最大	129,442	42,260	65,660	26,251	43,252	48,000	129,442
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	56	56	56	56	56	56	56

問 13. 登録審判員のうち、女性の人数を数字でお答えください。

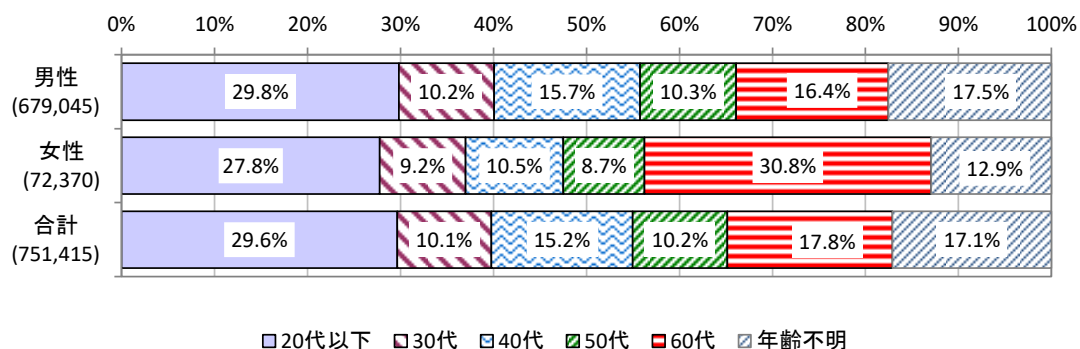
図表 II-34 年代別 登録審判員数（女性）

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	20,094	6,682	7,608	6,317	22,302	9,367	72,370
平均	358.8	119.3	135.9	112.8	398.3	167.3	1,292.3
最大	10,375	2,877	2,623	1,482	16,374	7,838	16,374
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	56	56	56	56	56	56	56

図表 II-35 年代別 登録審判員の女性比率

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
女性比率	9.0%	8.8%	6.7%	8.3%	16.7%	7.3%	9.6%

図表 II-36 年代別 登録審判員の構成比



	20代以下		30代		40代		50代		60代		年齢不明		合計
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
男性	202,575	29.8%	69,441	10.2%	106,666	15.7%	70,189	10.3%	111,208	16.4%	118,966	17.5%	679,045
女性	20,094	27.8%	6,682	9.2%	7,608	10.5%	6,317	8.7%	22,302	30.8%	9,367	12.9%	72,370
合計	222,669	29.6%	76,123	10.1%	114,274	15.2%	76,506	10.2%	133,510	17.8%	128,333	17.1%	751,415

問 14. 登録審判員の資格レベル別の人数を数字でお答えください。

図表 II-37 資格レベル別登録審判員数

	国際大会レベルで審判可能な資格	全国大会レベルで審判可能な資格	地域大会レベルで審判可能な資格	市区町村大会レベルで審判可能な資格
合計	35,224	86,530	196,650	588,001
平均	629.0	1,545.2	3,511.6	10,500.0
最大	33,183	33,183	50,000	269,767
最小	0	0	0	0
回答件数	56	56	56	56

問 15. プロとして専業で審判を行っている方の人数を数字でお答えください。

図表 II-38 プロ審判員数

合計	324
平均	5.8
最大	300
最小	0
回答件数	56

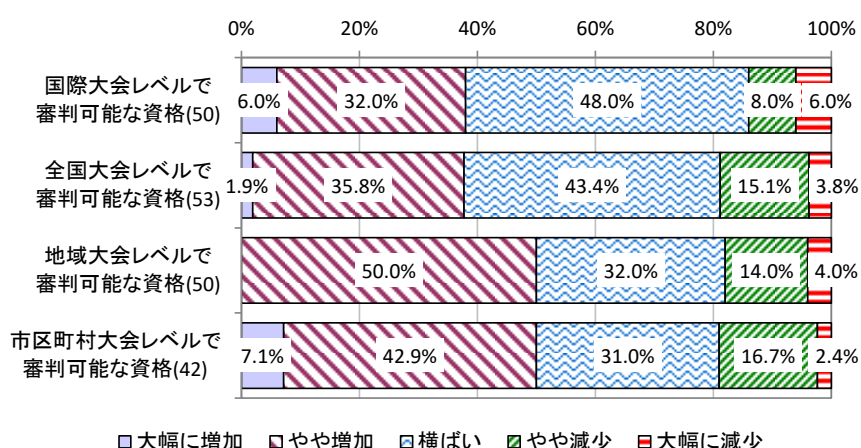
プロの審判員がいる競技団体は、5 団体であった。

② 需給状況

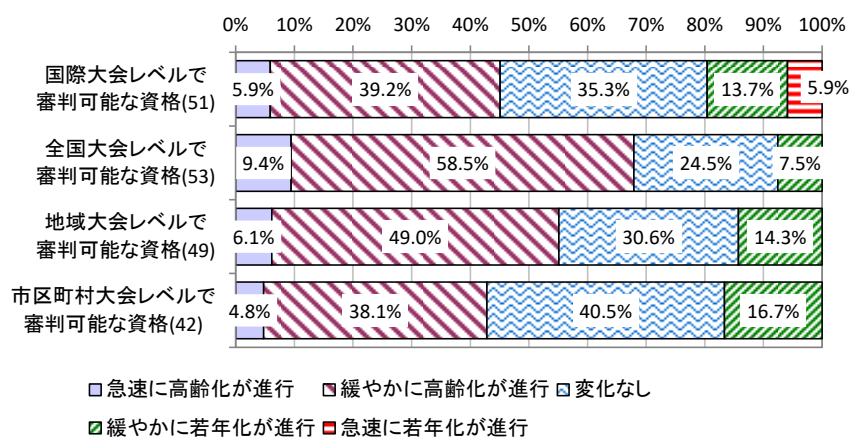
- 資格レベル別の過去 5 年間の審判員数の変化は、減少（やや減少+大幅に減少）を見ると「市区町村レベル」が 19.1%で最も高く、次に「全国大会レベル」が 18.9%である。
- 資格レベル別の過去 5 年間の審判員数の年齢層の変化は、高齢化（急速に高齢化+緩やかに高齢化）をみると、「全国大会レベル」が 67.9%で最も高く、次に「地域大会レベル」が 55.1%である。
- 資格レベル別の過去 5 年間の審判員数の男女比の変化は、全てのレベルにおいて「変化なし」が高い。
- 資格レベル別の審判員の過不足状況は、不足（やや不足している+不足している+非常に不足している）を見ると、「国際大会レベル」が 64.0%で最も高く、次に「地域大会レベル」が 62.7%である。
- 過不足状況の理由や背景は、「現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している」が 41.1%と最も高く、次に「全国的にみると必要な数を確保できているが地域、時間等の理由により現場との間でミスマッチが生じている」が 39.3%である。
- 資格レベル別の 5 年後の増減見込みは、減少（やや減少+大幅に減少）は「国際大会レベル」が 30.0%で最も高く、次に「地域大会レベル」が 24.0%である。

問 16. 過去 5 年間に於ける、審判員の変化についてお答えください。

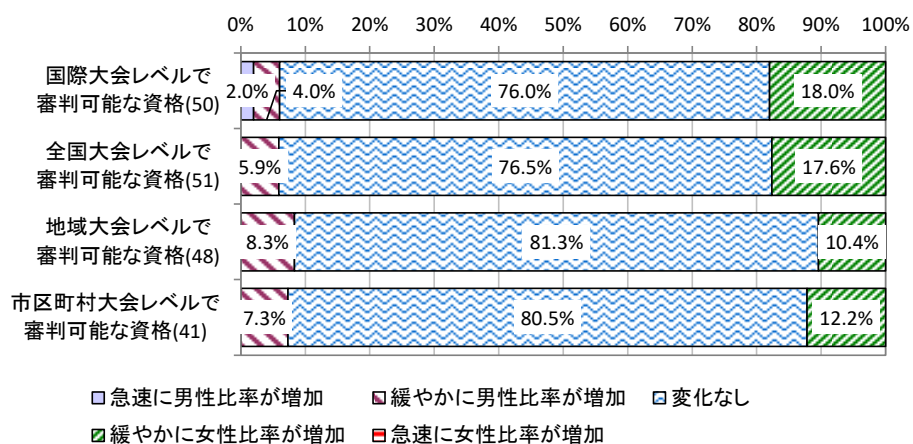
図表 II-39 資格レベル別 過去 5 年間の審判員数の変化



図表 II-40 資格レベル別 過去5年間の審判員の年齢層の変化

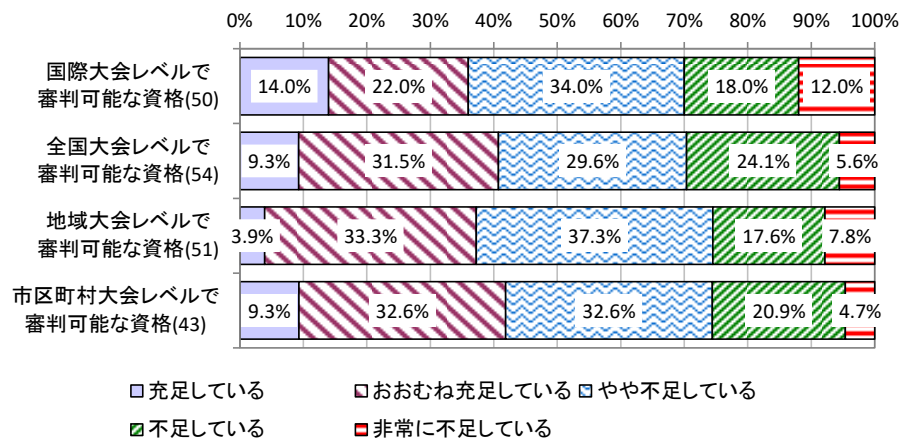


図表 II-41 資格レベル別 過去5年間の審判員の男女比の変化



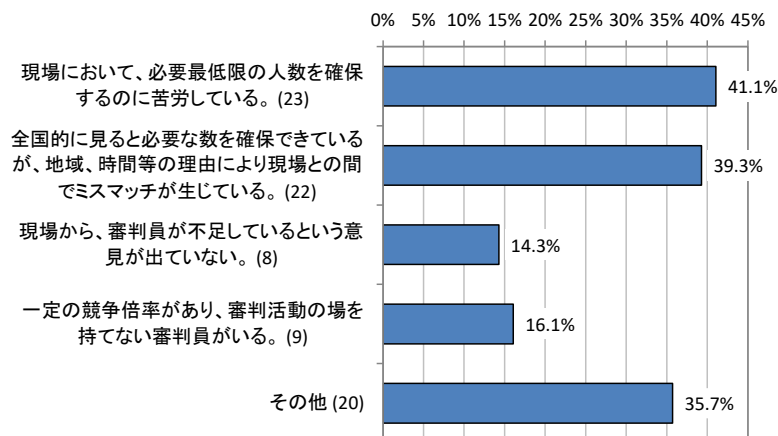
問 17. 下記の問 17-1 の選択肢をご参照の上、貴競技における審判員数の過不足状況についてお答えください。

図表 II-42 資格レベル別 審判員数の過不足状況



問 17-1. 問 17 の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(複数回答)

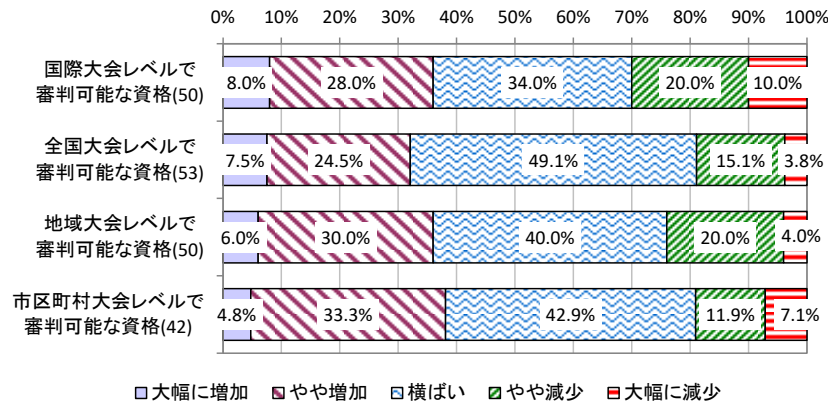
図表 II-43 過不足の理由や背景



その他の回答として、大会数や競技人口が限られているため充足しているという回答のほか、日本選手権大会出場条件としてチームに審判員の配置を義務づけたり、毎年新人の養成を行ったりして確保している団体もみられた。一方で、大都市圏では充足しているが地方では不足している、若手の審判員が少ない等、地域や年齢層による格差も挙げられた。

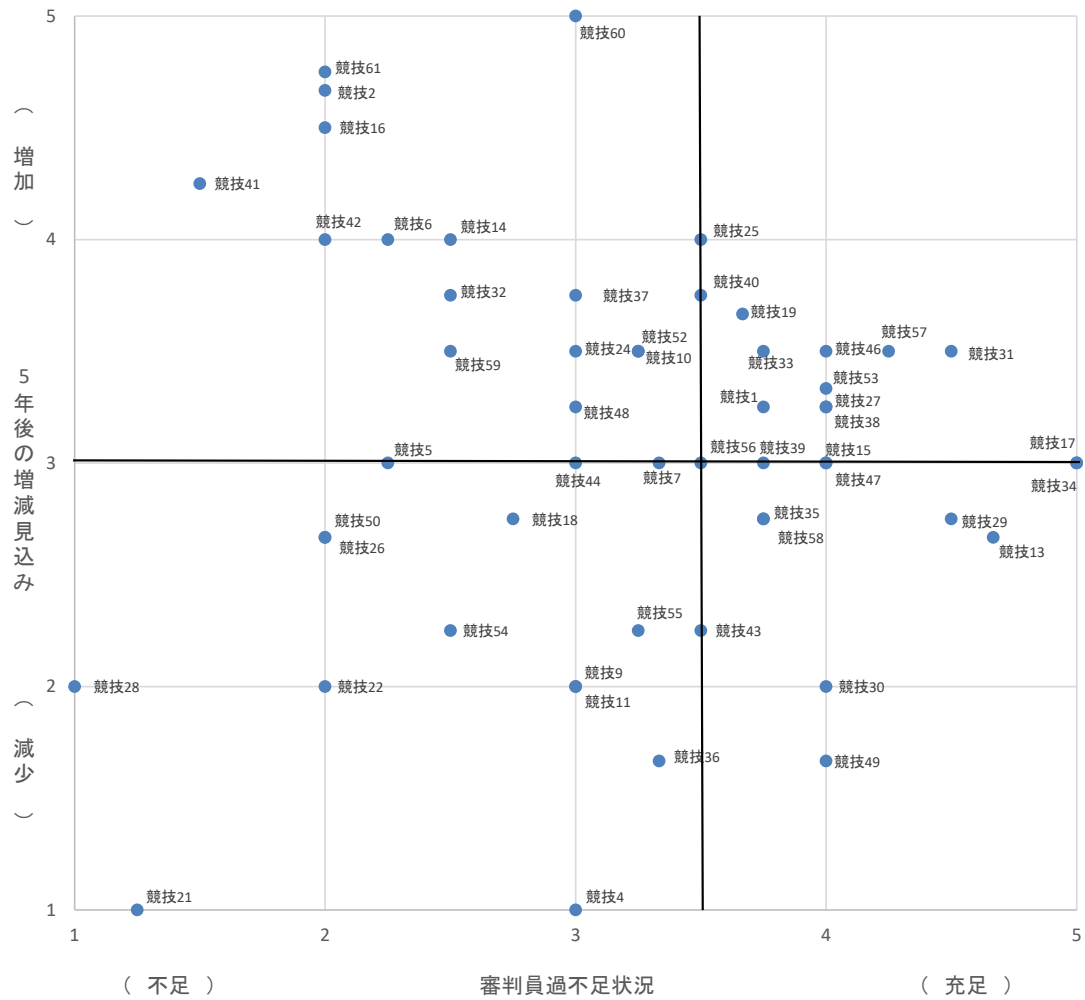
問 18. 将来（５年後）の審判員数の増減見込みをお答えください。

図表 II-44 資格レベル別 ５年後の審判員数の増減見込み

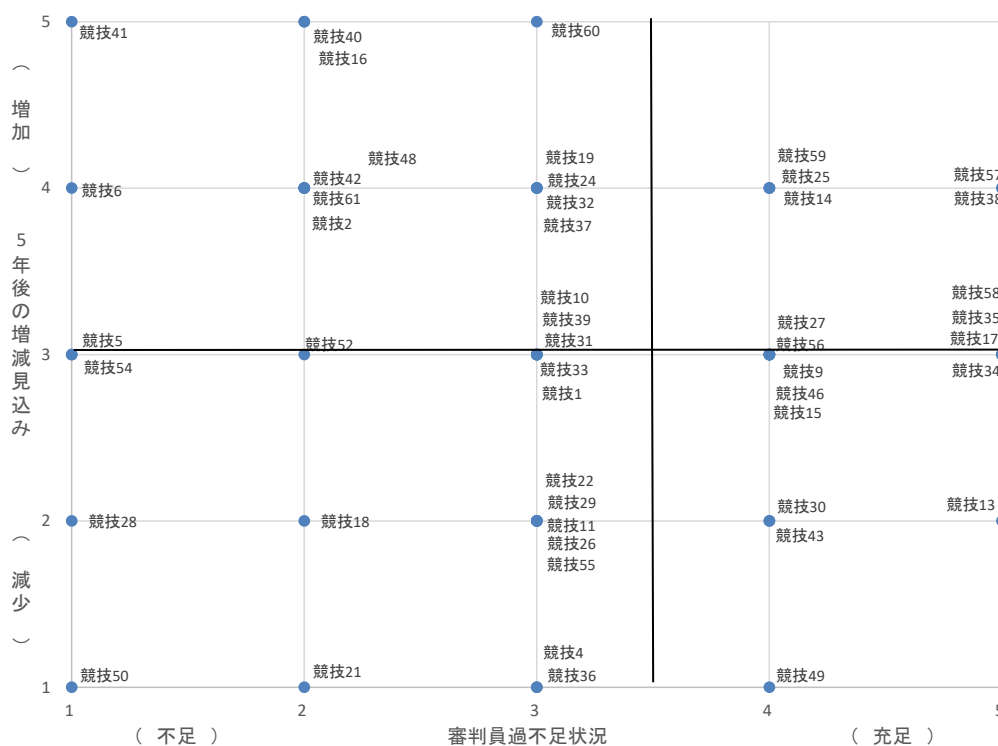


【クロス分析：問 17 審判員数過不足状況×問 18 増減見込み】

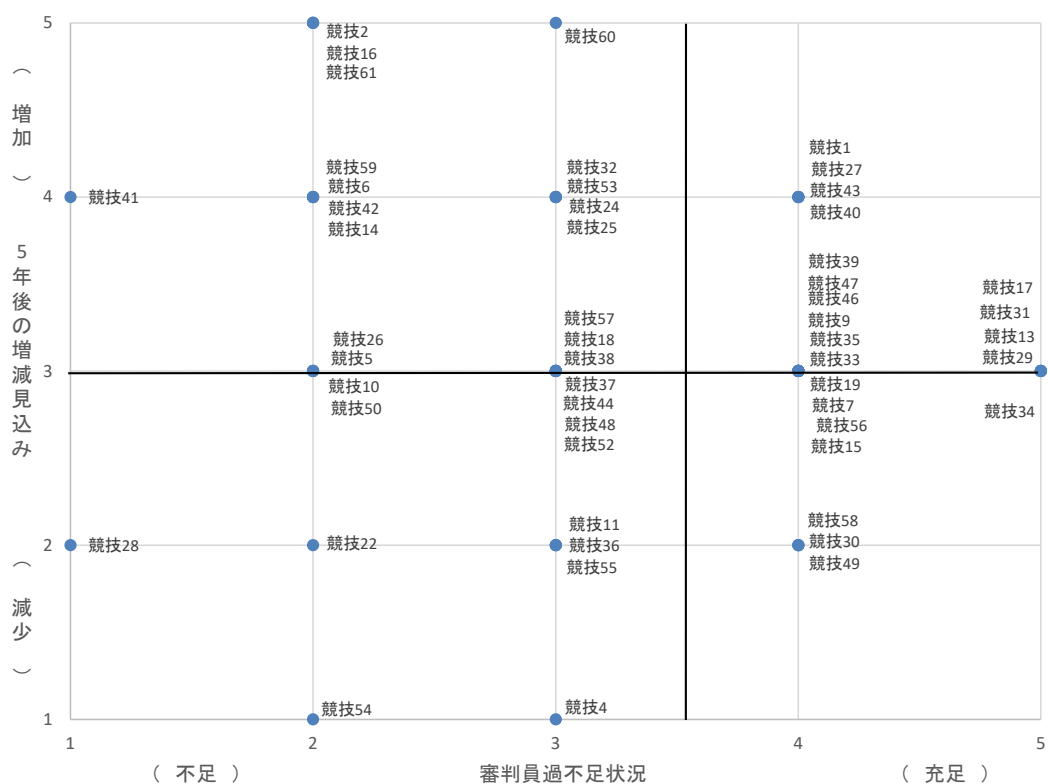
図表 II-45 審判員全体（全レベルの平均）



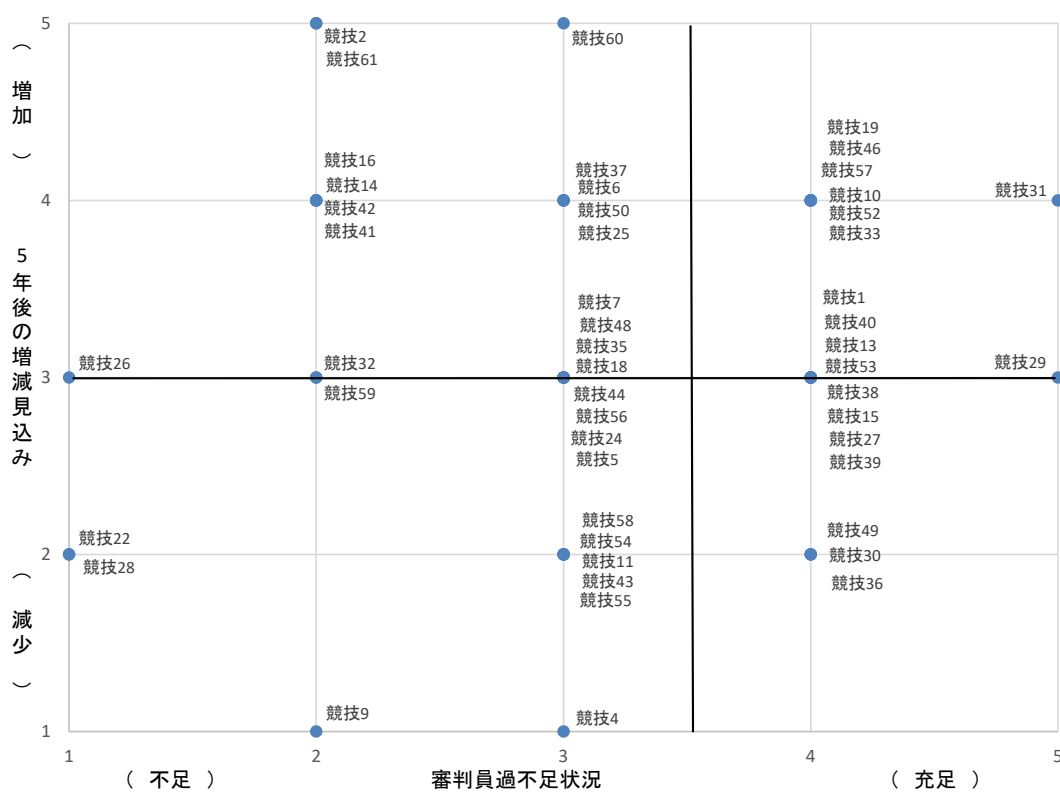
図表 II-46 国際大会レベル審判員



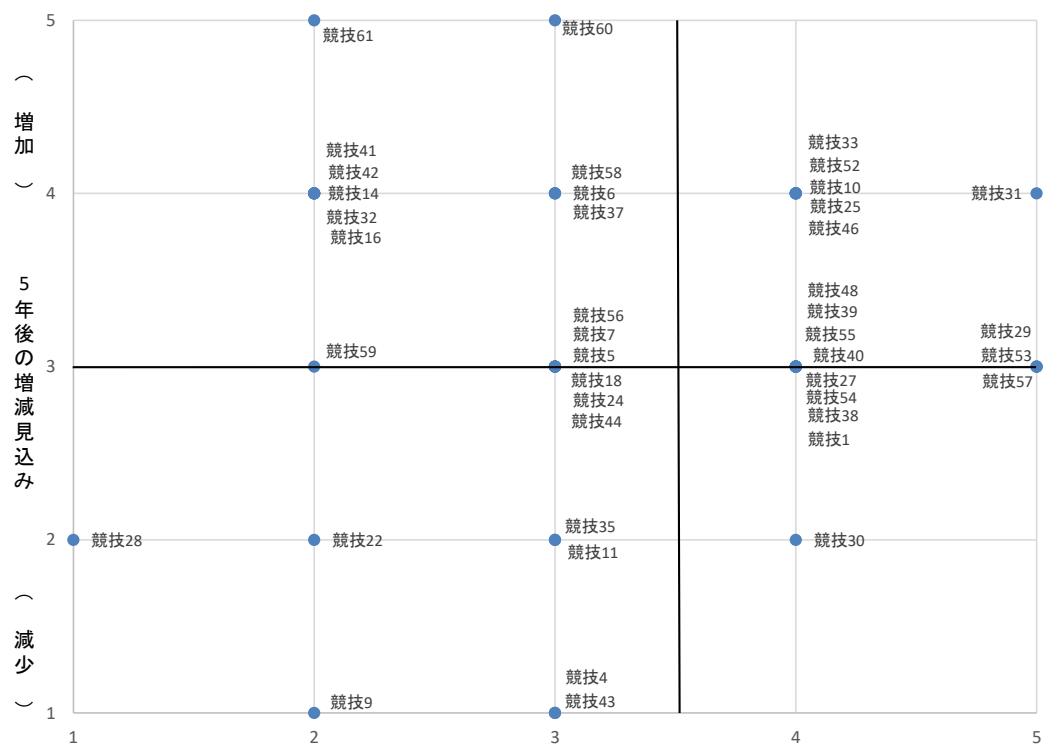
図表 II-47 全国大会レベル審判員



図表 II-48 地域大会レベル審判員



図表 II-49 市区町村大会レベル審判員

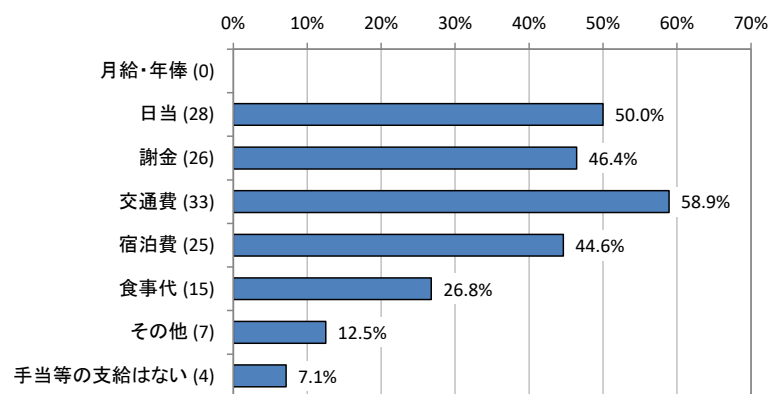


③ 手当の有無

- 審判員へ支給する手当は、「交通費」が58.9%で最も高く、次に「日当」が50.0%である。
- 日当の1日当たりの最低額は3,000円が最も多く、最高額も3,000円が最も多い。謝金の1日当たりの最低額は8,000円、1万円が最も多く、最高額は1万円が最も多い。

問 19. NF 主催の日本選手権等最上位の大会において、審判員へ支給する手当について当てはまるものをお答えください。(複数回答)

図表 II-50 審判員へ支給する手当



その他の回答として、弁当の現物支給等が挙げられた。

問 19-1. 問 19 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの金額をお答えください。⁷

図表 II-51 日当の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	4	0
1,001～3,000円	21	16
3,001～5,000円	2	9
5,001～10,000円	1	3
平均	2,589.3	4,178.6
最頻値	3,000	3,000
最大	6,000	10,000
最小	0	2,000
回答件数	28	28

問 19-2. 問 19 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの金額をお答えください。

図表 II-52 謝金の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	3	0
1,001～3,000円	5	3
3,001～5,000円	4	5
5,001～10,000円	13	11
10,000円以上	0	7
平均	5,840.0	14,961.5
最頻値	8,000 10,000	10,000
最大	10,000	120,000
最小	0	2,000
回答件数	25	26

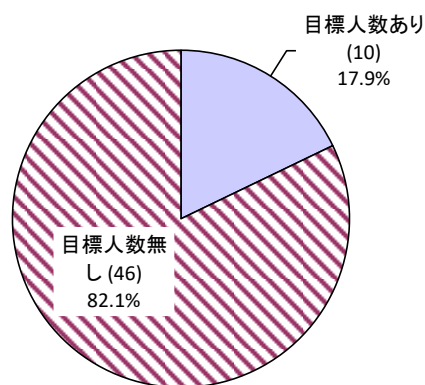
⁷ 日当や謝金額は円単位で回答された値を「1,000 円以下」「1,001 円～3,000 円」等に分類し集計している。そのため、平均値、最頻値、最大値、最小値は円単位となっている。

④ 育成計画

- 審判員の育成目標人数の有無は、「あり」が17.9%、「なし」が82.1%である。
- 審判員育成計画の策定状況は、「策定している」が35.7%、「策定していない」が46.4%である。

問 20. 貴団体では審判員の育成目標人数を定めていますか。

図表 II-53 審判員の育成目標人数の有無

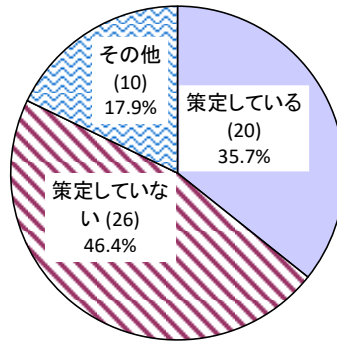


問 20-1. 審判員の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。

育成目標は、約 5 年後までの期間で、審判員の資格種別毎に育成目標を定めている団体が多い。

問 21. 貴団体では審判員の育成計画を策定されていますか。

図表 II-54 審判員の育成計画の策定状況



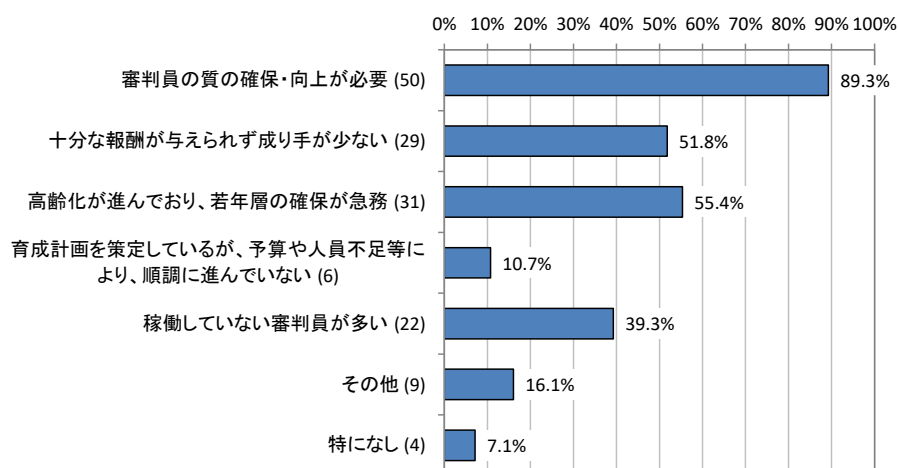
その他の回答として、現在策定中の団体が2団体あるほか、加盟団体ごとに策定している団体もある。また、策定はしていないが研修会や能力検査等、レベルアップを図る取組を行う団体も複数みられる。

⑤ 課題

- 審判員に関わる課題は「審判員の質の確保・向上が必要」が 89.3%と最も高く、次に「高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務」が 55.4%である。

問 22. 貴団体として感じておられる審判員に関わる課題があればお答えください。

図表 II-55 審判員に関わる課題



その他の回答として、仕事を持ちながら活動する審判員が多く必要人数の確保が難しいという課題が多く挙げられた。また、国際大会レベルの審判員育成のハードルとして、ビジネスレベル以上の英語力が求められる点も指摘されている。

2. パラスポーツの指導者・審判員に関するアンケート

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート

(JPC 加盟団体向け)

1 団体概要

- 回答団体の登録・加盟団体数を見ると、都道府県協会は平均 7.4 団体で「0 団体」が最も多い。「47 団体」と全都道府県に設置している中央競技団体は 3 団体であった。市区町村協会は平均 2.8 団体で「0 団体」が最も多い。チームは平均 38.5 団体で「0 団体」が最も多い。登録・加盟競技者数は平均 1,033.5 人で「101～300 人」が最も多い。登録指導者数は平均 67.0 人で「0 人」と「1～10 人」が最も多い。

問 2. 貴団体に登録・加盟している団体数、競技者数、指導者数を数字でお答えください。

8

図表 II-56 登録・加盟団体数及び競技者数

	1.都道府県協会 (団体数)		2.市区町村協会 (団体数)		3.チーム (団体数)		4.登録・加盟競技者数		5.登録指導者
0団体	25	0団体	35	0団体	13	0人	1	0人	12
1～10団体	5	1～10団体	3	1～10団体	10	1～50人	10	1～10人	12
11～20団体	3	11～20団体	0	11～20団体	3	51～100人	5	11～30人	6
21～46団体	3	21～50団体	0	21～50団体	6	101～300人	13	31～50人	1
47団体	3	51～100団体	1	51～100団体	2	301～500人	3	51～100人	4
平均	7.4	平均	2.8	100団体以上	5	501～1,000人	5	101人以上	4
最大	47	最大	100	平均	38.5	1,001人以上	2	平均	67.0
最小	0	最小	0	最大	462	平均	1,033.5	最大	1,000
回答件数	39	回答件数	39	最小	0	最大	25,000	最小	0
				回答件数	39	最小	0	回答件数	39
						回答件数	39		

⁸ 問 1 は「団体名」を問う設問のため省略

2 指導者

① 人数

- 年代別では、40代が全体の23.8%、50代が23.7%と、40代、50代で全体の約5割を占める。
- 指導者に占める女性比率は22.2%である。
- 登録指導者の資格の種類は、「日本スポーツ協会認定資格もしくは健全者競技の連盟・協会の認定資格」が70.0%で最も高く、次に「日本障がい者スポーツ協会認定資格（障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツコーチ）」が66.7%である。
- 独自認定資格が「ある」と回答したのは24.3%である。
- 指導者の過去5年間の変化について、指導者数は「横ばい」が56.8%で最も高い。年齢層の変化は「変化なし」が48.6%で最も高い。男女比の変化も「変化なし」が75.7%で最も高い。

問3. 貴団体の登録指導者について、以下の人数を数字でお答えください。⁹

図表 II-57 年代別 登録指導者数

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	284	425	459	458	230	75	1,931
平均	9.5	12.1	13.1	13.5	7.0	3.3	84.0
最大	104	196	177	196	99	41	196
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	30	35	35	34	33	23	23

図表 II-58 年代別 登録指導者数（女性）

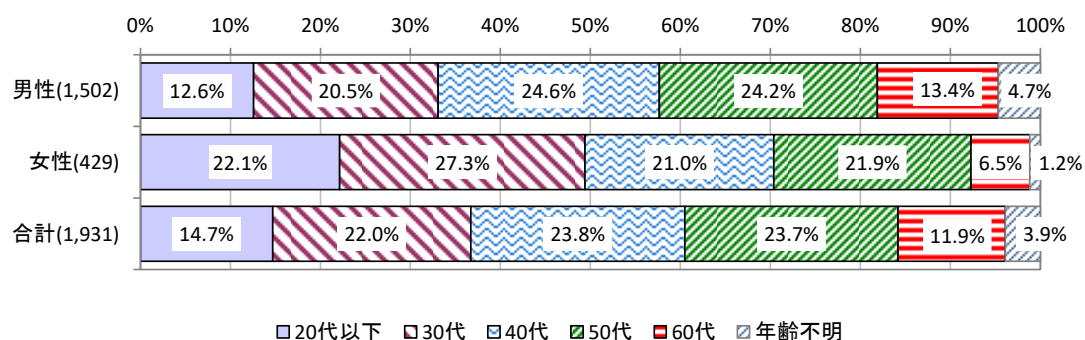
	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	95	117	90	94	28	5	429
平均	3.4	3.8	3.0	3.1	1.0	0.2	18.7
最大	38	47	21	25	9	3	47
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	28	31	30	30	29	23	23

図表 II-59 年代別 登録指導者数の女性比率

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
女性比率	33.5%	27.5%	19.6%	20.5%	12.2%	6.7%	22.2%

⁹ 問3は、年代別、男女別の人数が把握できる団体に、参考として回答いただいた。

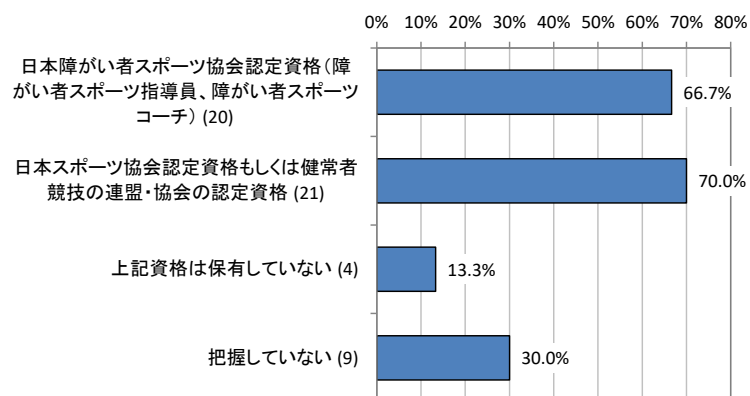
図表 II-60 年代別 登録指導者の構成比



	20代以下		30代		40代		50代		60代		年齢不明		合計
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
男性	189	12.6%	308	20.5%	369	24.6%	364	24.2%	202	13.4%	70	4.7%	1,502
女性	95	22.1%	117	27.3%	90	21.0%	94	21.9%	28	6.5%	5	1.2%	429
合計	284	14.7%	425	22.0%	459	23.8%	458	23.7%	230	11.9%	75	3.9%	1,931

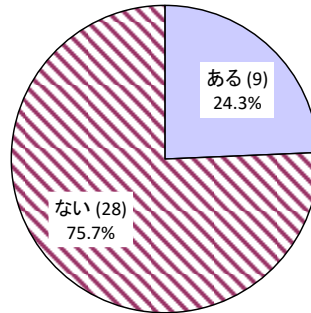
問 4. 登録指導者は以下に示す資格を保有していますか。

図表 II-61 登録指導者が保有する資格の種類



問 5. 貴団体が独自に認定する指導者資格はありますか。

図表 II-62 団体が独自に認定する指導者資格の有無



問 6. 貴団体が認定する指導者資格の種類（資格名）をお答えください。4 つ以上の資格がある場合、保有者数の多い資格上位 3 つをご記入ください。

団体が認定する指導者資格として、初級指導者、中級指導者、強化コーチ、競技技術指導員等が挙げられている。

問 6-1. 問 6 で記入いただいた資格について、以下の人数を数字でお答えください。

（2020/10/1 時点の人数をご記入ください）①独自認定資格保有者の年代別人数

※「独自認定資格 1」～「独自認定資格 3」の合計人数をご記入ください。

図表 II-63 年代別 独自認定資格保有者数

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	148	127	171	172	72	4	694
平均	24.7	18.1	24.4	24.6	12.0	1.0	173.5
最大	104	57	97	105	38	4	105
最小	0	1	2	2	0	0	0
回答件数	6	7	7	7	6	4	4

女性の独自認定資格保有者の年代別人数 ※①のうち、女性の人数をお答えください。

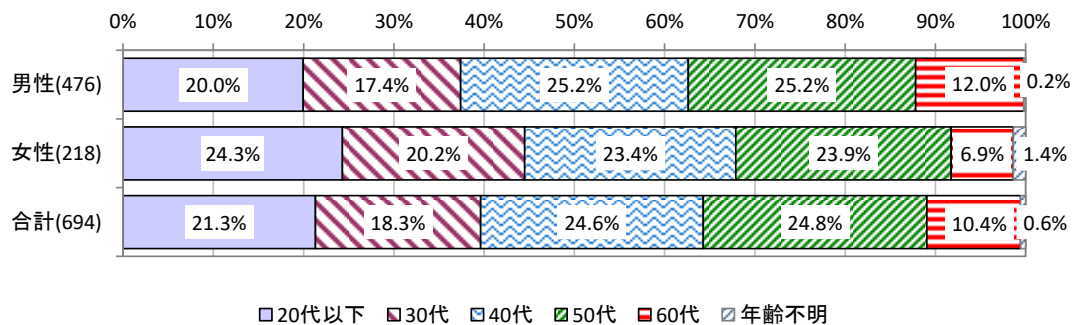
図表 II-64 年代別 独自認定資格保有者数（女性）

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	53	44	51	52	15	3	218
平均	10.6	6.3	8.5	8.7	2.5	0.8	54.5
最大	38	18	22	23	9	3	38
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	5	7	6	6	6	4	4

図表 II-65 年代別 独自認定資格保有者の女性比率

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
女性比率	35.8%	34.6%	29.8%	30.2%	20.8%	75.0%	31.4%

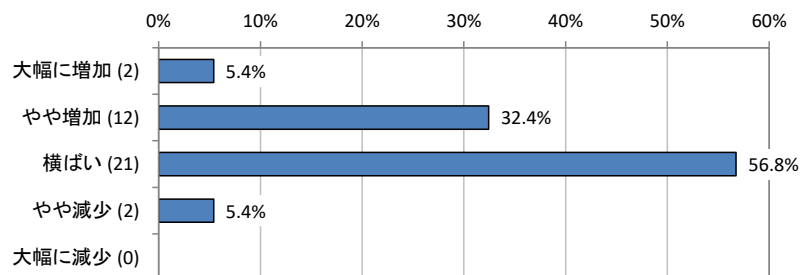
図表 II-66 年代別 独自認定資格保有者の構成比



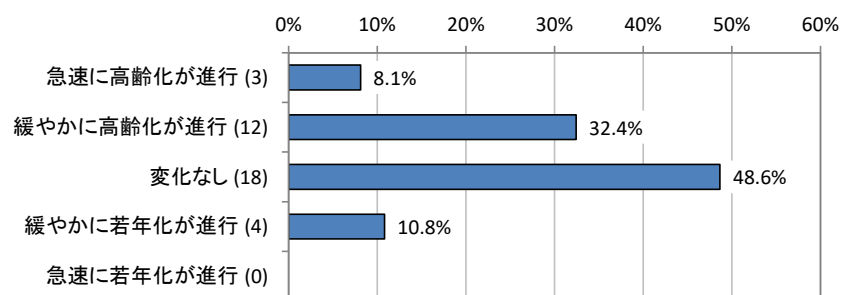
	20代以下		30代		40代		50代		60代		年齢不明		合計
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
男性	95	20.0%	83	17.4%	120	25.2%	120	25.2%	57	12.0%	1	0.2%	476
女性	53	24.3%	44	20.2%	51	23.4%	52	23.9%	15	6.9%	3	1.4%	218
合計	148	21.3%	127	18.3%	171	24.6%	172	24.8%	72	10.4%	4	0.6%	694

問 7. 指導者の過去 5 年間の変化についてお答えください。※貴団体としての印象でお答えください。

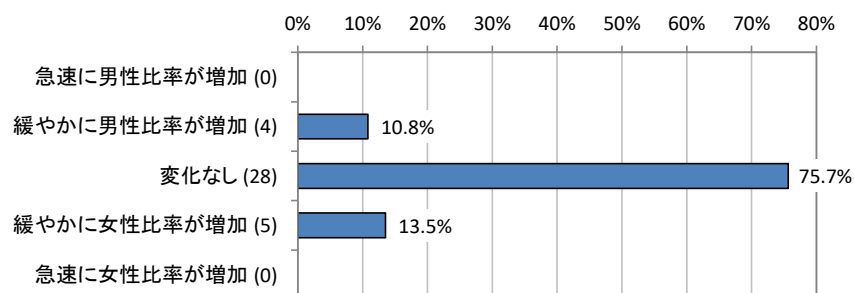
図表 II-67 指導者数の変化



図表 II-68 指導者の年齢層の変化



図表 II-69 指導者の男女比の変化

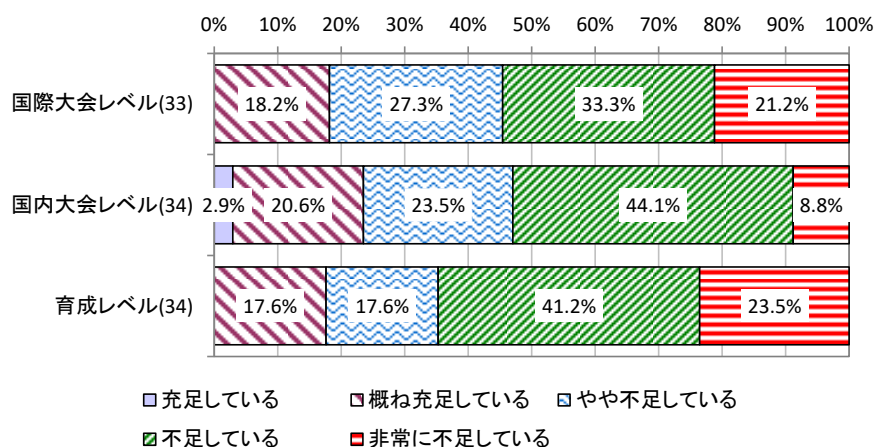


② 需給状況

- 過不足状況をみると、国際大会レベル、国内大会レベル、育成レベルいずれも「やや不足している」が最も高い。「充足している」と回答したのは国内大会レベルで2.9%である。「不足している（やや不足している＋不足している）」と回答した理由として「指導現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している（41.7%）」、「必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、より多くの指導者の確保が必要と感じている（47.2%）」の回答が高い。
- 5年後の指導者数の増減見込みは国際大会レベル、国内大会レベル、育成レベルいずれも「横ばい」が過半数を占める。

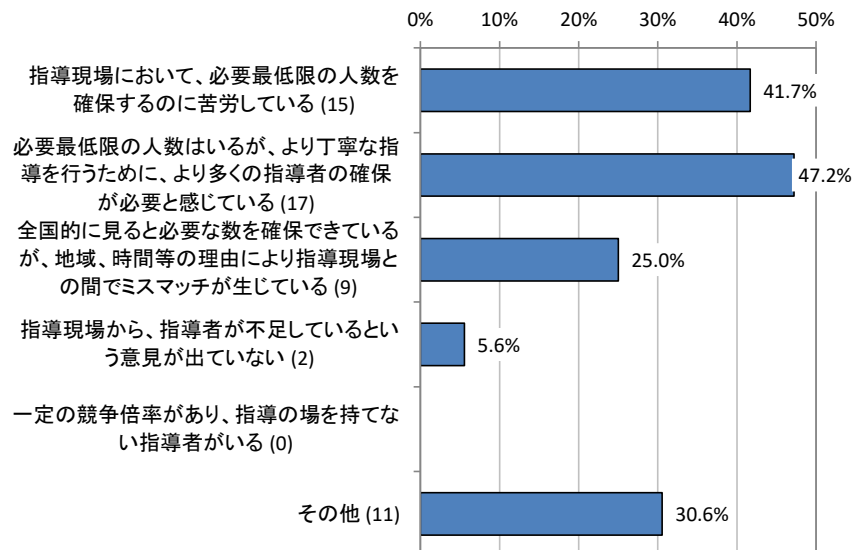
問 8. 貴競技における指導者数の過不足状況について、以下の 3 つの競技レベルでそれぞれお答えください。

図表 II-70 資格レベル別 指導者数の過不足状況



問 9. 問 8 の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(複数回答)

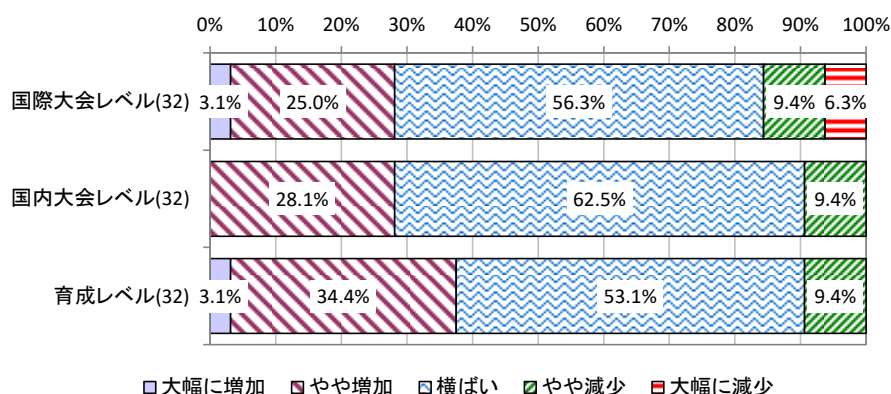
図表 II-71 過不足の理由や背景



その他の回答として、女性の指導者、海外経験のある指導者、障がい者の特徴を理解し指導できる指導者が不足している等、求める属性や能力に対する不足感が複数挙げられた。一方で、毎年一定数を育成しているという団体もみられる。

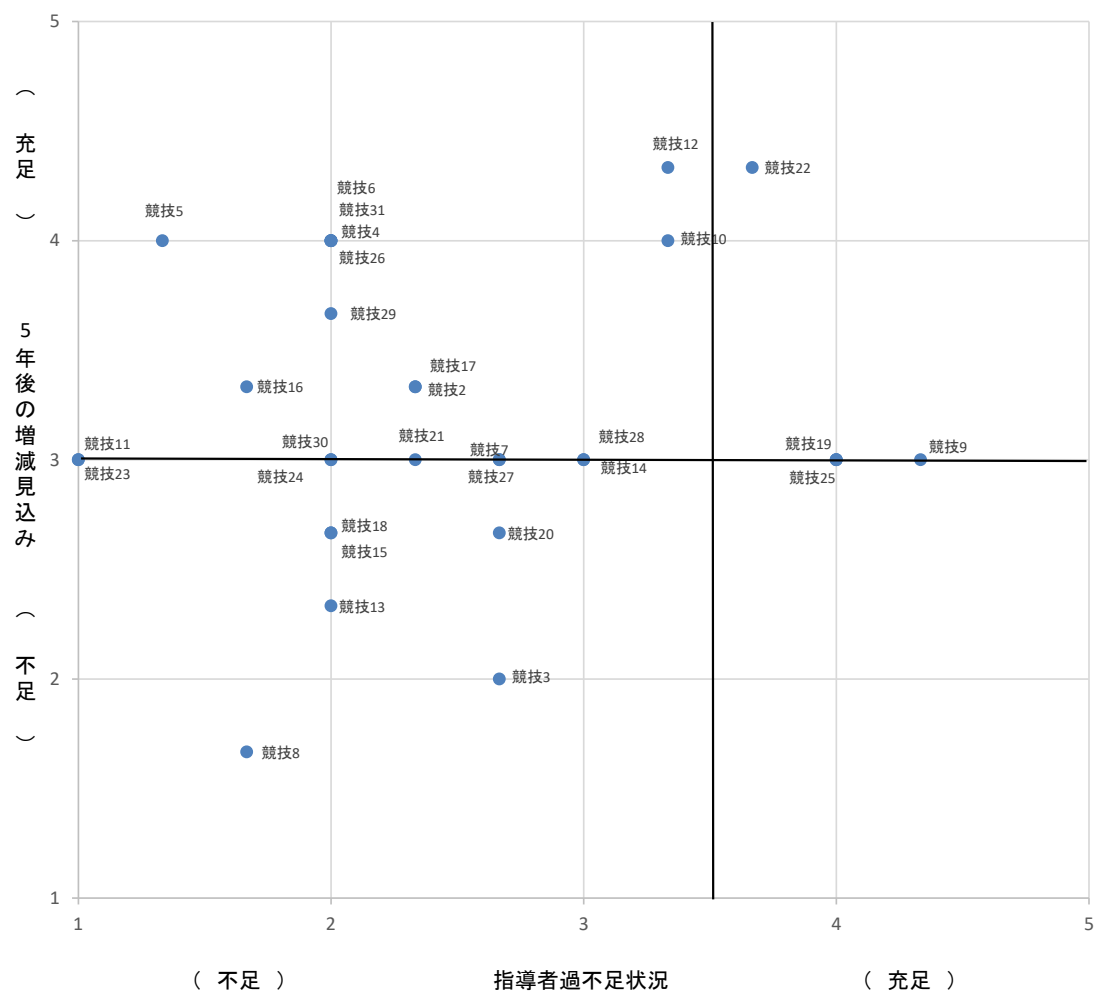
問 10. 将来（５年後）の指導者数の増減見込みをお答えください。

図表 II-72 ５年後の指導者数の増減見込み

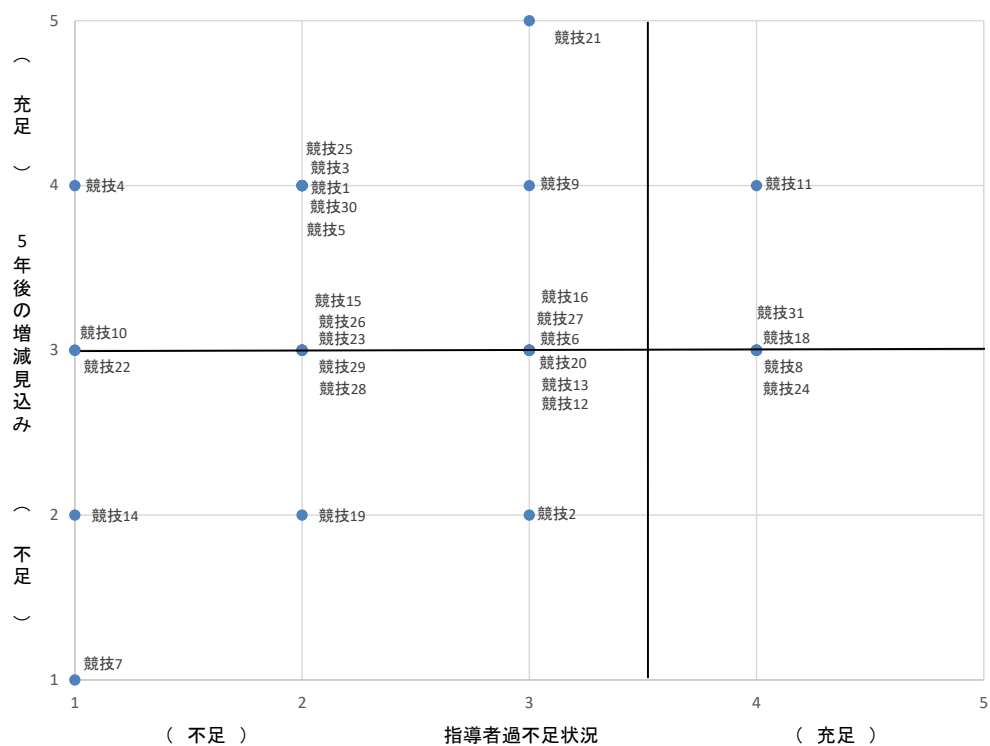


【クロス分析：問8指導者数過不足状況×問10増減見込み】

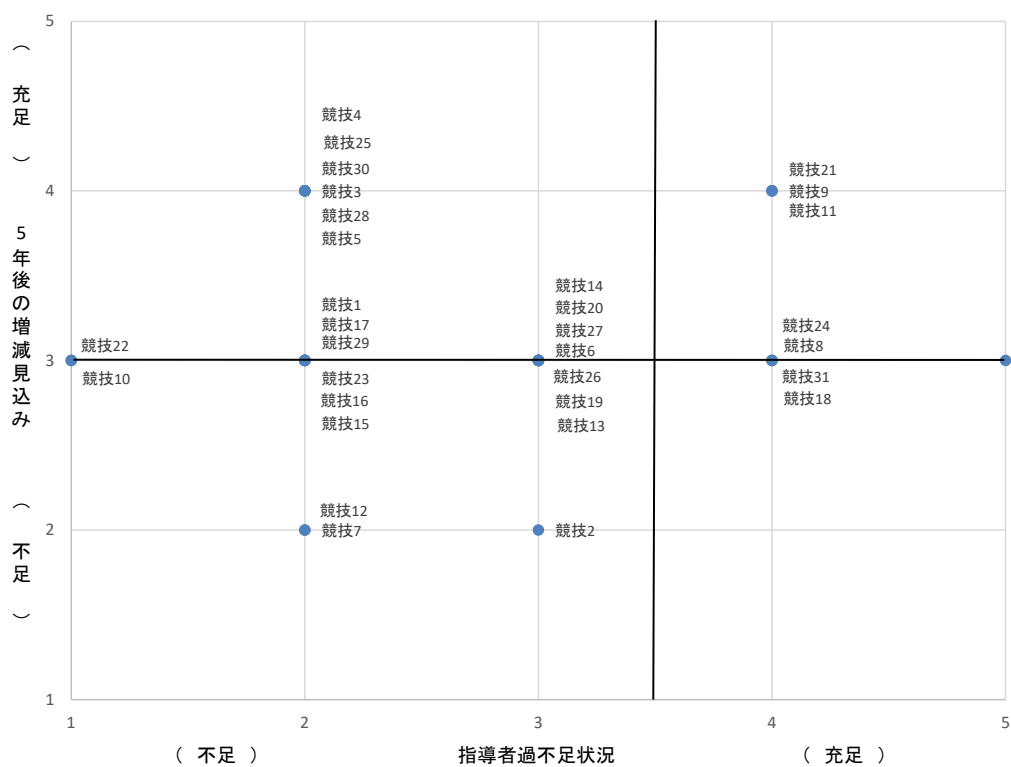
図表 II-73 指導者全体（全コーチレベルの平均）



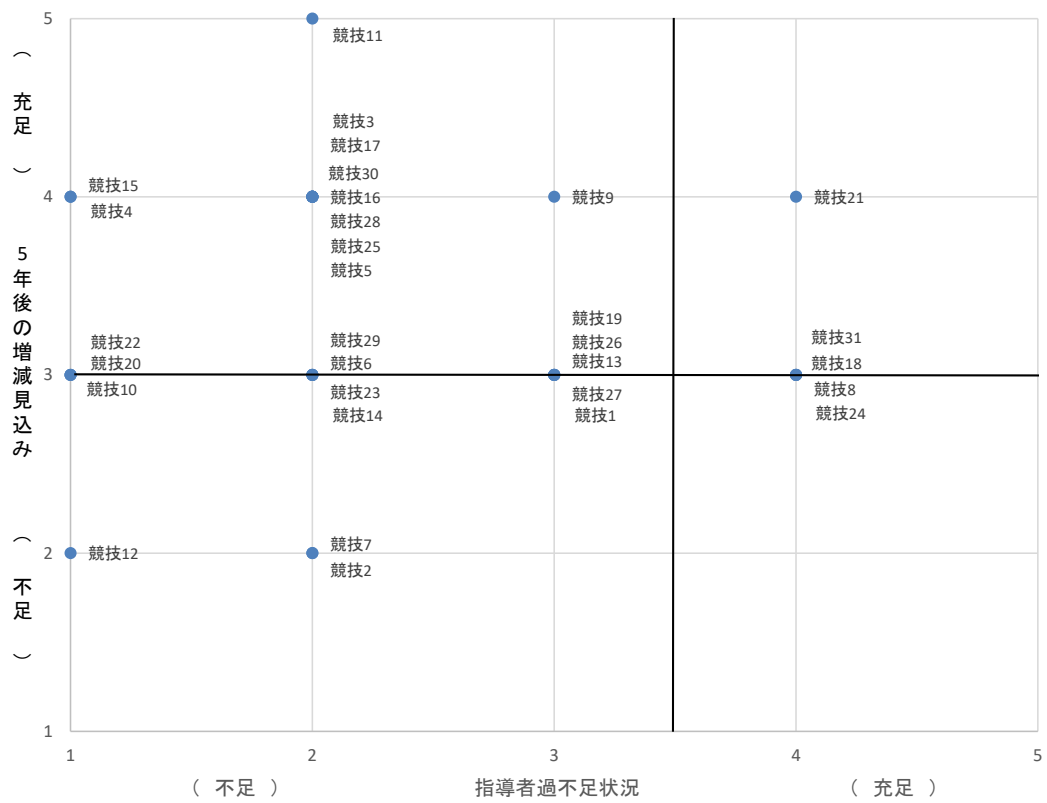
図表 II-74 国際大会レベル指導者



図表 II-75 国内大会レベル指導者



図表 II-76 育成レベル指導者

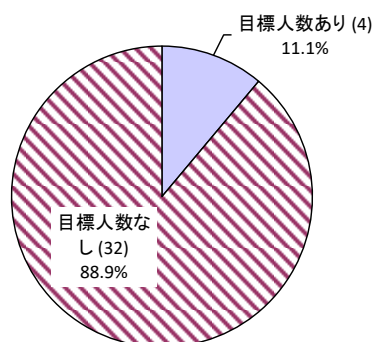


③ 育成計画

- 指導者の「育成目標人数がある」と回答したのは 11.1%である。
- 指導者の育成計画を「策定している」と回答したのは 22.2%である。

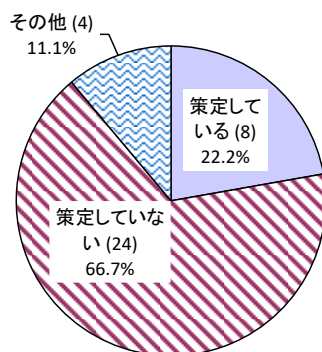
問 11. 貴団体では指導者の育成目標人数を定めていますか。

図表 II-77 指導者の育成目標人数の有無



問 12. 貴団体では指導者の育成計画を策定されていますか。

図表 II-78 指導者の育成計画の有無



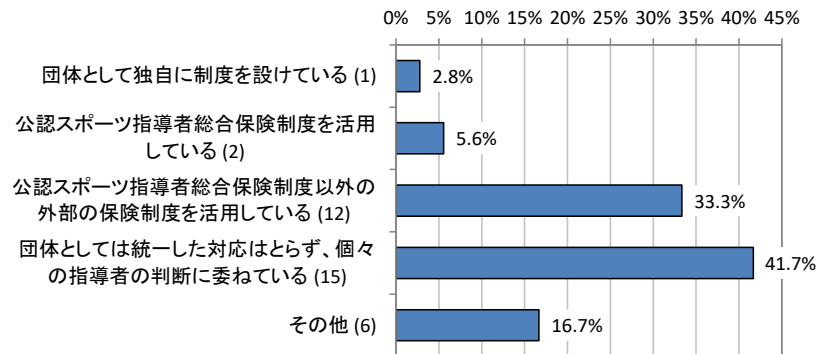
その他の回答として、策定を計画している団体が 1 団体ある。

④ 補償制度

- 損害補償及び保険制度は「団体としては統一した対応はとらず、個々の指導者の判断に委ねている」が 41.7%で最も高く、次に「公認スポーツ指導者総合保険制度以外の外部の保険制度を活用している」が 33.3%である。

問 13. 指導者に対して、指導活動による損害を補償する制度や保険制度はありますか。

図表 II-79 指導者の損害補償及び保険制度



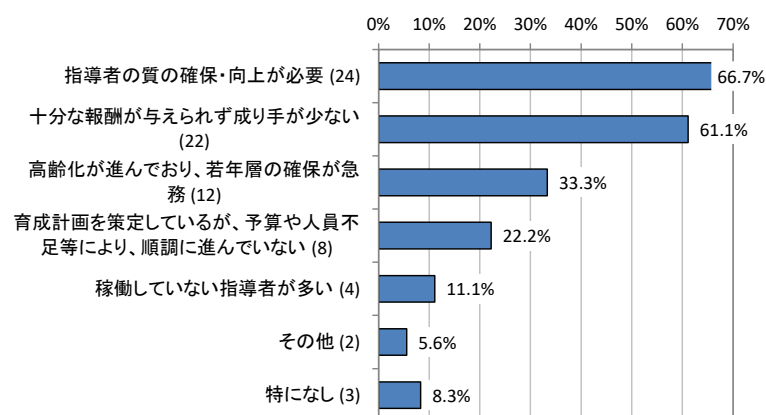
その他の回答としては、合宿や遠征時等の事業ごとに保険をかけているとする団体が 3 団体ある。

⑤ 課題

- 課題として「指導者の質の確保・向上が必要」が 66.7%で最も高く、次に「十分な報酬が与えられず成り手が少ない」が 61.1%である。

問 14. 貴団体として感じている指導者に関する課題があればお答えください。

図表 II-80 指導者の課題



その他の回答としては、パラ種目の指導者の人材不足が挙げられた。

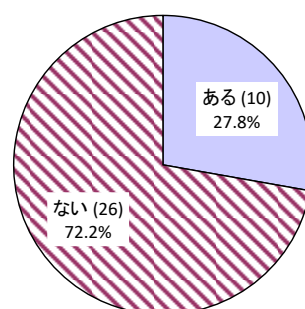
3 審判員

① 人数

- JPC 加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた 39 団体において、IF が認定する審判員資格の平均保有者数は 7.7 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判員の総数は 5,616 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判員について、年代別では、50 代が 1,292 人、60 代が 996 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判員について、性別では、男性が 4,712 人、女性が 904 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判について、審判員資格別では、地域大会レベルで審判可能な資格保有者が最も多く 5,381 人、次に市区町村大会レベルで審判可能な資格保有者が 5,280 人である。
- 過去 5 年間ににおける審判員の変化をみると、人数は国際、地域、市区町村大会レベルにおいて「横ばい」が過半数を占めるが、全国大会レベルでは「やや増加」が 40.0% である。年齢層でみると、どの大会レベルにおいても「緩やかに高齢化が進行」「変化なし」がそれぞれ 3～4 割を占め、男女比でみると、どの大会レベルにおいても「変化なし」が 7 割～8 割を占める。

問 15. 貴団体が独自に認定する審判員資格はありますか。JOC、JSPO 加盟団体が認定する審判員資格を準用している場合は、「2.ない」を選択ください。一部競技のみ JOC、JSPO 加盟団体が認定する資格を準用している場合は、「1.ある」を選択ください。

図表 II-81 団体が独自に認定する審判員資格の有無



問 16. IF（国際競技連盟）が認定する審判員資格の保有者数を数字でお答えください。

図表 II-82 IF が認定する審判員資格の保有者数

	IF 資格保有者
0人	14
1～5人	11
6～10	0
11～20人	2
21～50人	2
51人以上	1
平均	7.7
最大	114
最小	0
回答件数	30

問 17. 貴団体が独自に認定している審判員の人数を数字でお答えください。

図表 II-83 年代別 独自認定している審判員数

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	661	535	928	1,292	996	1,204	5,616
平均	94.4	76.4	116.0	161.5	110.7	200.7	936.0
最大	502	282	590	881	609	1,111	1,111
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	7	7	8	8	9	6	6

問 18. 貴団体が独自に認定している審判員のうち、女性の人数を数字でお答えください。

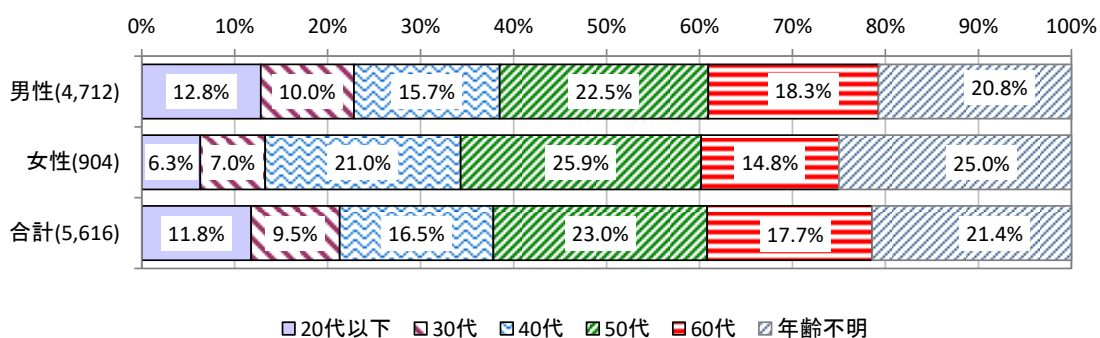
図表 II-84 年代別 独自認定している審判員数（女性）

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
合計	57	63	190	234	134	226	904
平均	9.5	10.5	27.1	39.0	19.1	56.5	226.0
最大	34	43	153	183	84	225	225
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	6	6	7	6	7	4	4

図表 II-85 年代別 独自認定している審判員の女性比率

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	年齢不明	総数
女性比率	8.6%	11.8%	20.5%	18.1%	13.5%	18.8%	16.1%

図表 II-86 年代別 独自認定している審判員の構成比



	20代以下		30代		40代		50代		60代		年齢不明		合計
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
男性	604	12.8%	472	10.0%	738	15.7%	1,058	22.5%	862	18.3%	978	20.8%	4,712
女性	57	6.3%	63	7.0%	190	21.0%	234	25.9%	134	14.8%	226	25.0%	904
合計	661	11.8%	535	9.5%	928	16.5%	1,292	23.0%	996	17.7%	1,204	21.4%	5,616

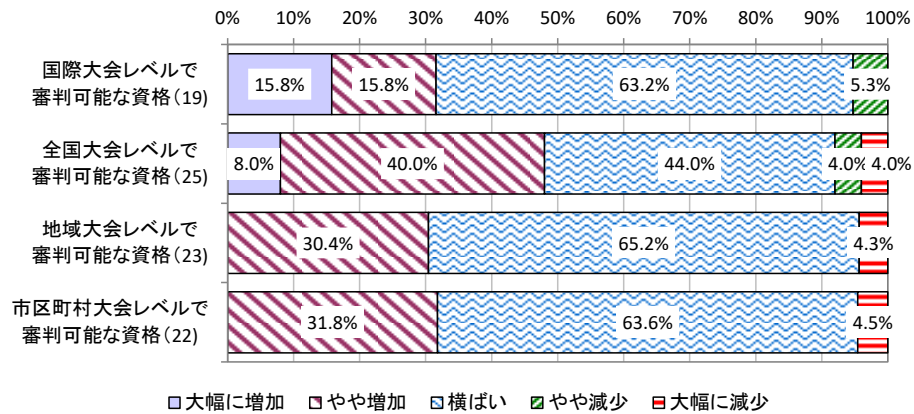
問 19. 貴団体が独自に認定している審判員の資格レベル別の人数を数字でお答えください。

図表 II-87 独自認定資格のレベル別審判員数

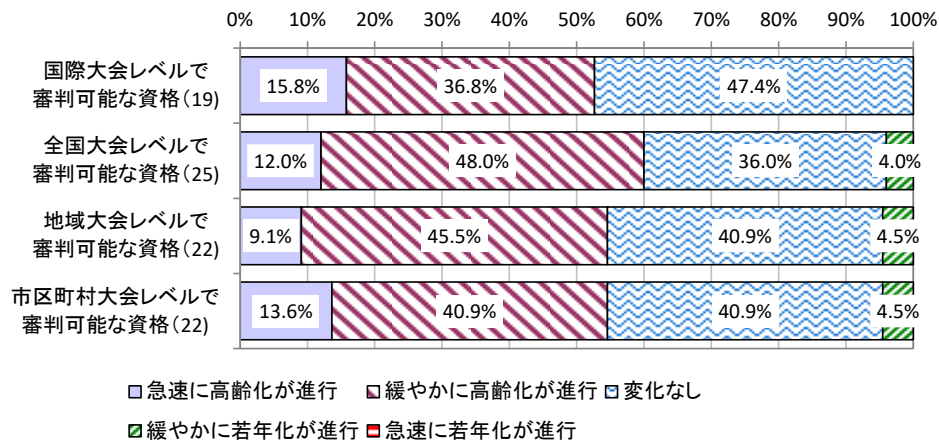
	国際大会レベル(世界大会・アジア大会等)で審判可能な資格	全国大会レベルで審判可能な資格	地域大会(都道府県大会・ブロック大会)レベルで審判可能な資格	市区町村大会レベルで審判可能な資格
合計	144	1,368	5,381	5,280
平均	18.0	171.0	672.6	660.0
最大	114	1,100	3,583	3,583
最小	0	0	0	0
回答件数	8	8	8	8

問 20. 過去 5 年間に於ける、審判員の変化についてお答えください。

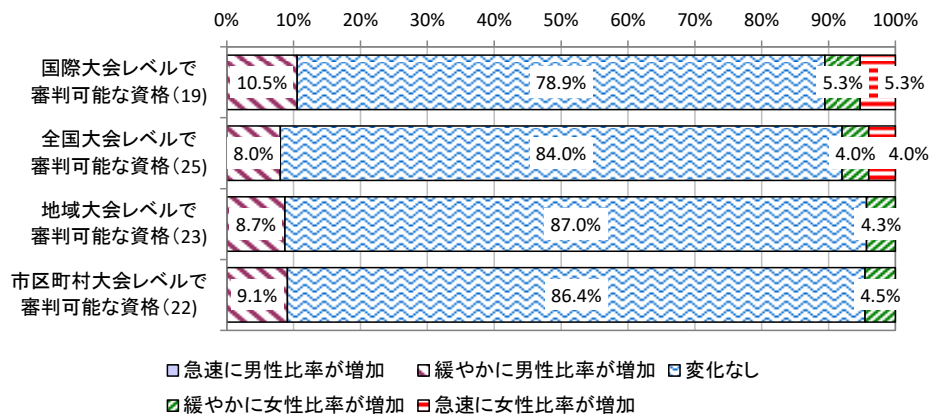
図表 II-88 資格レベル別 審判員数の変化



図表 II-89 資格レベル別 年齢層の変化



図表 II-90 資格レベル別 男女比の変化

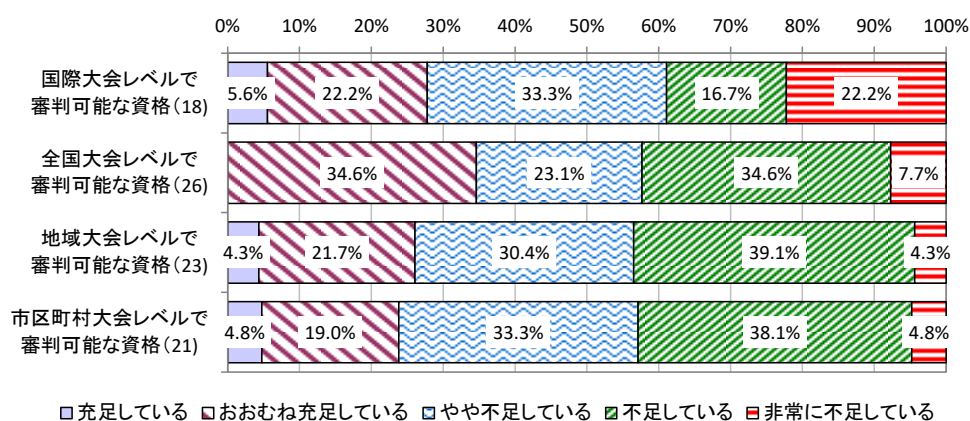


② 需給状況

- 過不足状況は全国大会レベルで「おおむね充足している」と「不足している」がそれぞれ 34.6%である。その他の資格レベルでは「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が全体の 7 割を超える。特に国際大会レベルでは「非常に不足している」が 22.2%と他の資格レベルと比較し倍以上の割合である。
- 不足している理由は、「現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している」が 38.9%である。
- 5 年後の増減見込みは、いずれの資格レベルでも「横ばい」が過半数を占める。

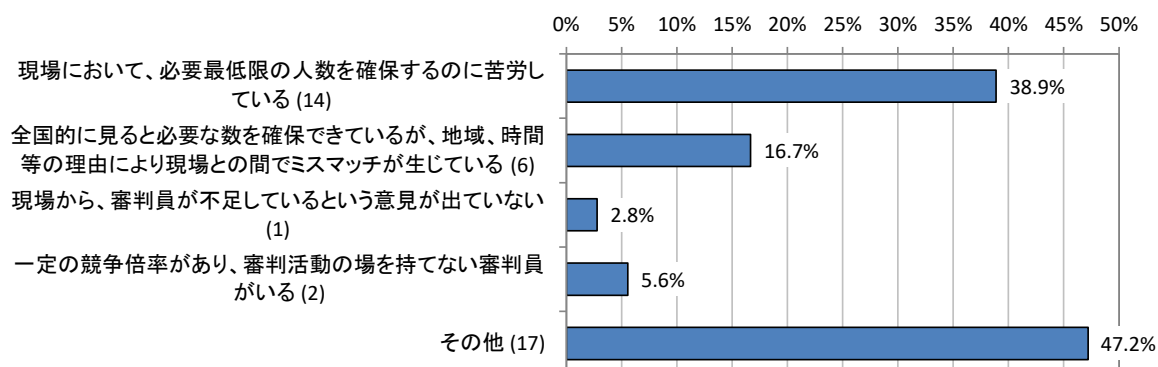
問 21. 下記の問 21-1 の選択肢をご参照の上、貴競技における審判員数の過不足状況についてお答えください。

図表 II-91 資格レベル別 過不足状況



問 21-1. 問 21 の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。（複数回答）

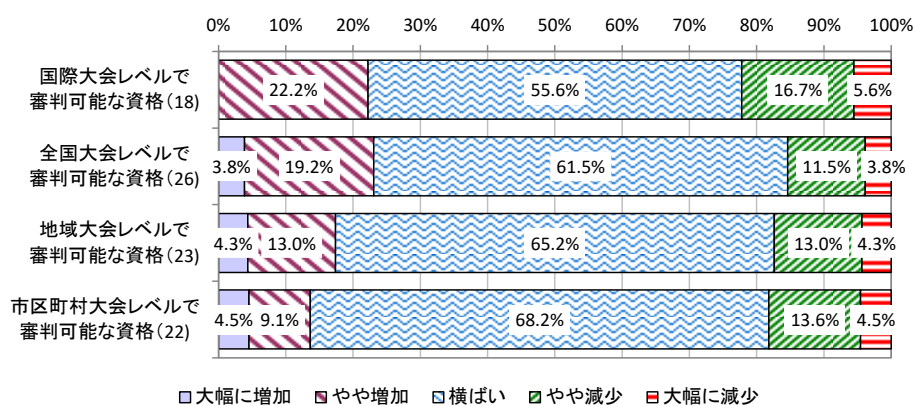
図表 II-92 過不足の理由や背景



その他の回答としては、健常者の競技団体から派遣されたり、健常者の大会と同時開催したりして審判員を確保するとした競技団体が8団体ある。また、健常者の競技団体の審判員にパラ規則を講習したり、東京大会を機に国際審判員講習を実施したりと、育成に取り組む団体もみられる。

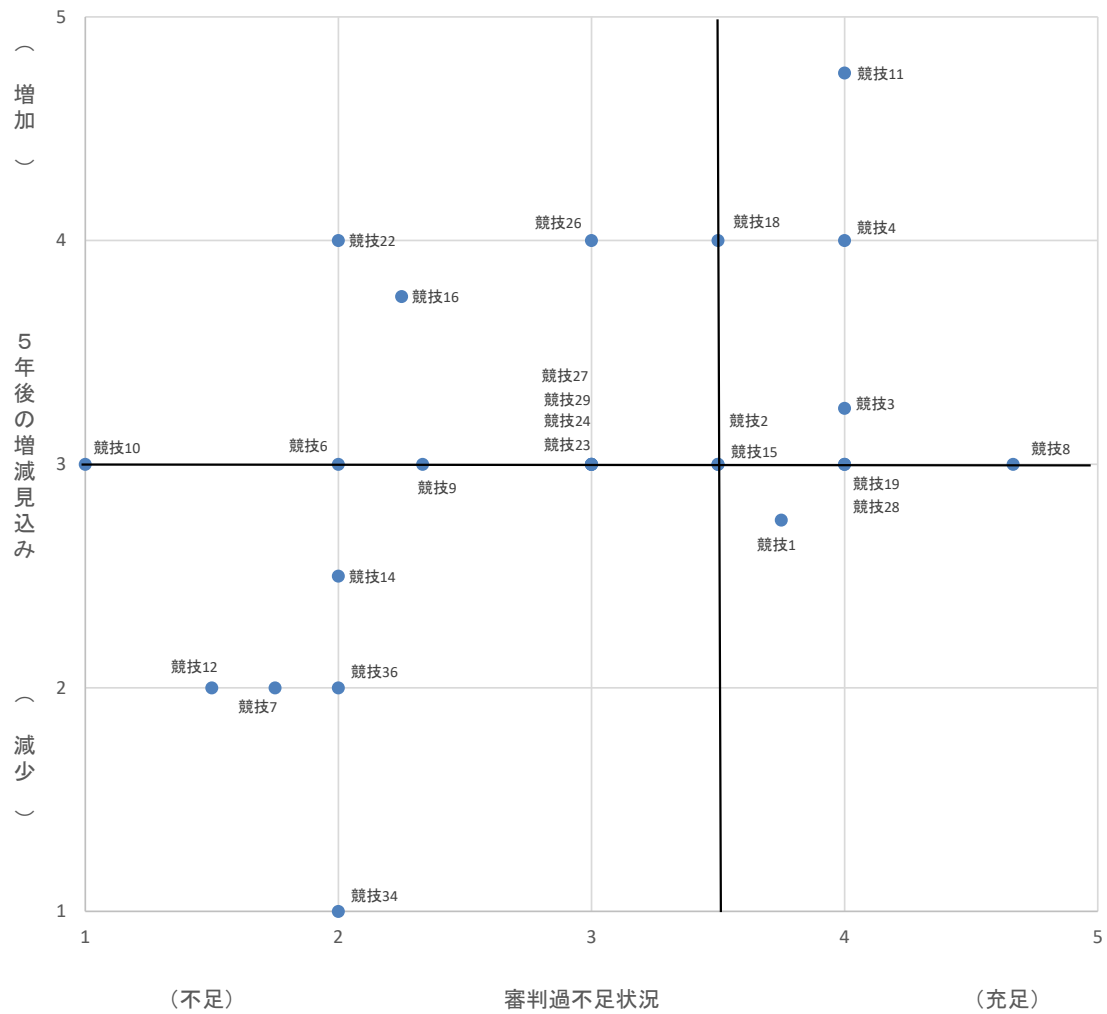
問 22. 将来（5年後）の審判員数の増減見込みをお答えください。

図表 II-93 5年後の審判員数の増減見込み

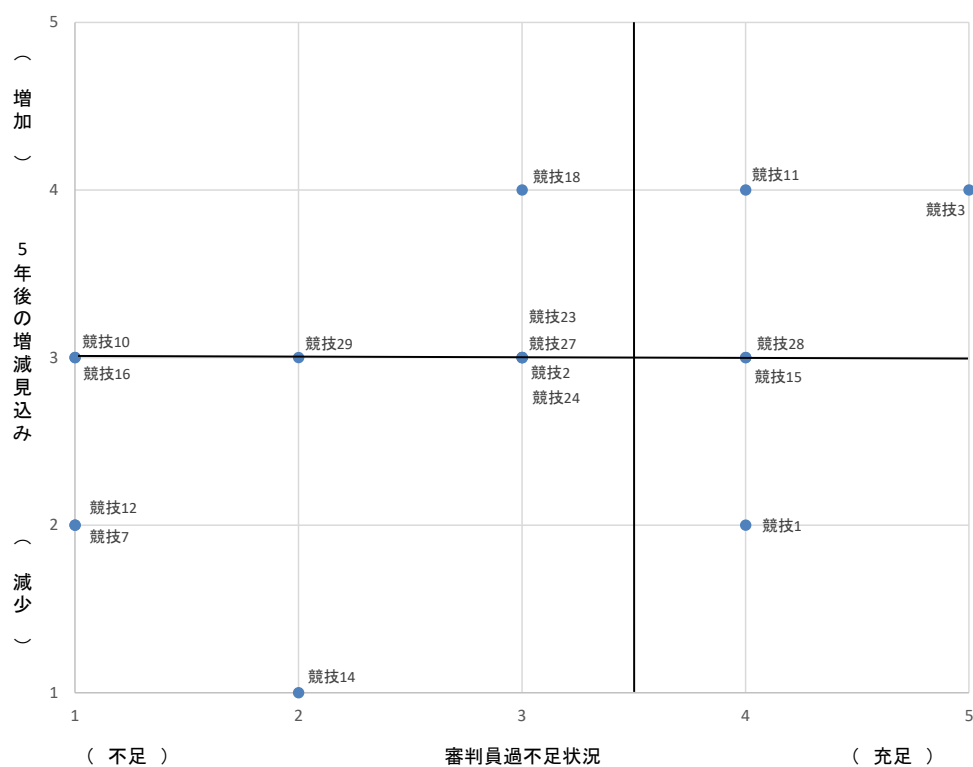


【クロス分析：問 17 審判員数過不足状況×問 18 増減見込み】

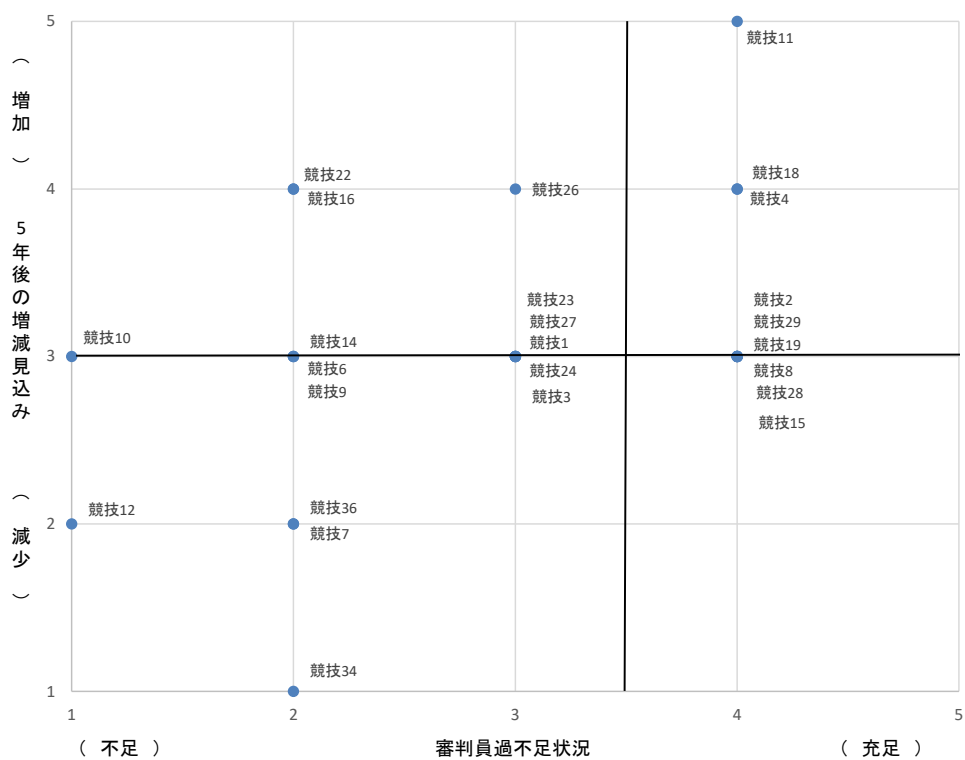
図表 II-94 審判員全体（全レベルの平均）



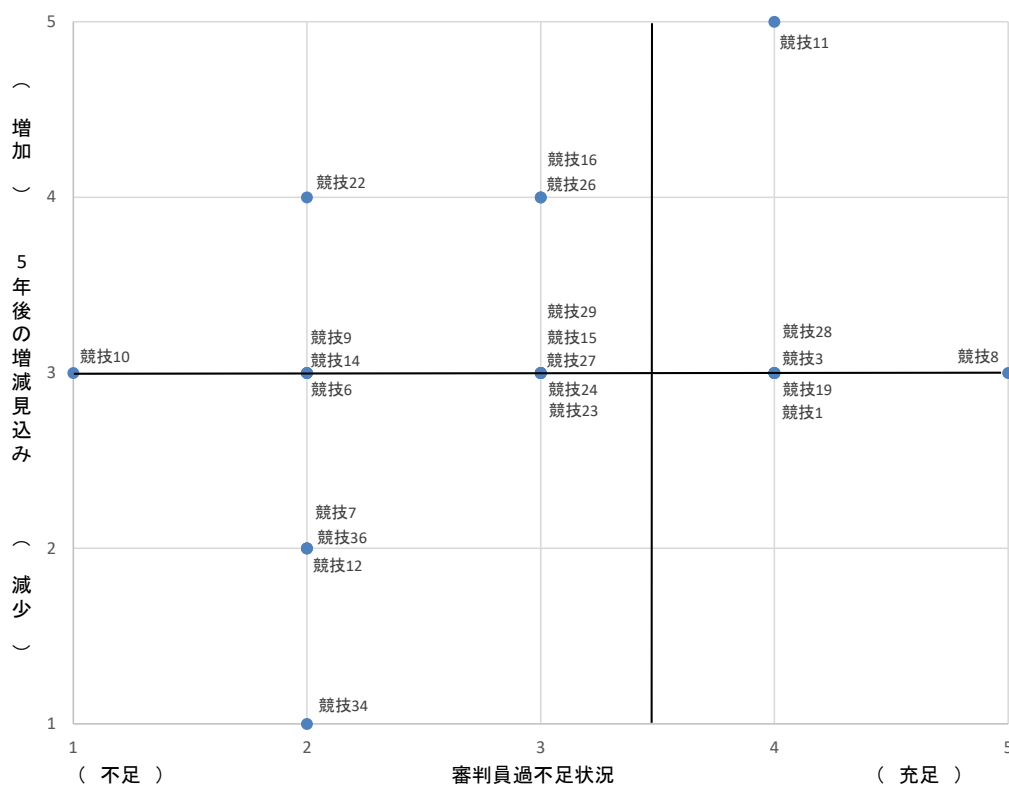
図表 II-95 国際大会レベル審判員



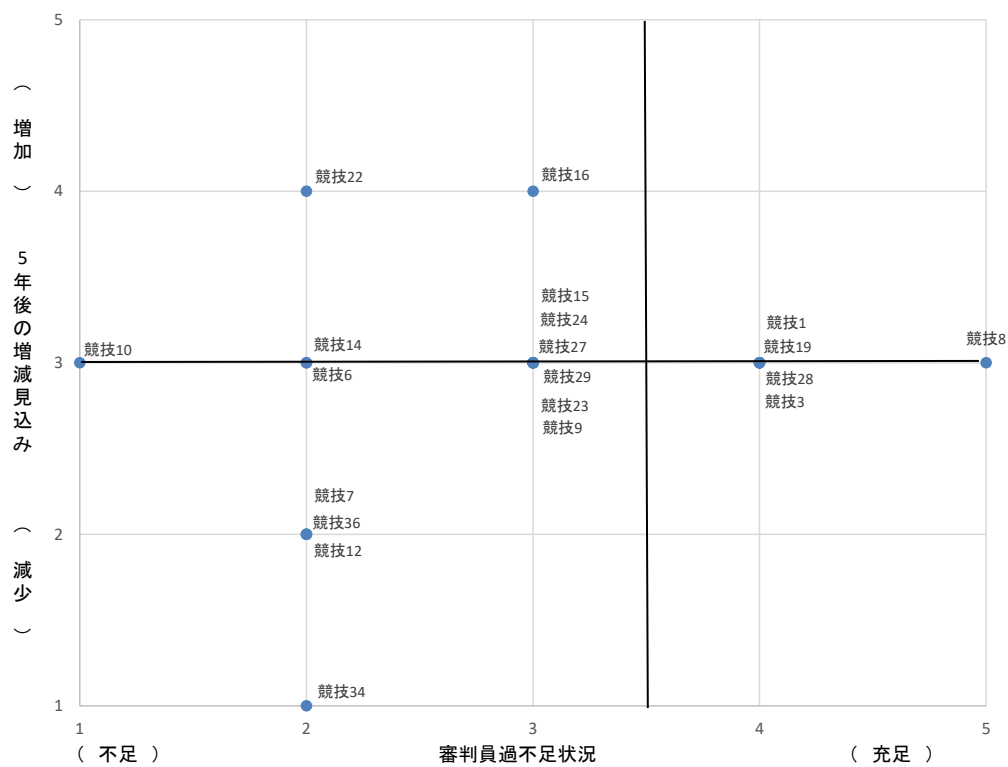
図表 II-96 全国大会レベル審判員



図表 II-97 地域大会レベル審判員



図表 II-98 市区町村大会レベル審判員

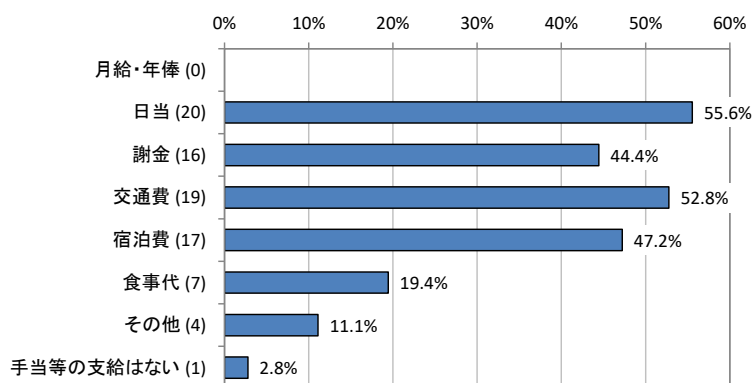


③ 手当の有無

- 審判員へ支給する手当は「日当」が 55.6%と最も高く、次に「交通費」52.8%である。「宿泊費」は 47.2%、「謝金」は 44.4%である。日当の 1 日当たりの最低額、最高額はいずれも 2,000 円が最も多い。謝金の 1 日当たりの最低額は 5,000 円が最も多く、最高額は 10,000 円が最も多い。

問 23. NF 主催の日本選手権等、国内最上位の大会において、審判員へ支給する手当について当てはまるものをお答えください。

図表 II-99 審判員への手当



その他の回答としては、健常者の団体から支給している団体が 2 団体、大会時に弁当を支給する団体が 1 団体ある。

問 23-1. 問 23 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの金額を数字でお答えください。

図表 II-100 日当の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	2	0
1,001～3,000円	14	11
3,001～5,000円	4	4
5,001～10,000円	0	2
10,000円以上	0	2
平均	2,575.0	6,973.7
最頻値	2,000	2,000
最大	5,000	50,000
最小	1,000	2,000
回答件数	20	19

問 23-2. 問 23 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの金額を数字でお答えください。

図表 II-101 謝金の 1 日当たりの金額

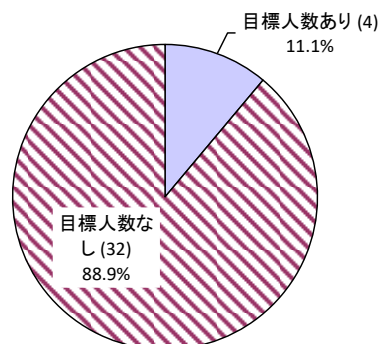
	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	5	3
3,001～5,000円	4	4
5,001～10,000円	4	6
10,000円以上	0	3
平均	4,607.1	9,937.5
最頻値	5,000	10,000
最大	10,000	30,000
最小	0	2,000
回答件数	14	16

④ 育成計画

- 「育成目標人数がある」と回答したのは 11.1%である。
- 育成計画を「策定している」と回答したのは 19.4%である。

問 24. 貴団体では審判員の育成目標人数を定めていますか。

図表 II-102 審判員の育成目標人数の有無

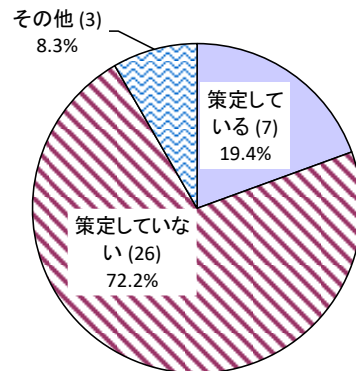


問 24-1. 審判員の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。

育成目標は、約 5 年後までの期間で、審判員の資格種別毎に育成目標を定めている団体が多い。

問 25. 貴団体では審判員の育成計画を策定されていますか。

図表 II-103 審判員育成計画の有無



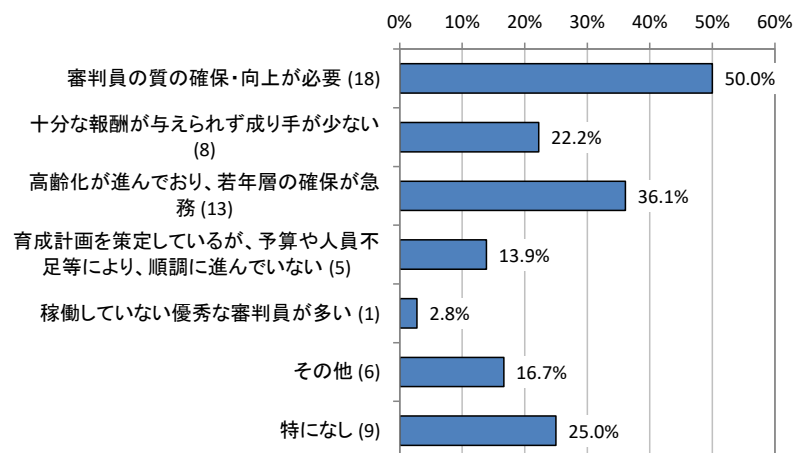
その他の回答としては、健常者の団体と一緒にやっている、加盟団体ごとに策定している等が挙げられた。

⑤ 課題

- 審判員に関わる課題としては、「審判員の質の確保・向上が必要」が 50.0%と最も高い。

問 26. 貴団体として感じておられる、審判員に関わる課題があればお答えください。（複数回答）

図表 II-104 審判員の課題



その他の回答としては、国際公認の審判員養成に伴う費用を課題とする団体が2団体ある。

4 クラス分け委員（※パラスポーツのみ）

① 人数

- 1 団体当たりのラス分け委員の平均は 4.6 人である。
- IF が認定するクラス分け委員の 1 団体当たりの平均は 0.7 人である。

問 27. 貴団体に所属するクラス分け委員の人数を数字でお答えください。

図表 II-105 クラス分け委員の人数

	クラス分け委員
0人	24
1～2人	3
3～5人	4
6～10人	1
10人以上	4
平均	4.6
最大	56
最小	0
回答件数	36

問 27-1. 上記のうち、IF が認定する資格を保有するクラス分け委員の人数を数字でお答えください。

図表 II-106 IF 認定資格を保有するクラス分け委員

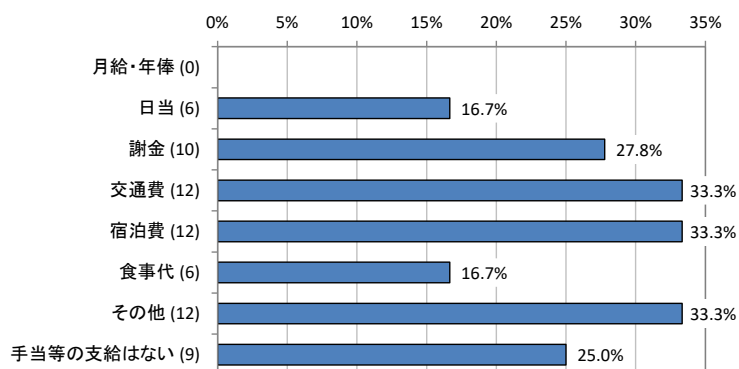
	IF 認定クラス分け委員
0人	23
1人	4
2人	2
3人	1
4人	0
5人以上	2
平均	0.7
最大	6
最小	0
回答件数	32

② 手当の有無

- 国内クラス分け委員への手当は「交通費」、「宿泊費」、「その他」がそれぞれ 33.3% と最も高い。「日当」は 16.7%、「謝金」は 27.8%である。日当の 1 日当たりの最低額、最高額はいずれも 2,000 円が最も多い。謝金の 1 日当たりの最低額、最高額も 10,000 円が最も多い。
- 国際クラス分け委員へ IF から支給する手当は、「手当等の支給はない」が 30.6% である。「日当」は 8.3%、「謝金」は 16.7%である。日当の 1 日当たりの最低額、最高額はいずれも 2,000 円が最も多い。謝金の 1 日当たりの最低額は 5,000 円、最高額は 10,000 円が最も多い。

問 28. 国内クラス分け委員へ支給する手当をお答えください。

図表 II-107 国内クラス分け委員への手当



その他の回答として、大会時の弁当を支給する団体が 1 団体、健常者の団体から支給される団体が 1 団体ある。

問 28-1. 問 28 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの金額を数字でお答えください。

図表 II-108 日当の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	5	3
3,001～5,000円	0	1
5,001～10,000円	0	0
10,000円以上	0	0
平均	1,833.3	3,000.0
最頻値	2,000	2,000
最大	3,000	5,000
最小	0	2,000
回答件数	6	4

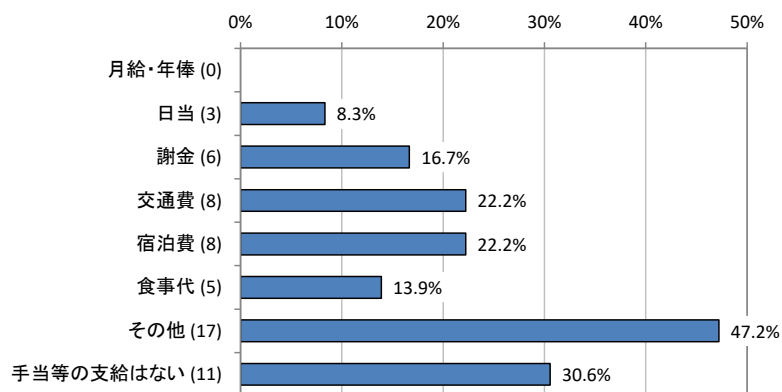
問 28-2. 問 28 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの金額を数字でお答えください。

図表 II-109 謝金の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	0	0
3,001～5,000円	3	1
5,001～10,000円	4	4
10,000円以上	2	5
平均	8,700.0	17,700.0
最頻値	10,000	10,000
最大	20,000	50,000
最小	0	5,000
回答件数	10	10

問 29. 国際クラス分け委員へ IF から支給する手当について当てはまるものをお答えください。

図表 II-110 国際クラス分け委員へ IF から支給する手当



その他の回答として、大会時の弁当が挙げられた。

問 29-1. 問 29 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの金額を数字でお答えください。

図表 II-111 日当の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	1	1
3,001～5,000円	0	0
5,001～10,000円	0	0
10,000円以上	0	0
平均	1,000.0	2,000.0
最頻値	2,000	2,000
最大	2,000	2,000
最小	0	2,000
回答件数	2	1

問 29-2. 問 29 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの金額を数字でお答えください。

図表 II-112 謝金の 1 日当たりの金額

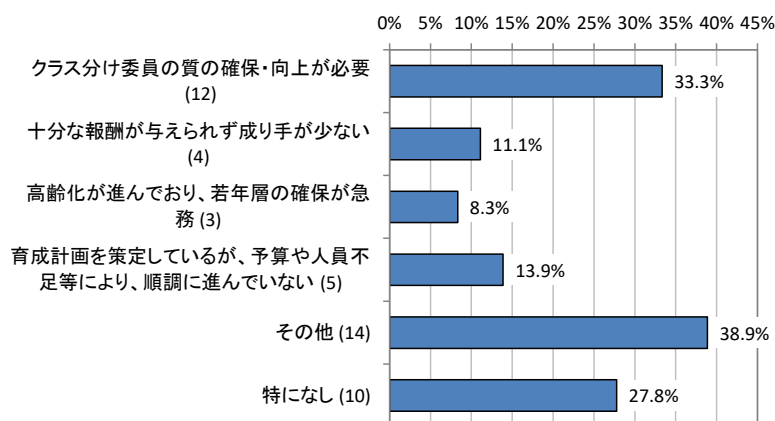
	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	0	0
3,001～5,000円	3	1
5,001～10,000円	1	2
10,000円以上	0	2
平均	5,000.0	19,000.0
最頻値	5,000	10,000
最大	10,000	50,000
最小	0	5,000
回答件数	5	5

③ 課題

- 課題として、「その他」が 38.9%で最も高く、次に「クラス分け委員の質の確保・向上が必要」が 33.3%と高い。

問 30. 貴団体として感じておられる、クラス分け委員に関わる課題があればお答えください。

図表 II-113 クラス分け委員に関わる課題



その他の回答としては、国内にクラス分け委員がいない、育成するための予算が確保できないという課題が複数挙げられた。

3. ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

① 人数

《指導者》

- 強化スタッフの中に、指導者（監督・コーチ）が「いる」と回答したのは 96.7% である。
- 必要な資格として、「特になし」が 36.4% と最も高い。具体的な資格の中で最も回答が高いのは「JSPO コーチ 3 レベル（全国大会レベル）（26.1%）」である。
- 人数平均は専業 2.4 人、兼業 6.8 人である。

《トレーナー》

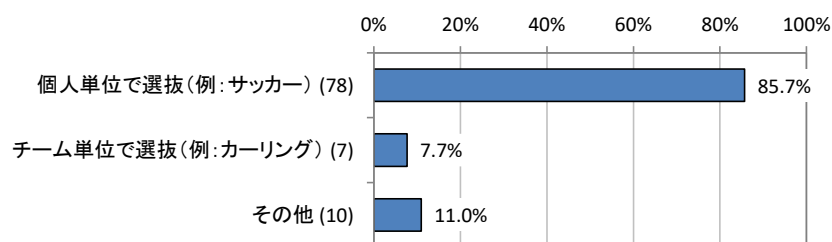
- 強化スタッフの中に、トレーナーが「いる」と回答したのは 80.2% である。
- 必要な資格として、「JSPO アスレティックトレーナー」が 38.4% と最も高く、次いで「理学療法士」が 34.2% である。
- 人数平均は専業 0.4 人、兼業 3.5 人である。

《強化スタッフ》

- 指導者（監督・コーチ）、トレーナー以外の強化スタッフの平均人数は、「ドクター」が 2.0 人、「アナリスト」が 0.8 人、「カウンセラー」が 0.3 人、「栄養士」が 0.6 人である。

問 1. 貴団体における強化指定選手の選定方法をお答えください。（複数回答）

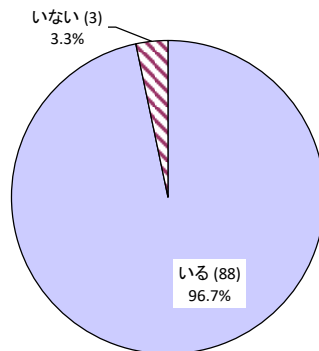
図表 II-114 強化指定選手の選定方法



その他の回答として、個人種目は個人単位で選抜し団体種目はチーム単位で選抜する団体のほか、国内大会の上位入賞者から選抜する団体がある。なお、強化指定制度・ナショナルチームを設けていないとした団体が 8 団体ある。

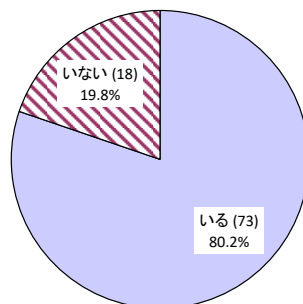
問 2. 強化スタッフの中に、指導者（監督・コーチ）はいますか。

図表 II-115 指導者の有無



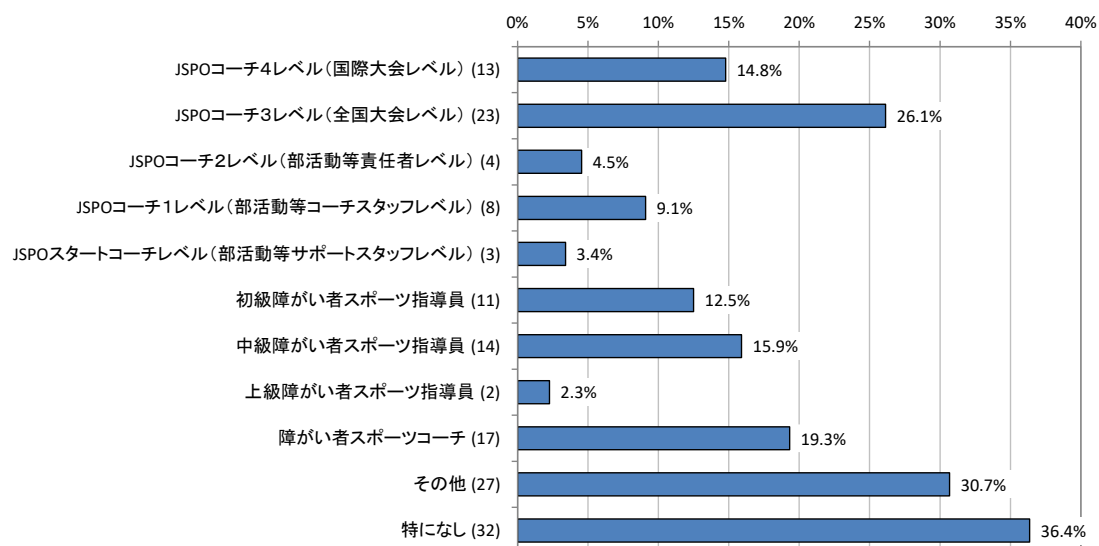
問 11. 強化スタッフの中に、トレーナーはいますか。

図表 II-116 トレーナーの有無



問 3. ナショナルチームの指導者（監督・コーチ）に必要な資格をお答えください。（複数回答）

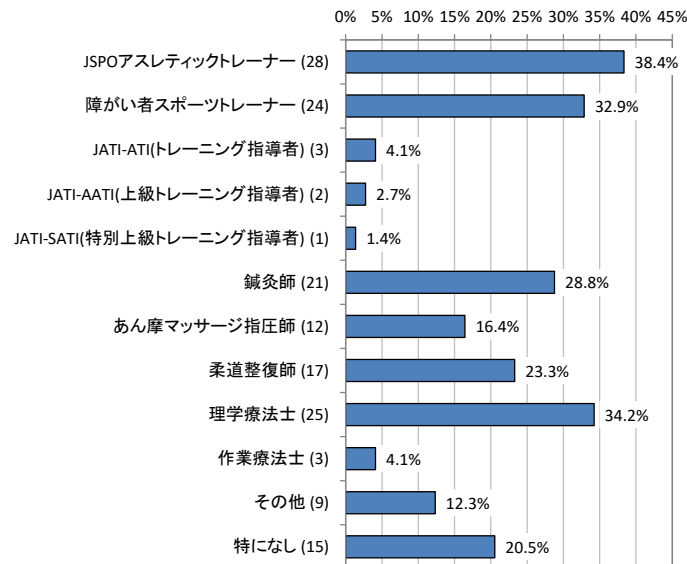
図表 II-117 指導者に必要な資格



その他の回答として、協会独自の資格を求める団体が 10 団体あるほか、国外のコーチ認定資格を求める団体が 2 団体、JOC ナショナルコーチアカデミー修了とする団体が 4 団体ある。特定の資格は必要とせず、競技や指導経験から判断するとした団体も複数ある。

問 12. ナショナルチームのトレーナーに必要な資格をお答えください。(複数回答)

図表 II-118 トレーナーに必要な資格



その他の回答としては、NASM Parformance Enhancemennt Specialist や NATA 認定アスレチックトレーナー等、NSCA-CSCS 等、国外で発行される認定資格を挙げる団体が4団体ある。資格を必須としない場合でも、JSPO やその他民間の資格を推奨する団体が多い。

問 4. ナショナルチームの指導者（監督・コーチ）の専業/兼業別の人数を数字でお答えください。

図表 II-119 指導者の専業/兼業別の人数

	専業	兼業
平均	2.4	6.8
最大	17	70
最小	0	0
回答件数	88	88

問 13. ナショナルチームのトレーナーの専業/兼業別の人数を数字でお答えください。

図表 II-120 トレーナーの専業/兼業別の人数

	専業	兼業
平均	0.4	3.5
最大	4	20
最小	0	0
回答件数	73	73

問 20. 指導者（監督・コーチ）、トレーナー以外の強化スタッフについて、スタッフ種類別の人数を数字でお答えください。

図表 II-121 スタッフ種類別の人数

	ドクター	アナリスト	カウンセラー	栄養士	その他
平均	2.0	0.8	0.3	0.6	2.2
最大	26	10	5	5	31
最小	0	0	0	0	0
回答件数	90	90	90	90	90

② 手当の有無

《指導者》

- 専業の指導者へ支給する手当は、「月給・年俸」が 68.5%と最も高い。「日当」は 24.1%、「謝金」は 27.8%である。日当の 1 日当たりの最低額は 2,000 円が最も多く、最高額は 5,000 円が最も多い。謝金の 1 日当たりの最低額は 10,000 円が最も多く、最高額は 50,000 円が最も多い。
- 兼業の指導者へ支給する手当は、「謝金」が 69.9%と最も高い。「日当」は 42.2%である。日当の 1 日当たりの最低額、最高額はいずれも 2,000 円が最も多い。謝金の 1 日当たりの最低額、最高額は 10,000 円が最も多い。

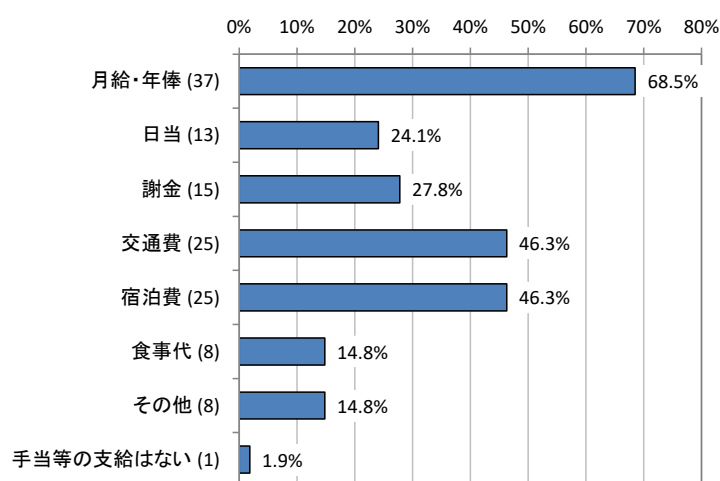
《トレーナー》

- 専業の指導者へ支給する手当は、「月給・年俸」と「交通費」が 50.0%と最も高い。「日当」「謝金」がそれぞれ 36.4%である。日当の 1 日当たりの最低額、最高額はいずれも 2,000 円が最も多い。謝金の 1 日当たりの最低額は 5,000 円が最も多く、最高額は 10,000 円が最も多い。
- 兼業の指導者へ支給する手当は、「謝金」が 82.4%と最も高い。「日当」は 45.6%である。日当の 1 日当たりの最低額、最高額はいずれも 2,000 円が最も多い。謝金

の1日当たりの最低額、最高額は10,000円が最も多い。

問4-1. 問4の「1.専業」にあたる指導者についておたずねします。指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（複数回答）

図表 II-122 専業指導者の手当



その他の回答として、住宅補助費、海外旅行保険、事業実施に必要な経費等が挙げられた。

問4-2. 問4-1で「2.日当」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-123 日当の1日当たりの金額（専業指導者）

	最低額	最高額
1,000円以下	0	0
1,001～3,000円	13	8
3,001～5,000円	0	5
平均	2,076.9	3,461.5
最頻値	2,000	5,000
最大	3,000	5,000
最小	2,000	2,000
回答件数	13	13

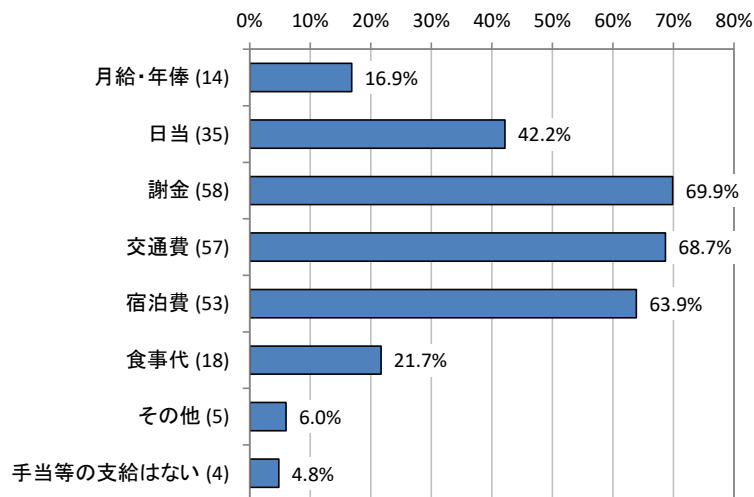
問 4-3. 問 4-1 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-124 謝金の 1 日当たりの金額（専業指導者）

	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	1	1
3,001～5,000円	3	1
5,001～10,000円	7	4
10,001～20,000円	0	1
20,001～30,000円	2	3
30,001円以上	0	4
平均	10,214.3	24,178.6
最頻値	10,000	50,000
最大	30,000	50,000
最小	1,000	3,000
回答件数	14	14

問 4-4. 問 4 の「2.兼業」にあたる指導者についておたずねします。指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（複数回答）

図表 II-125 兼業指導者の手当



その他の回答として、旅行雑費、事業実施に必要な経費等が挙げられた。

問 4-5. 問 4-4 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-126 日当の 1 日当たりの金額（兼業指導者）

	最低額	最高額
1,000円以下	8	1
1,001～3,000円	21	22
3,001～5,000円	1	9
5,001～10,000円	2	1
10,001～20,000円	0	1
20,001～30,000円	0	1
30,001円以上	0	0
平均	2,312.5	4,400.0
最頻値	2,000	2,000
最大	10,000	30,000
最小	0	1,000
回答件数	32	35

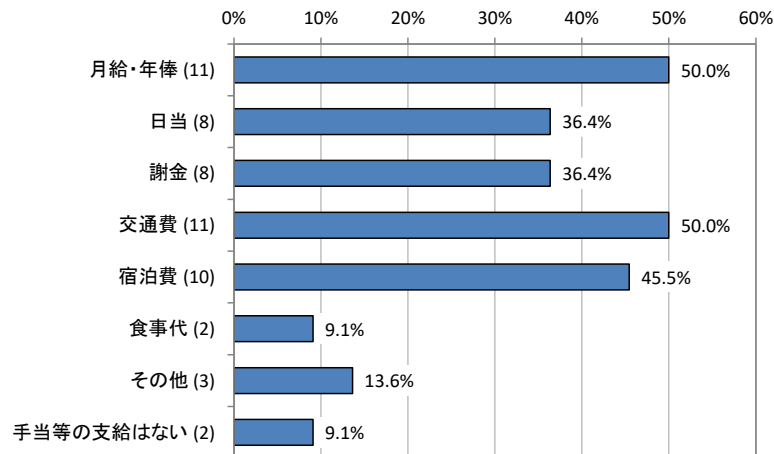
問 4-6. 問 4-4 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-127 謝金の 1 日当たりの金額（兼業指導者）

	最低額	最高額
1,000円以下	4	0
1,001～3,000円	5	0
3,001～5,000円	18	5
5,001～10,000円	23	24
10,001～20,000円	2	16
20,001～30,000円	0	8
30,001円以上	1	4
平均	8,509.4	21,824.6
最頻値	10,000	10,000
最大	100,000	300,000
最小	0	5,000
回答件数	53	57

問 13-1. 問 13 の「1.専業」にあたるトレーナーについておたずねします。トレーナーへ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（複数回答）

図表 II-128 専業トレーナーの手当



その他の回答として、事業実施に必要な経費等が挙げられた。

問 13-2. 問 13-1 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-129 日当の 1 日当たりの金額（専業トレーナー）

	最低額	最高額
1,000円以下	1	0
1,001～3,000円	7	6
3,001～5,000円	0	2
平均	1,875.0	3,125.0
最頻値	2,000	2,000
最大	2,000	5,000
最小	1,000	2,000
回答件数	8	8

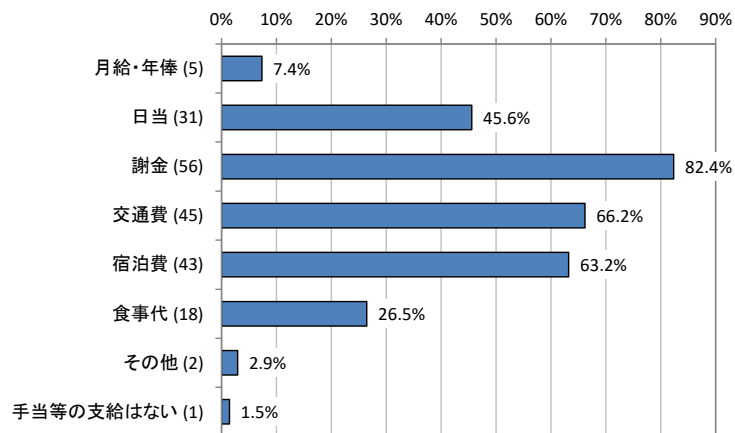
問 13-3. 問 13-1 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-130 謝金の 1 日当たりの金額（専業トレーナー）

	最低額	最高額
1,000円以下	0	0
1,001～3,000円	1	0
3,001～5,000円	3	1
5,001～10,000円	2	2
10,001～20,000円	1	1
20,001～30,000円	0	3
30,001円以上	1	1
平均	11,187.5	20,312.5
最頻値	5,000	10,000
最大	37,500	37,500
最小	3,000	5,000
回答件数	8	8

問 13-4. 問 13 の「2.兼業」にあたるトレーナーについておたずねします。トレーナーへ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（複数回答）

図表 II-131 兼業トレーナーの手当



その他の回答として、事業実施に必要な経費、資料作成費が挙げられた。

問 13-5. 問 13-4 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-132 日当の 1 日当たりの金額（兼業トレーナー）

	最低額	最高額
1,000円以下	7	1
1,001～3,000円	19	18
3,001～5,000円	1	9
5,001～10,000円	2	0
10,001～20,000円	0	0
20,001～30,000円	1	2
30,001円以上	0	1
平均	3,400.0	6,354.8
最頻値	2,000	2,000
最大	30,000	50,000
最小	0	1,000
回答件数	30	31

問 13-6. 問 13-4 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-133 謝金の 1 日当たりの金額（兼業トレーナー）

	最低額	最高額
1,000円以下	2	0
1,001～3,000円	2	0
3,001～5,000円	17	5
5,001～10,000円	19	18
10,001～20,000円	9	19
20,001～30,000円	3	11
30,001円以上	0	2
平均	9,615.0	16,345.1
最頻値	10,000	10,000
最大	27,843	50,000
最小	0	5,000
回答件数	52	55

③ 年間活動日数

《指導者》

- 年間活動日数の平均は、専業の指導者が 231.7 日、兼業の指導者が 65.5 日である。

《トレーナー》

- 年間活動日数の平均は、専業のトレーナーが 215.6 日、兼業のトレーナーが 53.9 日である。

問 5. ナショナルチームの指導者としての年間活動日数（平均的な日数）を、専業・兼業別に数字でお答えください。

図表 II-134 指導者の年間活動日数

	専業	兼業
平均	231.7	65.5
中央値	240	50
最大	365	300
最小	2	2
回答件数	49	78

問 14. ナショナルチームのトレーナーとしての年間活動日数（平均的な日数）を、専業・兼業別に数字でお答えください。

図表 II-135 トレーナーの年間活動日数

	専業	兼業
平均	215.6	53.9
中央値	240	50
最大	300	150
最小	70	2
回答件数	18	65

④ 選考基準・方法

《指導者》

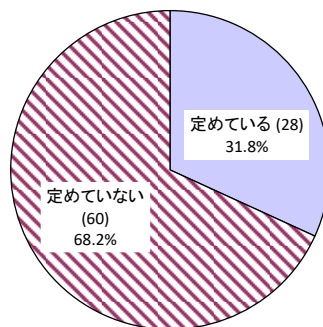
- 選考基準・方法を「定めている」のは 31.8%である。この選考基準・方法をホームページ等で「公開している」のは 16.3%である。

《トレーナー》

- 選考基準・方法を「定めている」のは 23.3%である。この選考基準・方法をホームページ等で「公開している」のは 7.3%である。

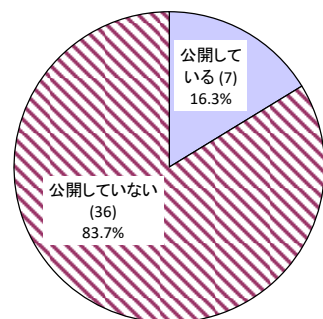
問 6. ナショナルチームの指導者の選考基準・方法を定めていますか。

図表 II-136 指導者の選考基準・方法の有無



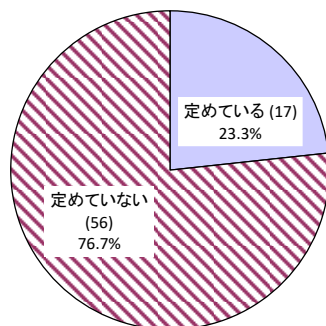
問 7. 問 6 で回答された選考基準・方法をホームページ等で公開していますか。

図表 II-137 選考基準・方法の公開の有無



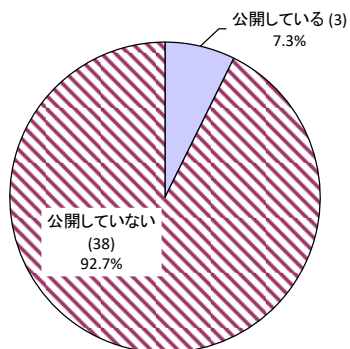
問 15. ナショナルチームのトレーナーの選考基準・方法を定めていますか。

図表 II-138 トレーナーの選考基準・方法の有無



問 16. 問 15 で回答された選考基準・方法をホームページ等で公開していますか。

図表 II-139 選考基準・方法の公開の有無



⑤ 評価制度

《指導者》

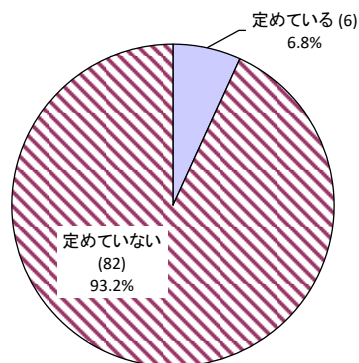
- 評価制度を「定めている」のは 6.8%である。

《トレーナー》

- 評価制度を「定めている」のは 4.1%である。

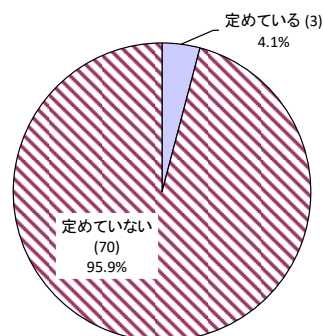
問 8. 貴団体において、ナショナルチームの指導者を評価する制度を定めていますか。

図表 II-140 指導者評価制度の有無



問 17. 貴団体において、ナショナルチームのトレーナーを評価する制度を定めていますか。

図表 II-141 トレーナー評価制度の有無



⑥ 育成計画

《指導者》

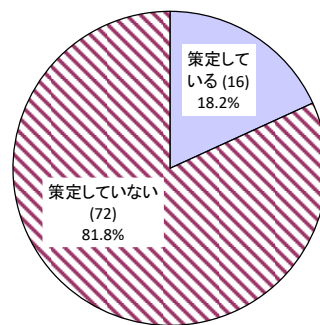
- 育成計画を「策定している」のは 18.2%である。

《トレーナー》

- 育成計画を「策定している」のは 9.6%である。

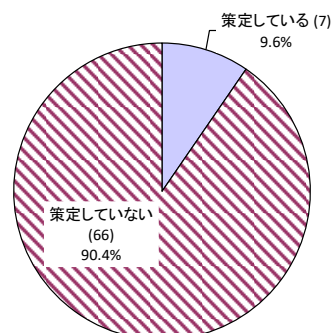
問 9. 貴団体において、ナショナルチームの指導者の育成計画を策定していますか。

図表 II-142 指導者の育成計画の有無



問 18. 貴団体において、ナショナルチームのトレーナーの育成計画を策定していますか。

図表 II-143 トレーナーの育成計画の有無



⑦ 課題

《指導者》

- 課題として「質の確保・向上が必要」が 70.5%と最も高く、次に「十分な報酬が与えられず成り手が少ない」が 56.8%と高い。

《トレーナー》

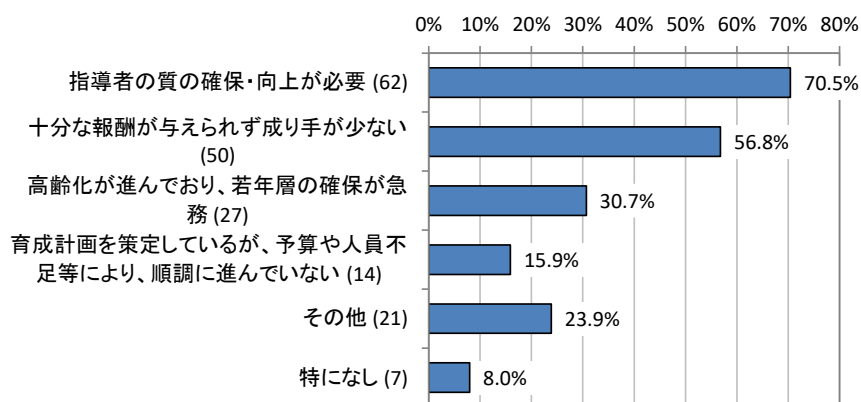
- 課題として「質の確保・向上が必要」が 61.6%と最も高く、次に「十分な報酬が与えられず成り手が少ない」が 60.3%と高い。

《強化スタッフ》

- 課題として「質の確保・向上が必要」が 70.0%と最も高く、次に「十分な報酬が与えられず成り手が少ない」が 55.6%と高い。

問 10. 貴団体として感じておられる、ナショナルチームの指導者に関する課題があればお答えください。

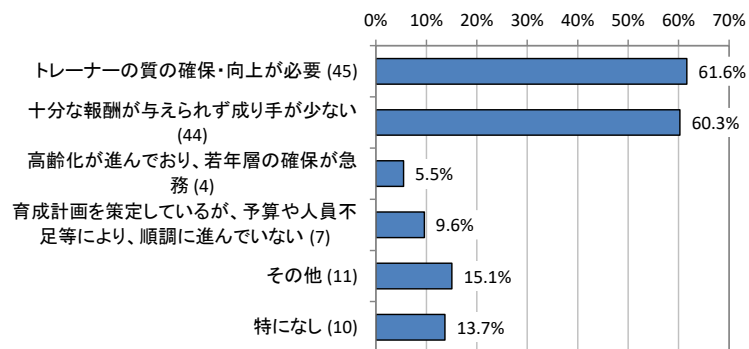
図表 II-144 指導者の課題



その他の回答として、兼業やボランティアの指導者が多いことに起因する課題が多く挙げられ、活動日を安定的に確保することや選手とのコミュニケーションをとることの難しさが指摘されている。また、指導者のレベルを国際水準に引き上げることや、国際経験を積むことへの課題も挙げられている。

問 19. 貴団体として感じておられる、ナショナルチームのトレーナーに関する課題があればお答えください。

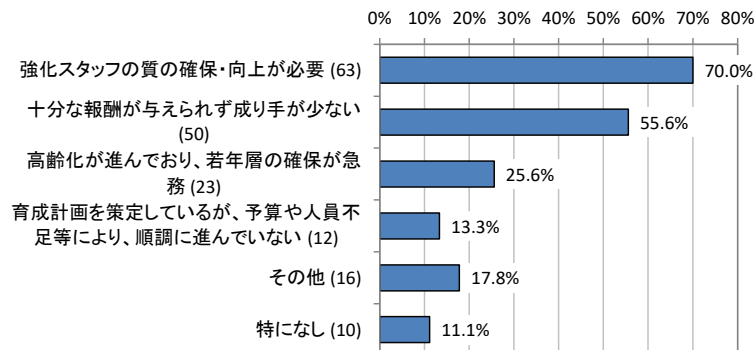
図表 II-145 トレーナーの課題



その他の回答として、女性トレーナーの不足・不在や、業務の細分化、専門化が進んでいること、選手が求める内容と専門性とのマッチングが難しいこと等が挙げられた。

問 21. 貴団体として感じておられる、ナショナルチームの強化スタッフに関する課題があればお答えください。

図表 II-146 強化スタッフの課題



その他の回答として、安定的に活動できる人材の確保を挙げる団体が多く見られる。ほかに、女性の強化スタッフの不在、育成年代の代表スタッフの確保等が挙げられた。

4. トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

1 チーム属性

- 所属選手数は、1 チーム当たり平均 25.6 人である。
- チーム形態は、クラブ型チームの割合が 51.2%、企業所有のチームが 44.7%である。

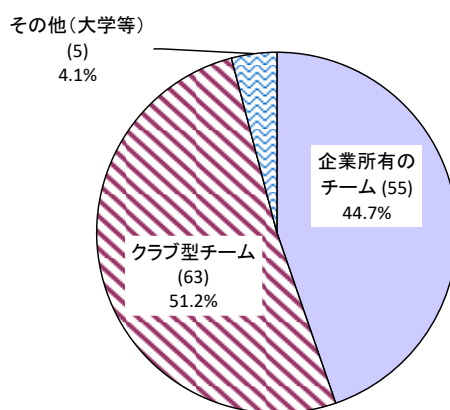
問 2. 貴チームに所属している選手の人数を数字でお答えください。¹⁰

図表 II-147 所属選手数

平均	25.6
最大	150
最小	8
回答件数	123

問 3. 貴チームは次のうちの形態に当てはまりますか。

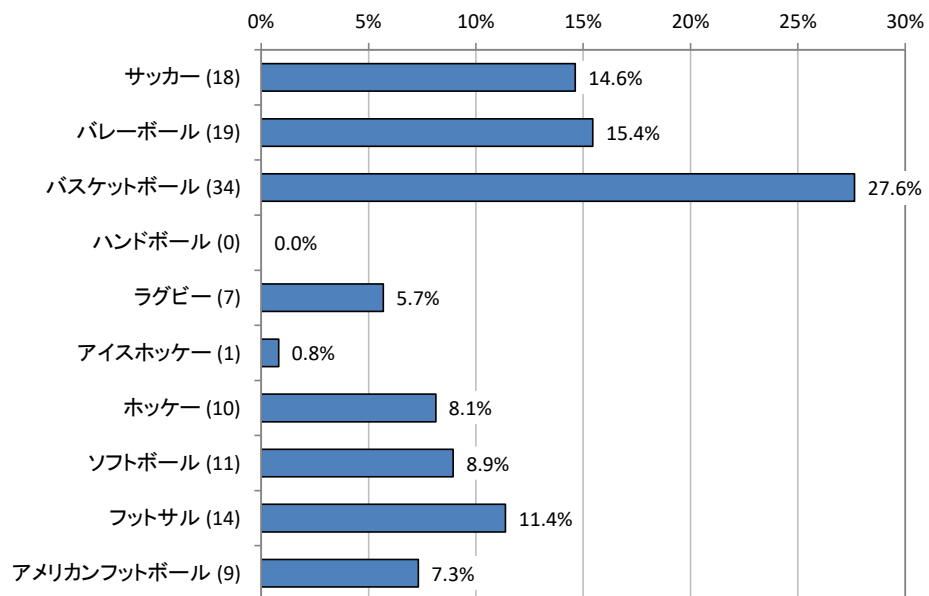
図表 II-148 チーム形態



¹⁰ 問 1 は「チーム名」を問う設問のため省略

問 5. 貴チームの競技をお答えください。

図表 II-149 競技の種類



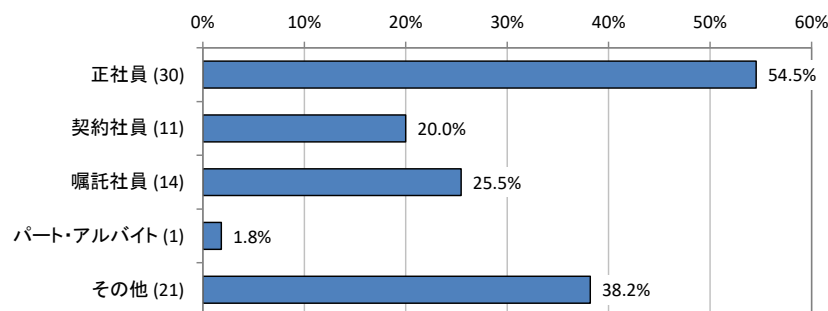
2 指導者

① 人数

- 指導者の雇用形態は、正社員として雇用しているチームが 30 チーム、プロ契約を含む業務委託契約を結んでいるチームが 18 チーム、嘱託社員として雇用しているチームが 14 チーム、契約社員として雇用しているチームが 11 チームある。
- 1 チーム当たりの指導者数は、アメリカンフットボールが 11.1 人と最も多く、次にラグビーが 7.1 人である。

問 4. 問 3 で「1.企業所有のチーム」を選択した場合、貴チームの指導者の雇用形態をお答えください。（複数回答）

図表 II-150 指導者の雇用形態



その他の回答として、業務委託契約を挙げるチームが多い。プロ契約を含む業務委託契約は 18 件である。

問 6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。

図表 II-151 競技別の指導者数

	サッカー	バレーボール	バスケットボール	ハンドボール	ラグビー	アイスホッケー	ホッケー	ソフトボール	フットサル	アメリカンフットボール
平均	5.4	4.1	3.7		7.1	3.0	3.5	3.2	5.4	11.1
最大	10	7	10	0	9	3	7	5	17	17
最小	2	1	1	0	5	3	2	1	2	4
回答件数	18	19	34	0	7	1	10	11	14	9

問 7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。

図表 II-152 サッカーの指導者資格別の人数

	S級コーチ (JSPOコーチ4)	A級コーチ (JSPOコーチ4)	B級コーチ (JSPOコーチ3)	C級コーチ (JSPOコーチ1)	D級コーチ	キッズリーダー	資格を有しない 指導者	その他
平均	0.6	1.6	1.9	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2
最大	2	5	4	4	2	2	2	1
最小	0	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	18	18	18	18	18	18	18	18

図表 II-153 バレーボールの指導者資格別の人数

	コーチ4 (JSPOコーチ4)	コーチ3 (JSPOコーチ3)	コーチ2 (JSPOコーチ2)	コーチ1 (JSPOコーチ1)	スタートコーチ (JSPOスタート コーチ)	資格を有しない 指導者	その他
平均	2.2	0.5	0.1	0.2	0.0	1.3	0.3
最大	11	2	1	1	0	4	2
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	19	19	19	19	19	19	19

図表 II-154 バスケットボールの指導者資格別の人数

	S級コーチ (JSPOコーチ4)	A級コーチ (JSPOコーチ4)	B級コーチ (JSPOコーチ3)	C級コーチ (JSPOコーチ1)	D級コーチ	E級コーチ	ジュニアエキス パート	キッズインス トラクター	資格を有しない 指導者	その他
平均	1.6	0.8	0.6	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
最大	3	3	3	2	3	1	0	0	1	0
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34

図表 II-155 ハンドボールの指導者資格別の人数

	S級コーチ (JSPOコーチ4)	コーチ3 (JSPOコーチ3)	コーチ2 (JSPOコーチ2)	コーチ1 (JSPOコーチ1)	スタートコーチ (JSPOスタート コーチ)	資格を有しない 指導者	その他
平均							
最大	0	0	0	0	0	0	0
最小	0	0	0	0	0	0	0
回答件数	0	0	0	0	0	0	0

図表 II-156 ラグビーの指導者資格別の人数

	S級コーチ	A級コーチ (JSPOコーチ3)	B級コーチ (JSPOコーチ1)	C級コーチ	スタートコーチ	資格を有しない 指導者	その他
平均	1.6	1.0	0.1	0.0	0.1	2.7	0.4
最大	2	3	1	0	1	7	3
最小	1	0	0	0	0	0	0
回答件数	7	7	7	7	7	7	7

図表 II-157 アイスホッケーの指導者資格別の人数

	コーチ1 (JSPOコーチ1)	資格を有しない 指導者	その他
平均	0.0	3.0	0.0
最大	0	3	0
最小	0	3	0
回答件数	1	1	1

図表 II-158 ホッケーの指導者資格別の人数

	コーチ4 (JSP0コーチ4)	コーチ3 (JSP0コーチ3)	コーチ2 (JSP0コーチ2)	コーチ1 (JSP0コーチ1)	資格を有しない 指導者	その他
平均	1.5	0.3	0.0	0.0	1.2	0.4
最大	3	2	0	0	5	3
最小	0	0	0	0	0	0
回答件数	10	10	10	10	10	10

図表 II-159 ソフトボールの指導者資格別の人数

	コーチ4 (JSP0コーチ4)	コーチ3 (JSP0コーチ3)	コーチ2 (JSP0コーチ2)	コーチ1 (JSP0コーチ1)	資格を有しない 指導者	その他
平均	0.5	1.1	0.2	0.3	0.8	0.1
最大	3	3	1	2	2	1
最小	0	0	0	0	0	0
回答件数	11	11	11	11	11	11

図表 II-160 フットサルの指導者資格別の人数

	A級コーチ (JSP0コーチ4)	B級コーチ (JSP0コーチ3)	C級コーチ (JSP0コーチ1)	資格を有しない 指導者	その他
平均	1.3	1.4	1.1	1.3	0.4
最大	5	3	3	10	2
最小	0	0	0	0	0
回答件数	14	14	14	14	14

図表 II-161 アメリカンフットボールの指導者資格別の人数

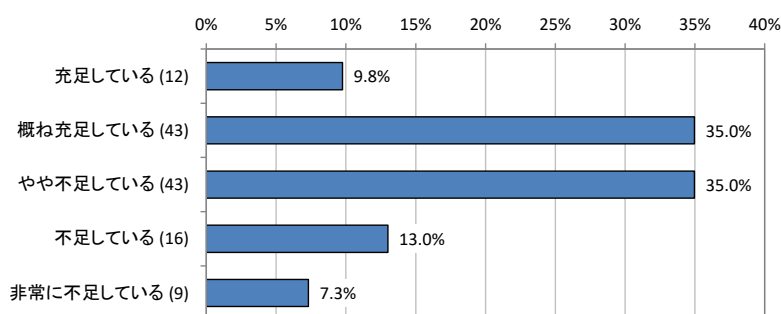
	コーチ3 (JSP0コーチ3)	コーチ1 (JSP0コーチ1)	資格を有しない 指導者	その他
平均	0.0	0.2	10.9	0.0
最大	0	2	17	0
最小	0	0	4	0
回答件数	9	9	9	9

② 需給状況

- 過不足状況について、「概ね充足している」「やや不足している」がそれぞれ 35.0% である。不足の背景として、「必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と感じている」が 42.3% で最も高い。

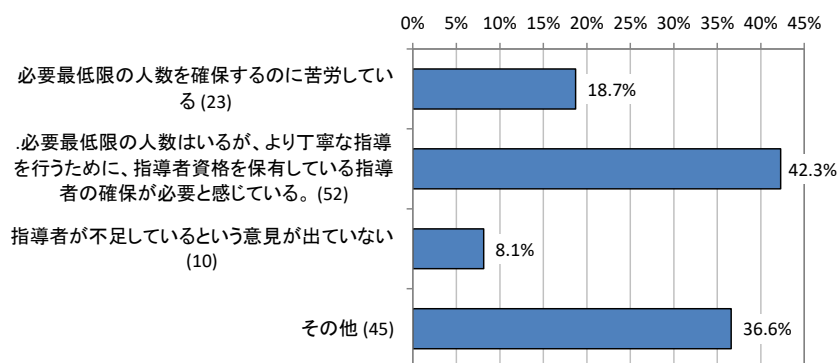
問 8. 貴チームの指導者数の過不足状況をお答えください。

図表 II-162 指導者数の過不足状況



問 9. 問 8 の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。（複数回答）

図表 II-163 過不足の理由や背景



その他の回答として、選手数に対しては十分又は適正な人数を確保できているとする団体が 20 団体程度みられる。不足するとしたチームにおいては、トレーナー、医療分野の専門家、スキルコーチ、フルタイムコーチの不足が挙げられた。

③ 年間活動日数

- 指導者の年間指導日数（平均的な日数）は 229.8 日である。

問 10. 貴チームの指導者の年間指導日数（平均的な日数）を数字でお答えください。

図表 II-164 指導者の年間指導日数

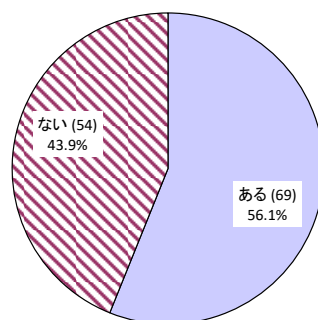
平均	229.8
中央値	250
最大	340
最小	5
回答件数	123

④ 地域交流

- スポーツ少年団等の地域のジュニアクラブへの「指導者派遣機会がある」と回答したのは 56.1%である。派遣回数の平均は 16.4 回である。

問 11. スポーツ少年団等の地域のジュニアクラブに対し、貴チームの指導者を派遣する機会がありますか。

図表 II-165 ジュニアクラブへの指導者派遣機会の有無



問 11-1. スポーツ少年団等の地域のジュニアクラブに対する、年間の指導者派遣回数を数字でお答えください。

図表 II-166 ジュニアクラブへの年間指導者派遣回数

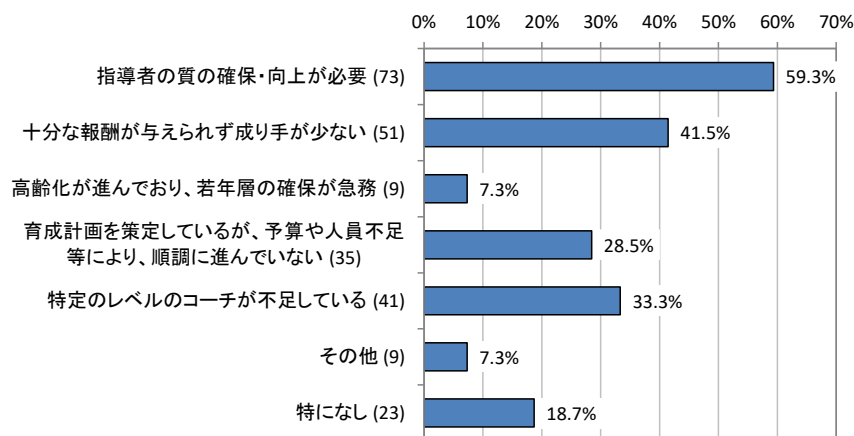
平均	16.4
最大	200
最小	1
回答件数	69

⑤ 課題

- 課題として「質の確保・向上が必要」が59.3%と最も高い。

問 12. 貴チームとして感じておられる、指導者に関わる課題があればお答えください。(複数回答)

図表 II-167 指導者の課題



その他の回答として、指導レベルを上げるための機会が不足していること、報酬の決め方や評価方法等が挙げられた。

3 専門スタッフ

① 人数

- 専門スタッフの平均人数は、「トレーナー」が2.4人、「ドクター」が1.3人、「アナリスト」が0.6人、「カウンセラー」が0.1人、「栄養士」が0.3人である。

問 13. 貴チームに所属する専門スタッフについて、スタッフ種類別の人数を数字でお答えください。

図表 II-168 専門スタッフの種類別人数

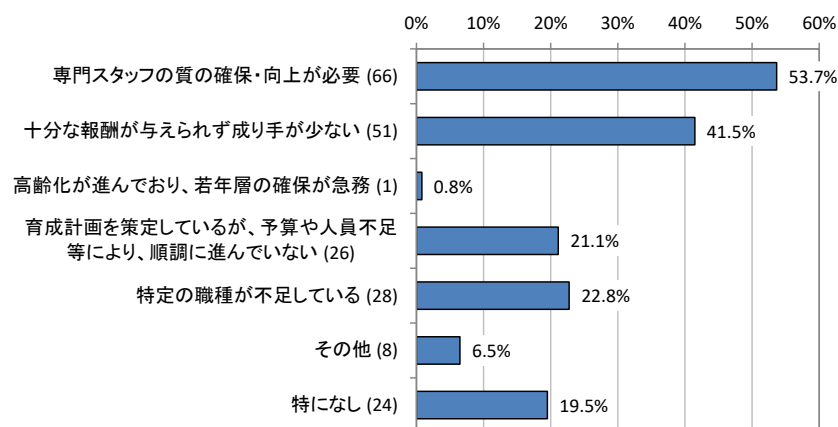
	トレーナー	ドクター	アナリスト	カウンセラー	栄養士	その他
平均	2.4	1.3	0.6	0.1	0.3	0.6
最大	10	10	7	2	2	14
最小	0	0	0	0	0	0
回答件数	123	123	123	123	123	123

② 課題

- 課題として、「質の確保・向上が必要」が53.7%と最も高く、次に「十分な報酬が与えられず成り手が少ない」が41.5%と高い。

問 14. 貴チームとして感じておられる、専門スタッフに関する課題があればお答えください。（複数回答）

図表 II-169 専門スタッフの課題



その他の回答として、条件に見合ったスタッフの選出、報酬の決め方、評価方法、ドクターに対する規則が明確に定められていないこと等が挙げられた。

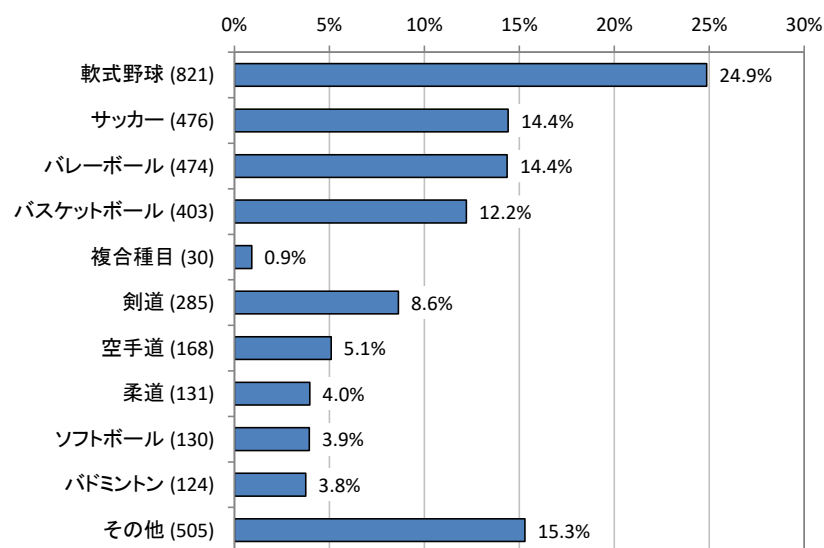
5. スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

1 チーム属性

- 1 団当たりの所属団員数は平均 25.5 人である。
- 総合型地域スポーツクラブと「連携して活動している」のは 605 団（18.3%）である。

問 1. 貴団の種目をお答えください。

図表 II-170 競技種目



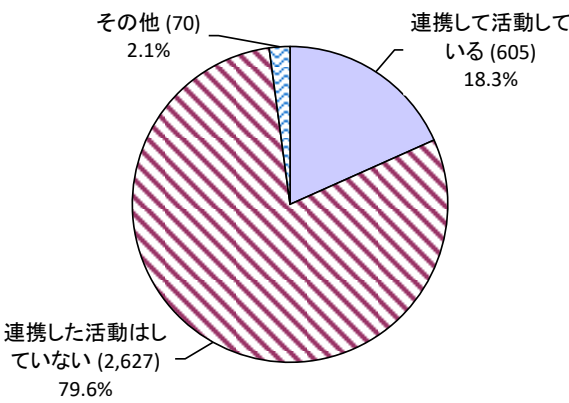
問 2. 貴団に所属している団員の人数を数字でお答えください。

図表 II-171 所属団員数

平均	25.5
最大	800
最小	0
回答件数	3,302

問 3. 貴団は総合型地域スポーツクラブと連携して活動していますか。

図表 II-172 総合型地域スポーツクラブとの連携の有無



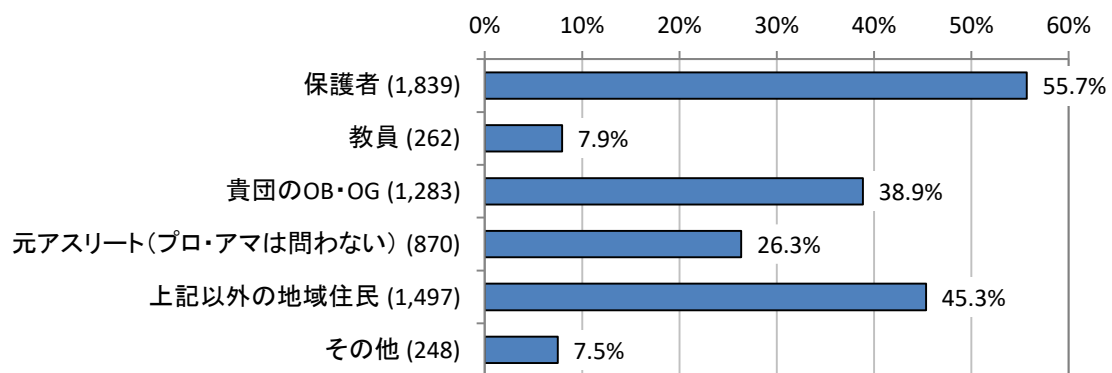
2 指導者

① 属性

- 指導者の属性は、保護者が 1,839 人、教員が 262 人、団の OB・OG が 1,283 人、元アスリート(プロ・アマは問わない)が 870 人、上記以外の地域住民が 1,497 人、その他が 248 人である。

問 4. 貴団の指導者の属性をお答えください。(複数回答)

図表 II-173 指導者の属性



② 人数

- 1 団当たりの平均指導者数は 6.4 人で、専業は 0.3 人、兼業は 5.4 人である。

問 5. 貴団の登録指導者数を数字でお答えください。

図表 II-174 登録指導者数

平均	6.4
最大	200
最小	0
回答件数	3,302

問 6. 貴団の指導者の専業、兼業別の人数を数字でお答えください。

図表 II-175 指導者の専業/兼業別人数

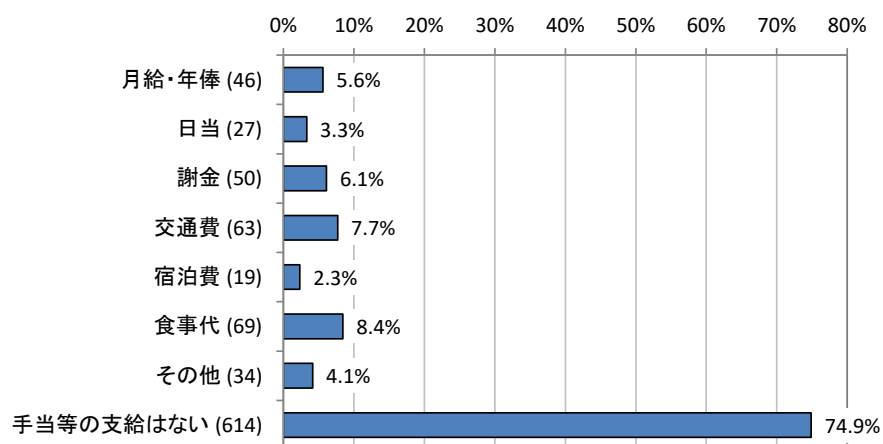
	専業	兼業	その他(専業主婦/主夫、年金生活者等)
平均	0.3	5.4	0.4
最大	30	200	43
最小	0	0	0
回答件数	3,302	3,302	3,302

③ 手当の有無

- 専業の指導者への手当は、「支給はない」が74.9%と最も高い。「日当」は3.3%、「謝金」は6.1%である。日当の1日当たりの最低額は1,000円、最高額は2,000円が最も多い。謝金の1日当たりの最低額、最高額はいずれも1,000円が最も多い。
- 兼業の指導者への手当は、「支給はない」が67.6%と最も高い。「日当」は1.8%、「謝金」は9.3%である。日当の1日当たりの最低額、最高額はいずれも1,000円が最も多い。謝金の1日当たりの最低額は1,000円、最高額は10,000円が最も多い。

問 6-1. 問 6 の「1.専業」にあたる指導者についておたずねします。指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。(複数回答)

図表 II-176 専業指導者の手当



問 6-2. 問 6-1 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-177 日当の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	13	8
1,001～2,000円	4	4
2,001～3,000円	1	3
3,001～5,000円	3	3
5,001～10,000円	0	2
10,001～15,000円	0	0
15,001～20,000円	1	1
20,001～30,000円	0	1
平均	2,354.5	4,472.7
最頻値	1,000	2,000
最大	20,000	30,000
最小	0	200
回答件数	22	22

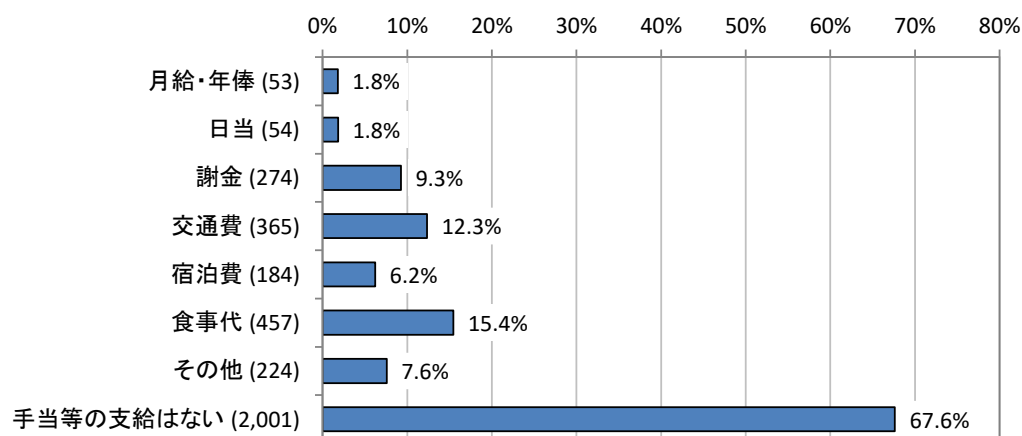
問 6-3. 問 6-1 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-178 謝金の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	29	23
1,001～2,000円	5	4
2,001～3,000円	2	4
3,001～5,000円	2	1
5,001～10,000円	3	4
10,001～15,000円	0	1
15,001～20,000円	1	2
20,001～30,000円	2	2
平均	3,361.4	4,479.6
最頻値	1,000	1,000
最大	30,000	30,000
最小	0	0
回答件数	44	41

問 6-4. 問 6 の「2.兼業」「3.その他（専業主婦/主夫、年金生活者等）」にあたる指導者についておたずねします。指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。
(複数回答)

図表 II-179 兼業/その他の指導者の手当



問 6-5. 問 6-4 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-180 日当の 1 日当たりの金額

	最低額	最高額
1,000円以下	39	21
1,001～2,000円	7	7
2,001～3,000円	2	4
3,001～5,000円	3	4
5,001～10,000円	0	4
10,001～15,000円	0	0
15,001～20,000円	0	1
平均	1,124.3	2,606.3
最頻値	1,000	1,000
最大	5,000	20,000
最小	1	30
回答件数	51	41

問 6-6. 問 6-4 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。

図表 II-181 謝金の 1 日当たりの金額

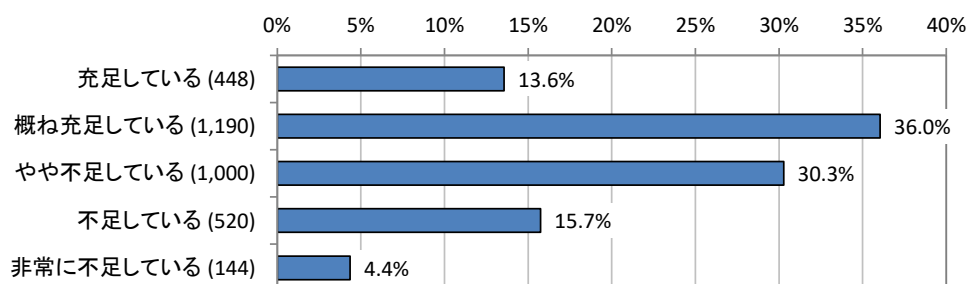
	最低額	最高額
1,000円以下	153	114
1,001～2,000円	19	24
2,001～3,000円	19	18
3,001～5,000円	19	24
5,001～10,000円	17	29
10,001～15,000円	0	2
15,001～20,000円	2	11
20,001～30,000円	0	1
30,001円以上	0	0
平均	1,983.7	3,602.6
最頻値	1,000	10,000
最大	20,000	25,000
最小	0	0
回答件数	229	223

④ 需給状況

- 過不足状況について、「概ね充足している」が 36.0%と最も高く、次に「やや不足している」が 30.3%と高い。「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」と回答した団の理想とする指導者数平均は 7.3 人である。
- 不足する背景として「必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と感じている」が 34.5%と最も高く、次に「成り手がおらず、必要最低限の人数を確保するのに苦労している」が 33.8%である。

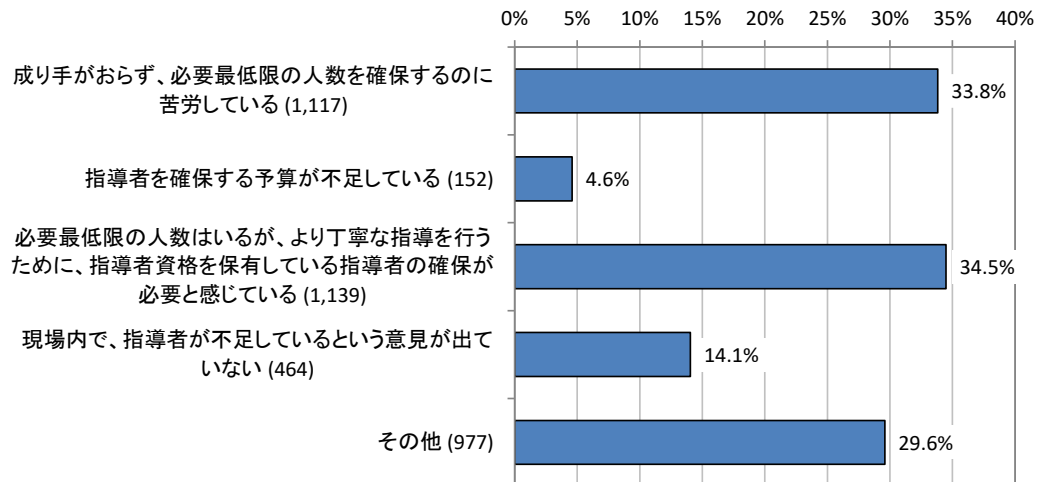
問 7. 問 7-1 の選択肢を参照の上、貴団の指導者数の過不足状況をお答えください。

図表 II-182 指導者の過不足状況



問 7-1. 問 7 の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(複数回答)

図表 II-183 過不足の理由や背景



問 8. 問 7 で「3.やや不足している」「4.不足している」「5.非常に不足している」と回答された方におたずねします。貴団が理想とする指導者数を数字でお答えください。

図表 II-184 理想とする指導者数

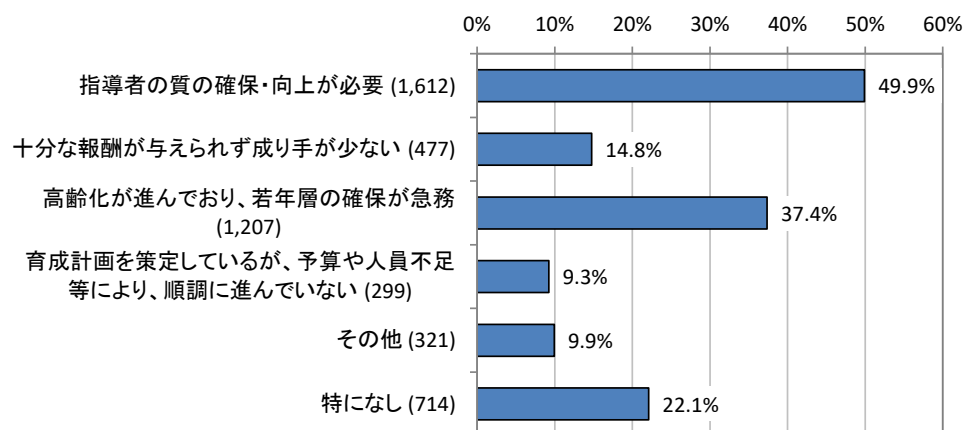
平均	7.3
最大	300
最小	0
回答件数	1,658

⑤ 課題

- 課題として「質の確保・向上が必要」が49.9%と最も高く、次に「高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務」が37.4%である。

問9. 貴団として感じておられる指導者に関する課題があればお答えください。(複数回答)

図表 II-185 指導者の課題



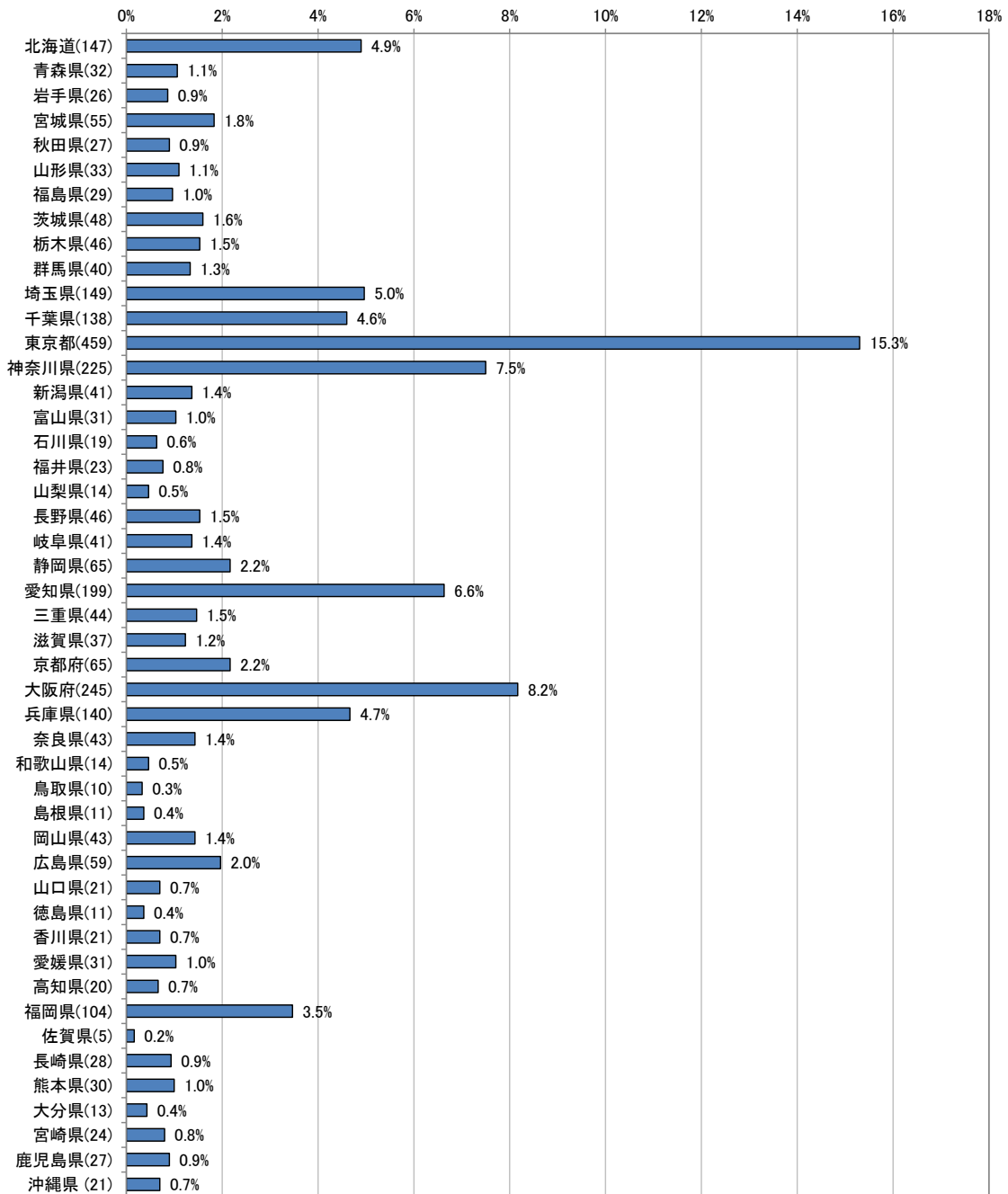
6. 指導者・専門スタッフ・審判員経験者に対するアンケート

① 活動状況

- スポーツチームの指導者（監督・コーチ）、専門スタッフ、審判員についての活動経験を聞いたところ、「審判員（50.4%）」、「指導者（監督・コーチ）（43.8%）」、「スタッフ（40.9%）」の順で回答が多い。また、男女別にみると男性は「指導者（58.5%）」が最も多く、女性は「専門スタッフ（65.8%）」が最も多かった。
- 携わるスポーツの範囲として最も回答が多かったのは「スポーツ少年団等のジュニアクラブ（43.5%）」、次いで「小・中・高の部活動（38.5%）」、「社会人チーム（実業団またはクラブチーム）（21.0%）」であった。「その他」として「NPO 法人」「アマチュア（一般人）チーム」「競技団体の協会関係者」「スポーツクラブのインストラクター」「障がい者スポーツ団体」等が挙げられた。
- 携わるスポーツ競技として最も回答が多かったのは「軟式野球（22.3%）」、次いで「サッカー（19.5%）」「バレーボール（15.3%）」「バスケットボール（12.4%）」であった。「その他」として、「テニス」「水泳・競泳」「卓球」「アメリカンフットボール」「フットサル」「車いすサッカー」「車いすテニス」等が挙げられた。
- 活動頻度について最も回答が多かったのは「週 1 回程度（23.7%）」、次いで「週 2 ～ 3 回程度（22.1%）」「月 1 回程度（22.0%）」であった。「その他」として、「決まったシーズンに限り、ほぼ毎日」「要請がある場合のみ」「試合や合宿時のみ」「2 ～ 3 か月に 1 回」等が挙げられた。指導者で「週 2 ～ 3 回程度」と「ほぼ毎日」で 5 割以上、スタッフで週 1 回程度以上が 6 割以上、審判員は「月 1 回程度」が約 4 割と指導者の活動頻度が多い。
- 活動形態を聞いたところ「兼業（87.6%）」がほとんどの割合を占めた。活動経験に問わずほとんどの属性が「兼業」であり、「専業」と回答した属性は主に「指導者」「複数にまたがり活動をしている」であった。「審判員」の専業は全体のわずか 4.0%であった。
- 手当の支給について最も回答が多かったのは「手当等の支給はない（53.4%）」で半数以上の割合を占めた。次いで、「日当（17.0%）」「交通費（16.5%）」「謝金（15.1%）」であった。また、「日当」の平均支給額は 8,503 円で、「謝金」の平均支給額は 8,655 円であった。
- 充足状況について最も回答が多かったのは「概ね充足している（31.9%）」、次いで「やや不足している（27.7%）」であった。不足していると感じる場面は、「1 日に複数試合実施される場合」「安全面の確保」「遠征時の引率」「審判と監督兼任なので、試合と審判が交互に続く時」「一人ひとりに対し指導する時」「専門知識のある人材」等が挙げられた。

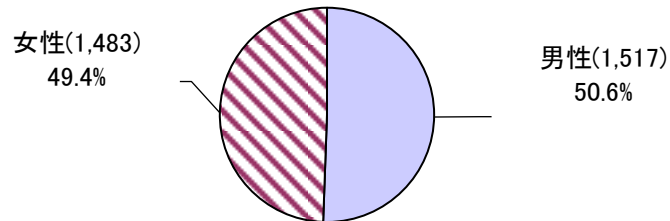
問 1. あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(n=3,000)

図表 II-186 回答者の所在地



問 2. あなたの性別をお答えください。(n=3,000)

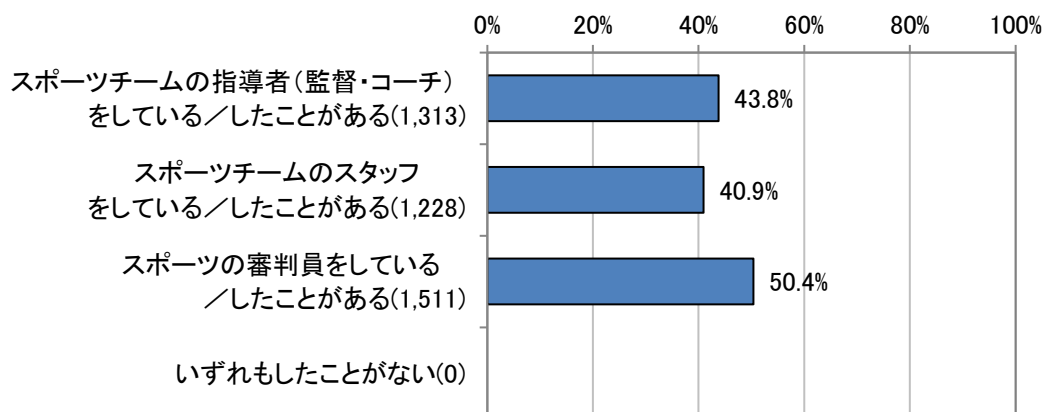
図表 II-187 性別



	全体	男性	女性
全体	3,000 (100.0%)	1,517 (50.6%)	1,483 (49.4%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ) をしている／したことがある	692 (100.0%)	405 (58.5%)	287 (41.5%)
スポーツチームのスタッフを している／したことがある	664 (100.0%)	227 (34.2%)	437 (65.8%)
スポーツの審判員を している／したことがある	853 (100.0%)	445 (52.2%)	408 (47.8%)
複数にまたがり活動している ／したことがある	791 (100.0%)	440 (55.6%)	351 (44.4%)

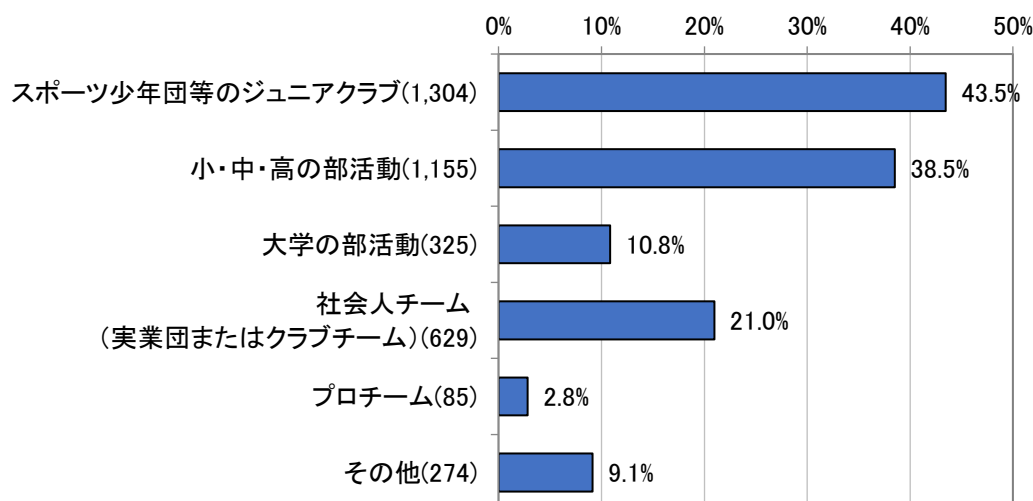
問 3. スポーツ活動に関わる活動経験について、以下の中から該当するものをすべて選択してください。ボランティアでの活動も含みます。(複数回答) (n=3,000)

図表 II-188 スポーツに関わる活動経験



問 4. 審判員・指導者・スタッフとして携わっているスポーツの対象範囲についてお答えください。(複数回答) (n=3, 000)

図表 II-189 携わっているスポーツの対象範囲



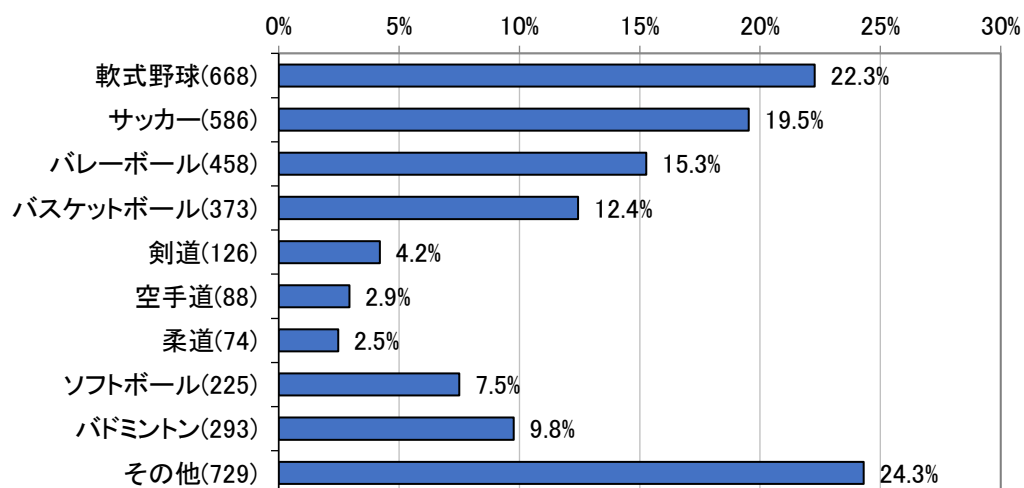
	全体	スポーツ少年団等のジュニアクラブ	小・中・高の部活動	大学の部活動	社会人チーム(実業団またはクラブチーム)	プロチーム	その他
全体	3,000 (1.26)	1,304 (43.5%)	1,155 (38.5%)	325 (10.8%)	629 (21.0%)	85 (2.8%)	274 (9.1%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ)	692	346	214	42	83	17	63
をしている/したことがある	(1.11)	(50.0%)	(30.9%)	(6.1%)	(12.0%)	(2.5%)	(9.1%)
スポーツチームのスタッフを	664	261	212	75	136	18	49
している/したことがある	(1.13)	(39.3%)	(31.9%)	(11.3%)	(20.5%)	(2.7%)	(7.4%)
スポーツの審判員を	853	229	360	75	204	17	95
している/したことがある	(1.15)	(26.8%)	(42.2%)	(8.8%)	(23.9%)	(2.0%)	(11.1%)
複数にまたがり活動している	791	468	369	133	206	33	67
/したことがある	(1.61)	(59.2%)	(46.6%)	(16.8%)	(26.0%)	(4.2%)	(8.5%)

《その他 回答例》

- NPO 法人
- アマチュア（一般人）チーム
- 競技団体の協会関係者
- スポーツクラブのインストラクター
- 障がい者スポーツ団体

問 5. 審判員・指導者・スタッフとして携わっているスポーツは何ですか。複数ある場合は、すべてお答えください。(複数回答) (n=3,000)

図表 II-190 携わっているスポーツ種目



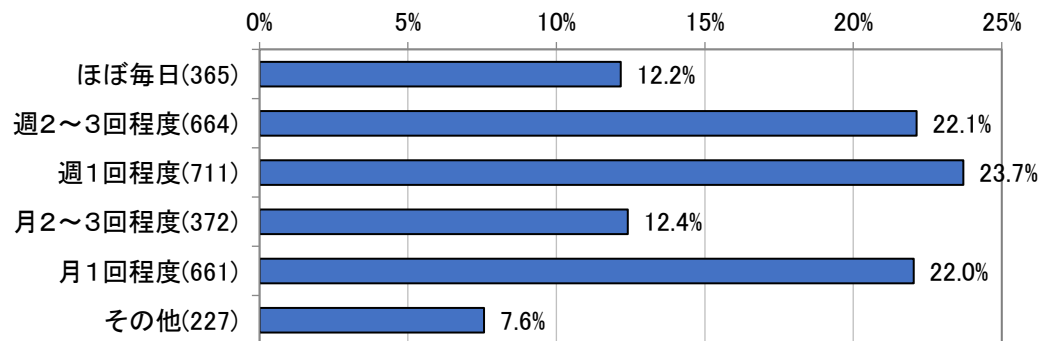
	全体	軟式野球	サッカー	バレーボール	バスケットボール	剣道	空手道	柔道	ソフトボール	バドミントン	その他
全体	3,000 (1.21)	668 (22.3%)	586 (19.5%)	458 (15.3%)	373 (12.4%)	126 (4.2%)	88 (2.9%)	74 (2.5%)	225 (7.5%)	293 (9.8%)	729 (24.3%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ)	692	190	95	70	69	13	19	15	48	39	182
をしている/したことがある	(1.07)	(27.5%)	(13.7%)	(10.1%)	(10.0%)	(1.9%)	(2.7%)	(2.2%)	(6.9%)	(5.6%)	(26.3%)
スポーツチームのスタッフを	664	143	136	104	70	19	16	12	43	69	135
している/したことがある	(1.13)	(21.5%)	(20.5%)	(15.7%)	(10.5%)	(2.9%)	(2.4%)	(1.8%)	(6.5%)	(10.4%)	(20.3%)
スポーツの審判員を	853	132	158	121	96	33	17	9	47	90	215
している/したことがある	(1.08)	(15.5%)	(18.5%)	(14.2%)	(11.3%)	(3.9%)	(2.0%)	(1.1%)	(5.5%)	(10.6%)	(25.2%)
複数にまたがり活動している	791	203	197	163	138	61	36	38	87	95	197
／したことがある	(1.54)	(25.7%)	(24.9%)	(20.6%)	(17.4%)	(7.7%)	(4.6%)	(4.8%)	(11.0%)	(12.0%)	(24.9%)

《その他 回答例》

- テニス
- 水泳・競泳
- 卓球
- アメリカンフットボール
- フットサル
- 車いすサッカー
- 車いすテニス

問 6. 審判員・指導者・スタッフとしての活動頻度をお答えください。(n=3,000)

図表 II-191 活動頻度



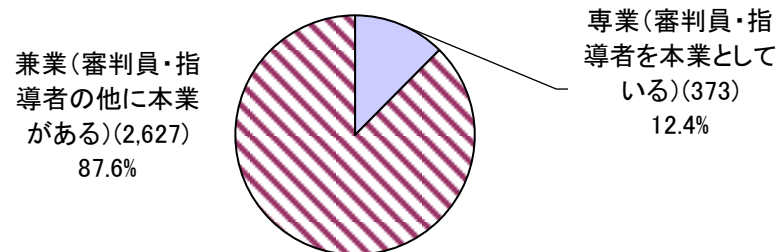
	全体	ほぼ毎日	週2～3回程度	週1回程度	月2～3回程度	月1回程度	その他
全体	3,000 (100.0%)	365 (12.2%)	664 (22.1%)	711 (23.7%)	372 (12.4%)	661 (22.0%)	227 (7.6%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ)	692	159	194	192	62	63	22
をしている／したことがある	(100.0%)	(23.0%)	(28.0%)	(27.7%)	(9.0%)	(9.1%)	(3.2%)
スポーツチームのスタッフをしている／したことがある	664	56	158	200	100	127	23
	(100.0%)	(8.4%)	(23.8%)	(30.1%)	(15.1%)	(19.1%)	(3.5%)
スポーツの審判員をしている／したことがある	853	24	76	135	122	337	159
	(100.0%)	(2.8%)	(8.9%)	(15.8%)	(14.3%)	(39.5%)	(18.6%)
複数にまたがり活動している／したことがある	791	126	236	184	88	134	23
	(100.0%)	(15.9%)	(29.8%)	(23.3%)	(11.1%)	(16.9%)	(2.9%)

《その他 回答例》

- 決まったシーズンに限り、ほぼ毎日
- 要請がある場合のみ
- 試合や合宿時のみ
- 2～3 か月に 1 回

問 7. 審判員・指導者・スタッフとしての活動形態をお答えください。(n=3,000)

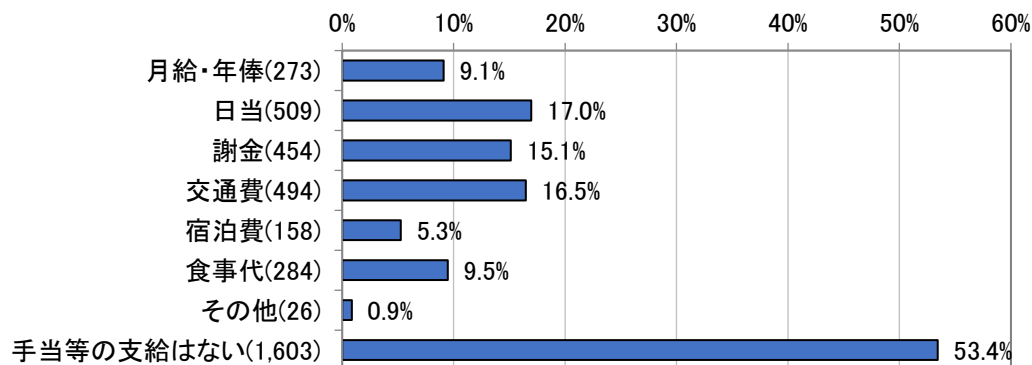
図表 II-192 活動形態（専業/兼業）



	全体	専業(審判員・指導者を本業としている)	兼業(審判員・指導者の他に本業がある)
全体	3,000 (100.0%)	373 (12.4%)	2,627 (87.6%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ) をしている／したことがある	692 (100.0%)	138 (19.9%)	554 (80.1%)
スポーツチームのスタッフを している／したことがある	664 (100.0%)	76 (11.4%)	588 (88.6%)
スポーツの審判員を している／したことがある	853 (100.0%)	34 (4.0%)	819 (96.0%)
複数にまたがり活動している ／したことがある	791 (100.0%)	125 (15.8%)	666 (84.2%)

問 8-1. 審判員・指導者・スタッフとしての活動に対し、次の手当を受け取っていますか。
(複数回答) (n=3,000)

図表 II-193 受け取っている手当



	全体	月給・年俸	日当	謝金	交通費	宿泊費	食事代	その他	手当等の 支給はない
全体	3,000 (1.27)	273 (9.1%)	509 (17.0%)	454 (15.1%)	494 (16.5%)	158 (5.3%)	284 (9.5%)	26 (0.9%)	1,603 (53.4%)
スポーツチームの指導者(監督・ コーチ)	692 (1.17)	98 (14.2%)	110 (15.9%)	94 (13.6%)	81 (11.7%)	29 (4.2%)	40 (5.8%)	13 (1.9%)	348 (50.3%)
スポーツチームのスタッフを している／したことがある	664 (1.25)	47 (7.1%)	125 (18.8%)	94 (14.2%)	136 (20.5%)	29 (4.4%)	77 (11.6%)	4 (0.6%)	316 (47.6%)
スポーツの審判員を している／したことがある	853 (1.13)	19 (2.2%)	101 (11.8%)	84 (9.8%)	95 (11.1%)	25 (2.9%)	69 (8.1%)	3 (0.4%)	568 (66.6%)
複数にまたがり活動している ／したことがある	791 (1.51)	109 (13.8%)	173 (21.9%)	182 (23.0%)	182 (23.0%)	75 (9.5%)	98 (12.4%)	6 (0.8%)	371 (46.9%)

《その他 回答例》

- 部活動指導手当
- 時間給
- 連盟から審判費
- 監督会議出席料

問 8-2. 問 6-1 で「2.日当」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。(数値) (n=509)

図表 II-194 日当の 1 日当たりの金額

	日当(円)
平均	8,503
最頻値	5,000
最大	500,000
最小	0
回答件数	509

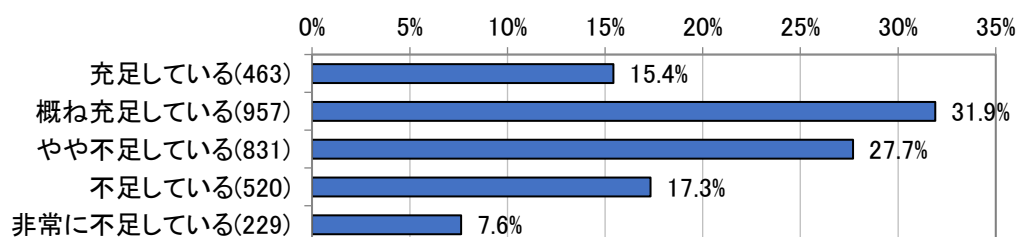
問 8-3. 問 6-1 で「3.謝金」を選択した場合、1 日当たりの支給金額を数字でお答えください。(数値) (n=454)

図表 II-195 謝金の 1 日当たりの金額

	謝金(円)
平均	8,655
最頻値	5,000
最大	681,000
最小	0
回答件数	454

問 9. あなたが活動するチーム・団体では、審判員、指導者の人数は充足していますか。どんな場合に不足しますか。(n=3,000)

図表 II-196 審判員/指導者の充足状況



	全体	充足している	概ね充足している	やや不足している	不足している	非常に不足している
全体	3,000 (100.0%)	463 (15.4%)	957 (31.9%)	831 (27.7%)	520 (17.3%)	229 (7.6%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ)をしている/したことがある	692 (100.0%)	126 (18.2%)	198 (28.6%)	194 (28.0%)	126 (18.2%)	48 (6.9%)
スポーツチームのスタッフをしている/したことがある	664 (100.0%)	69 (10.4%)	251 (37.8%)	209 (31.5%)	99 (14.9%)	36 (5.4%)
スポーツの審判員をしている/したことがある	853 (100.0%)	132 (15.5%)	253 (29.7%)	234 (27.4%)	160 (18.8%)	74 (8.7%)
複数にまたがり活動している/したことがある	791 (100.0%)	136 (17.2%)	255 (32.2%)	194 (24.5%)	135 (17.1%)	71 (9.0%)

《不足する場面 回答例》

- 1日に複数試合実施される場合
- 安全面の確保
- 遠征時の引率
- 審判と監督兼任なので、試合と審判が交互に続く時
- 一人ひとりに対し指導する時
- 専門知識のある人材

② 求められる能力や経験・キャリアパス

- 活動する上では、正確・公平なジャッジや知識、経験、コーチング能力のほか、ケア能力やコミュニケーション能力等、いわゆる“人間力”に関わる能力が必要とされている。それらの能力は、過去の競技経験や実践、研修会・講習会を通じて修得されている。
- これまでの競技経験について最も回答が多かったのは「野球（軟式・硬式）（14.8%）」、次いで「サッカー（12.6%）」「バレーボール（10.9%）」であった。また、平均経験年数は 11.7 年であった。
- 審判員・指導者・スタッフ以外の形でスポーツに携わっていた経験を聞いたところ、主な回答として「プロ・社会人・アマチュア選手」「県のスポーツ課職員」「スポーツ団体の職員」「メディカルトレーナー」等が挙げられた。
- 資格について聞いたところ、「保有している」が 15.3%であった。主な資格として「日本スポーツ協会公認資格」「国際審判員」「各競技団体の独自認定資格」「障がい者スポーツ指導員」「理学療法士」「管理栄養士」等が挙げられた。

問 10. 審判員、指導者として活動する上で求められる能力は何ですか。（自由記述）

《回答例》

- 正確・公平なジャッジ（約 910 件）
- 知識と経験（約 320 件）
- コーチング能力（約 200 件）
- マネジメント能力・ケア能力（約 180 件）
- コミュニケーション能力（約 150 件）
- リーダーシップ（約 80 件）
- 選手からの信頼（約 80 件）
- 冷静さ（約 60 件）
- 人間性（約 60 件）
- 体力・動体視力（約 50 件）
- スポーツが好きな気持ち（約 50 件）
- やる気（約 40 件）
- その他（スポーツを通しての人間形成の指導力、協調性、ボランティア精神、選手への平等な目線と対等な気持ち・中立の立場にること、ルールに基づいた素早く的確な判断力、競

技についての専門的な知識、プレイヤーの心身の状態を把握すること等)

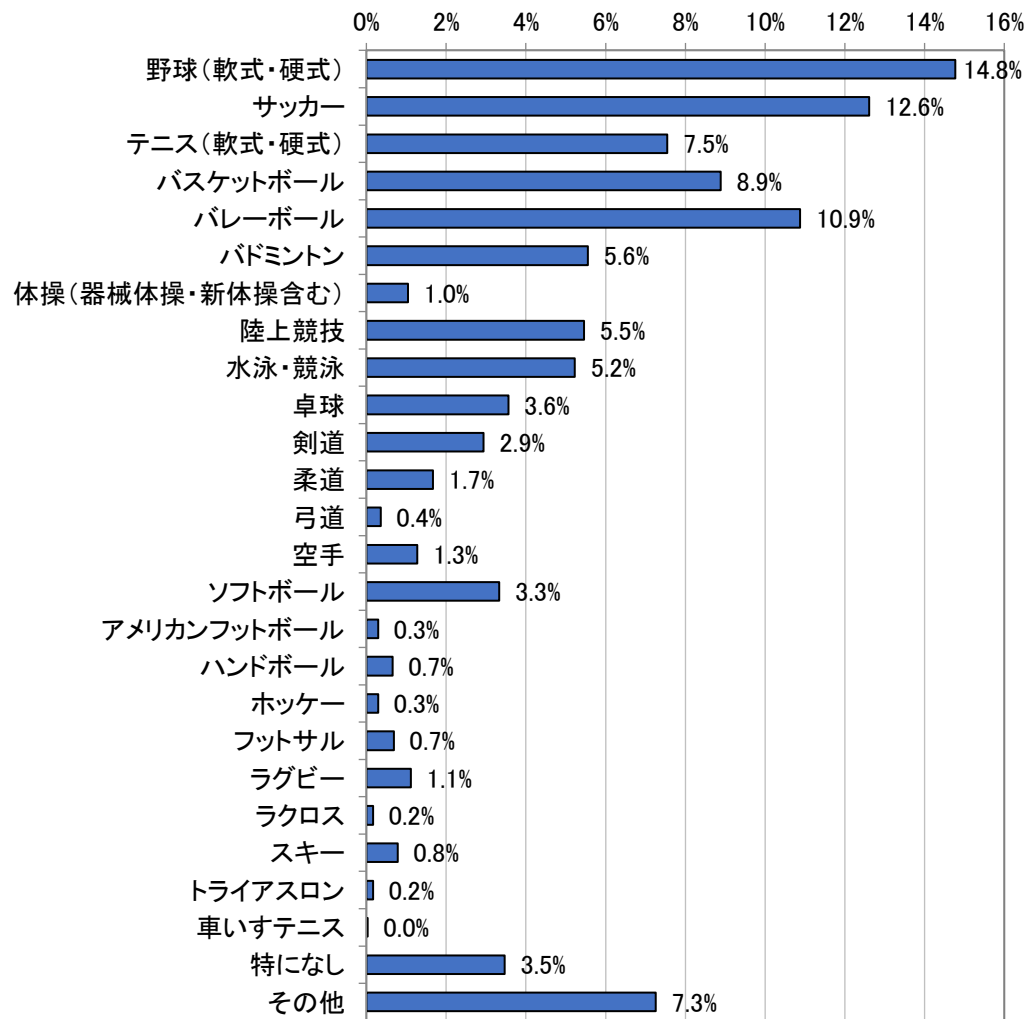
問 11. あなたはその能力をどういう経験や学びを通じて修得しましたか。(自由記述)

《回答例》

- 過去の競技経験・部活動 (約 580 件)
- 経験・体験・実践すること (約 570 件)
- 研修会・講習会 (約 210 件)
- 先輩・上級者からの指導 (約 140 件)
- コミュニケーション・人とのつながり (約 110 件)
- 教本 (約 50 件)
- 大学・学校・勉強 (約 50 件)
- 独学 (約 40 件)
- トレーニング (約 40 件)
- 観戦 (約 30 件)
- 子供から学ぶ (約 20 件)
- 競技以外の社会経験・生活 (20 件)
- インターネット (約 10 件)
- その他 (あらゆるジャンルの本を読み気付きを得ること、コーチングセミナー等への参加、YouTube、アマチュア・プロとしての経験、活動しながら学んでいる等)

問 12-1 あなたのこれまでの選手としての競技経験をお答えください。(経験年数の長い競技 3 つまで)。(自由記述) (n=3, 061)

図表 II-197 回答者の競技経験



《その他 回答例》

- 自転車競技
- アーチェリー
- ボクシング
- フィギュアスケート
- スノーボード

問 12-2. 問 12-1 で回答したそれぞれの競技経験の経験年数をお答えください。(数値)
(n3, 061)

図表 II-198 競技の経験年数

	経験年数(年)
平均	11.7
最頻値	3.0
最大	70.0
最小	0.0
回答件数	2,170

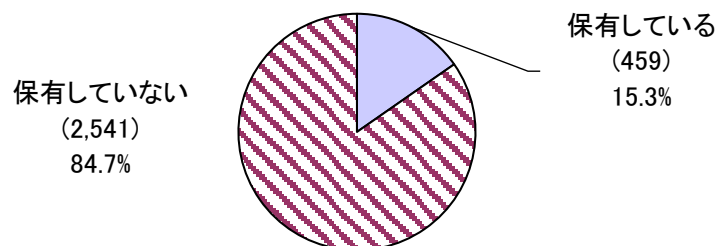
問 13. 審判員・指導者・スタッフ以外の形でスポーツに携わっていた経験がある場合は、内容をお答えください。部活動への参加は除きます。(自由記述)

《回答例》

- プロ選手
- 社会人のスポーツクラブの選手
- アマチュア選手
- U20 セパタクロー日本代表
- 県のスポーツ課職員
- スポーツクラブ職員
- 市スポーツ少年団役員
- スポーツ団体の会長、連盟役員
- スポーツ振興事業団関係者
- サッカー協会のスタッフ
- スポーツ団体の職員
- プロチームの職員
- バレーボールの実業団でメディカルトレーナー

問 14. スポーツの指導者、審判、スタッフに関する資格を保有していますか。保有している場合、具体的な資格名もお答えください。(n=3,000)

図表 II-199 保有資格の有無



	全体	保有している	保有していない
全体	3,000 (100.0%)	459 (15.3%)	2,541 (84.7%)
スポーツチームの指導者(監督・コーチ) をしている／したことがある	692 (100.0%)	83 (12.0%)	609 (88.0%)
スポーツチームのスタッフを している／したことがある	664 (100.0%)	47 (7.1%)	617 (92.9%)
スポーツの審判員を している／したことがある	853 (100.0%)	115 (13.5%)	738 (86.5%)
複数にまたがり活動している ／したことがある	791 (100.0%)	214 (27.1%)	577 (72.9%)

《回答例》

- 日本スポーツ協会公認資格
- 国際審判員
- 各競技団体の独自認定資格
- スポーツ少年団指導者認定証
- 障がい者スポーツ指導員
- 健康運動指導士
- 理学療法士
- 鍼灸あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師
- 管理栄養士
- アスレティックトレーナー
- 海外の医療資格

③ 活動をする上での課題

- 活動のきっかけを聞いたところ、主な回答として「子供とふれ合いたかった」「学校の部活顧問であったため」「選手としての経験」「自分の子供が少年野球チームに入団したため」「大学のサークル活動の一環」「知人に協力を頼まれたため」等が挙げられた。
- 過去に指導者や審判員、スタッフとして従事していたが、現在は携わっていない方に理由を聞いたところ、主な回答として「家事や仕事の両立の難しさ」「子供の卒業」「審判指導者講習を定期的に受け免許の更新が出来ない」「高齢化、自身の体力の限界」「お金がもらえないため、ボランティアの限界」等が挙げられた。
- 活動やキャリア形成の課題を聞いたところ、主な回答として「選手の技術力の強化・指導力不足」「子供への指導方法」「本業との両立の難しさ・時間の拘束」「運営資金の不足」「高齢化」「人員不足」等が挙げられた。

問 15. あなたがスポーツの指導者や審判員、スタッフとして従事することになったきっかけは何ですか。（自由記述）

《回答例》

- 知人からの勧誘や協力依頼等（約 850 件）
- 自身の活動経験から参加を決めた等（約 300 件）
- 自分の子供が入団したため必要であった等（約 350 件）
- 魅力に感じていた、子供と触れ合うことに興味関心があった等（約 200 件）
- 大学のサークル活動や部活動等（約 150 件）
- 人手不足等（約 100 件）
- 社会貢献、ボランティア活動の一環等（約 60 件）
- 入団している団体から活動を必須とされていた等（約 50 件）
- アルバイト・副業等（約 15 件）

問 16. 過去に指導者や審判員、スタッフとして従事していたが、現在は携わっていない方へおたずねします。現在携わっていない理由をお答えください。(自由記述)

《回答例》

- 家庭や本業との両立が難しい等 (約 350 件)
- 高齢化、視力低下によるジャッジへの不安等 (約 270 件)
- 転居・就職等による私事都合 (約 250 件)
- 子供の卒団等 (約 160 件)
- 新型コロナウイルスによる影響等 (約 50 件)
- 若い層にポジションを譲る等 (約 10 件)
- 人間関係による問題等 (約 10 件)
- 資格更新に行く難しさ等 (約 10 件)
- クラブチームの解散等 (約 10 件)
- ケガによる引退等 (約 10 件)
- お金がもらえないため、ボランティアの限界等 (約 10 件)

問 17. あなたがスポーツの指導者や審判員として活動したり、キャリアを形成するにあたって抱えている課題にはどんなものがありますか。(自由記述)

《回答例》

- 家庭や本業との両立が難しい等 (約 800 件)
- 謝金・報酬の少なさ等 (約 200 件)
- 高齢化、判断の遅れ等 (約 100 件)
- 指導の仕方、教育方法の難しさ等 (約 100 件)
- 講習会に参加できない、新しいルールや指導法の勉強等 (約 50 件)
- 人手不足等 (約 50 件)
- 新型コロナウイルスによる影響等 (約 40 件)
- クラブ内の指導方針や運営方針の相違による人間関係トラブル等 (約 30 件)
- ボランティアの限界等 (約 20 件)
- 保護者との関係性等 (約 10 件)

III. スポーツに関わる人材の活躍支援に向けた 課題分析

スポーツに関わる人材の活躍支援に向けた課題分析

1. スポーツに関わる人材（指導者・専門スタッフ・審判員）規模と活動環境の現状

【指導者】

- JSPO に加盟する競技団体の、全国の登録指導者数は約 16 万人である。40 代、50 代で全体の約 5 割を占めており、女性比率は 2 割程度となっている。年代構成と女性比率は、パラスポーツの指導者についても、同様の傾向がみられている。
- 登録指導者数が多い上位 3 競技（サッカー、バレーボール、水泳）で登録指導者全体の 45.5%を占めているが、水泳の指導者数は減少傾向にある。
- トップアスリートを支える人材として、ナショナルチームの指導者をみると、兼業の割合が専業の 2 倍以上である。トップリーグの指導者について、雇用形態をみると、正社員が最も多いが、業務委託契約と嘱託社員を合計すると正社員と同程度のチーム数となり、トップリーグ指導者でも半数以上は安定雇用されているわけではない。
- ジュニア育成を支える人材としては、指導者の多くが、保護者、地域住民、OB・OG で支えられている。

【審判員・スタッフ】

- アンケート回答団体では、スポーツ全体で約 75 万人の審判員が登録されている。20 代、60 代以上で全体の約 5 割を占めており、女性比率は 1 割である。パラスポーツの審判では、50 代、60 代で全体の約 4 割を占めており、女性比率は 2 割に満たない。
- トップアスリートを支える人材として、ナショナルチームのトレーナーをみると、専業の割合は約 1 割である。年間活動日数の平均は、専業トレーナーは兼業トレーナーに比べ約 4 倍多く稼働している。

（１）競技全体

①スポーツの指導者

- JSPO 加盟団体の登録指導者数の総数は 164,811 人である（2020 年 10 月 1 日時点）。
- 年代別では、40 代が 41,972 人で全体の 25.5%、50 代が 37,478 人で 22.7%である。
- 性別では、男性が 129,791 人で全体の 78.8%、女性が 35,020 人で 21.2%である。
- 指導者資格別では、コーチ 1 が 119,684 人で最も多く、コーチ 3 が 22,739 人、コーチ 2 が 11,509 人である。

②パラスポーツの指導者

- 登録指導者数は平均 67.0 人である。
- 年代別では、40 代が全体の 23.8%、50 代が 23.7%と、40 代、50 代で全体の約 5 割を占める。
- 指導者に占める女性比率は 22.2%である。

③スポーツの審判員

- JOC、JSPO 加盟団体及び準加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた団体の審判員数の総数は 751,415 人である。
- 年代別では、20 代以下が 222,669 人、60 代以上が 133,510 人の順に多い。
- 性別では、男性が 679,045 人、女性が 72,370 人である。
- 審判資格別では、市区町村大会レベルで審判可能な資格保有者が最も多く 588,001 人、次に地域大会レベルで審判可能な資格保有者が 196,650 人である。
- プロとして専業で審判を行っている審判員は 324 人である。

④パラスポーツの審判員

- JPC 加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた団体において、1 団体当たりの IF が認定する審判員資格の保有者数は平均 7.7 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判員の総数は 5,616 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判について、年代別では、50 代が 1,292 人、60 代が 996 人である。
- 競技団体が独自に認定する審判について、性別では、男性が 4,712 人、女性が 904 人

である。

- 競技団体が独自に認定する審判について、審判員資格別では、地域大会レベルで審判可能な資格保有者が最も多く 5,381 人、次に市区町村大会レベルで審判可能な資格保有者が 5,280 人である。

⑤クラス分け委員

- JPC 加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた団体において、1 団体当たりのクラス分け委員数は平均 4.6 人である。また、1 団体当たりの、IF が認定する資格を保有するクラス分け委員数は平均 0.7 人である。

(2) トップアスリートを支える人材

①ナショナルチームの指導者（監督・コーチ）

- JOC、JSPO 加盟団体及び準加盟団体、JPC 加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた団体において、ナショナルチームの指導を専業で行っている指導者数は 1 チームあたり平均 2.4 人、兼業で行っている指導者数は 1 チーム当たり平均 6.8 人である。
- ナショナルチームの指導者としての年間活動日数は、専業の指導者が平均 231.7 日、兼業の指導者が平均 65.5 日である。

②ナショナルチームのトレーナー

- JOC、JSPO 加盟団体及び準加盟団体、JPC 加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた団体において、ナショナルチームのトレーナーを専業で行っている人数は 1 チーム当たり平均 0.4 人、兼業で行っている人数は 1 チーム当たり平均 3.5 人である。
- ナショナルチームのトレーナーとしての年間活動日数は、専業のトレーナーが平均 215.6 日、兼業のトレーナーが平均 53.9 日である。

③ナショナルチームの指導者、トレーナー以外のスタッフ

- JOC、JSPO 加盟団体及び準加盟団体、JPC 加盟団体のうちアンケートへの回答が得られた団体において、指導者、トレーナー以外のスタッフは、ドクターが 1 チーム当たり平均 2.0 人、アナリストが 0.8 人、カウンセラーが 0.3 人、栄養士が 0.6 人、その他が 2.2 人である。その他のスタッフには、マネージャー、看護師、メカニック、メンタ

ルコーチ等がある。

④ トップリーグチームの指導者

- 指導者の雇用形態は、正社員として雇用しているチームが 30 チーム、プロ契約を含む業務委託契約を結んでいるチームが 18 チーム、嘱託社員として雇用しているチームが 14 チーム、契約社員として雇用しているチームが 11 チームある。
- 1 チーム当たりの指導者数は、アメリカンフットボールが 11.1 人と最も多く、次にラグビーが 7.1 人である。

(3) ジュニア育成を支える人材

- 1 団当たりの所属団員数は平均 25.5 人である。
- 指導者の属性は、保護者が 1,839 人、教員が 262 人、団の OB・OG が 1,283 人、元アスリート（プロ・アマは問わない）が 870 人、上記以外の地域住民が 1,497 人、その他が 248 人である。
- 活動形態をみると、1 チーム当たりの専業の指導者数は平均 0.3 人、兼業の指導者数は平均 5.4 人、その他（専業主婦/主夫、年金生活者等）が 0.4 人である。

2. スポーツに関わる人材の需給バランスと今後の見通し

【指導者】

- スポーツの指導者は、すべてのコーチレベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が6割以上を占め、パラスポーツの指導者は、すべての指導者レベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が約8割を占める。
- トップリーグの指導者は、充足している（充足している＋概ね充足している）が44.8%、不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）が55.3%である。
- 過不足の理由や背景として、より丁寧な指導を行える指導者の確保に課題を感じ
- ている。
- ジュニアの指導者は、充足している（充足している＋概ね充足している）が49.6%、不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）が50.4%である。過不足の理由や背景は、「必要最低限の人数はいるが、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と考えている」と「必要最低限の人数を確保するのに苦労している」が多い。人数を確保することにも苦労しており、確保ができてもある資格指導者の必要性を感じている。

【審判員】

- スポーツの審判員は、すべてのレベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が約6割を占め、パラスポーツの審判員は、すべてのレベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が約6～7割を占める。

（1）競技全体

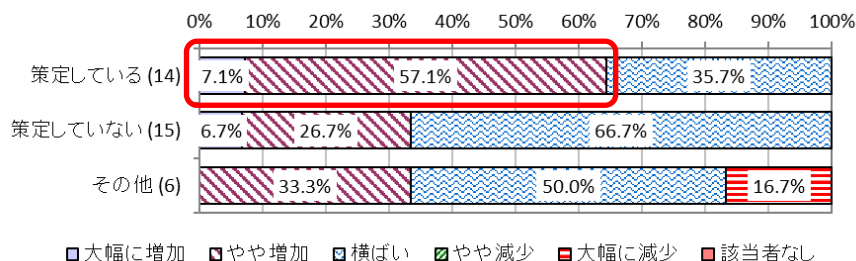
①指導者

- スポーツの指導者は、すべてのコーチレベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が6割以上を占める。
- パラスポーツの指導者は、すべての指導者レベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が約8割を占める。

指導者育成計画の策定状況別に将来（5年後）の指導者数の増減見込みをみると、スポーツ、パラスポーツの大部分の指導者レベルにおいて、育成計画を策定している競技団体は策定していない競技団体より指導者数が増加すると見込んでいる割合が高い。

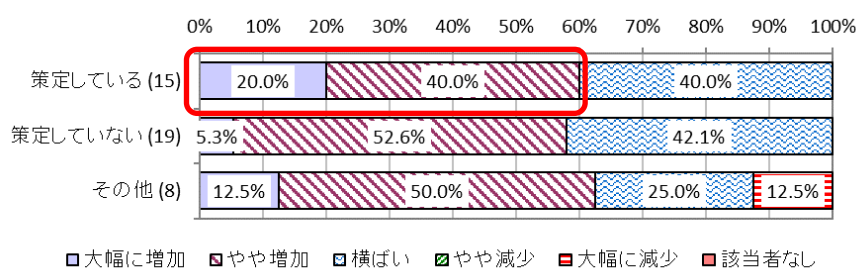
図表 III-1 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

JSPO コーチ 4 レベル (国際大会レベル)



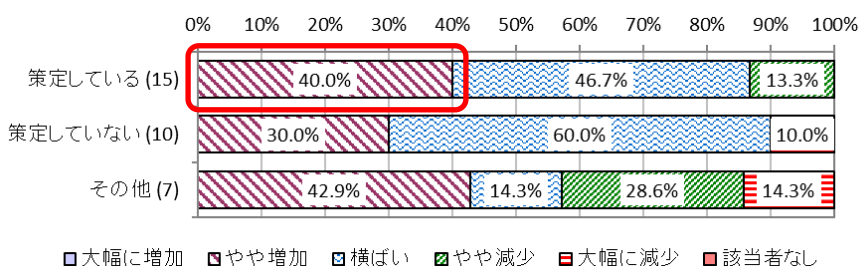
図表 III-2 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

JSPO コーチ 3 レベル (全国大会レベル)



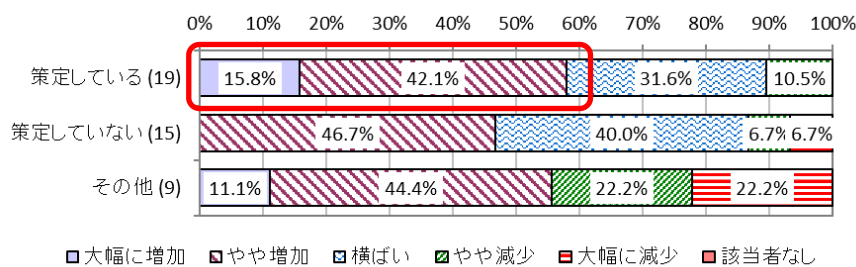
図表 III-3 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

JSPO コーチ 2 レベル (部活動等責任者レベル)

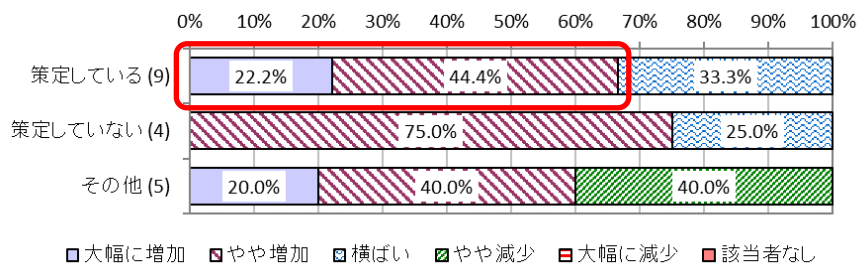


図表 III-4 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

JSPO コーチ 1 レベル (部活動等コーチスタッフレベル)

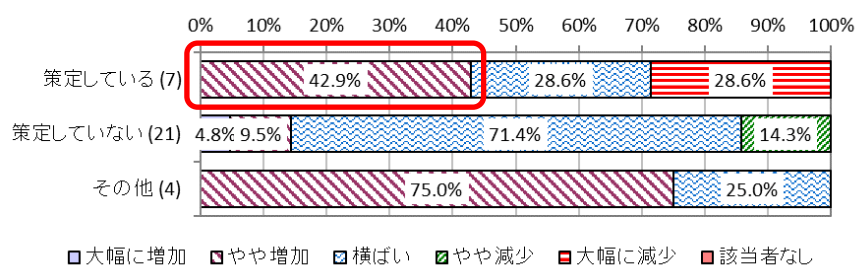


図表 III-5 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み
JSPO スタートコーチレベル（部活動等サポートスタッフレベル）



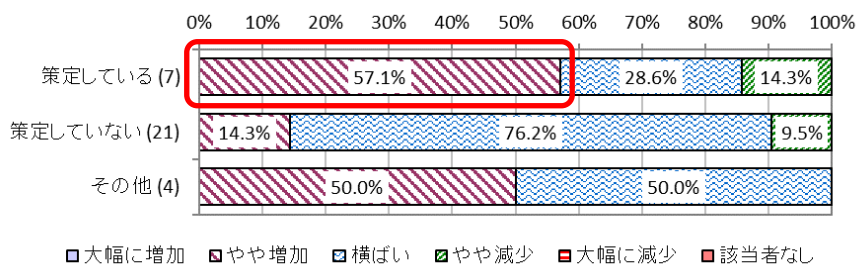
図表 III-6 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

パラスポーツ：国際大会レベル



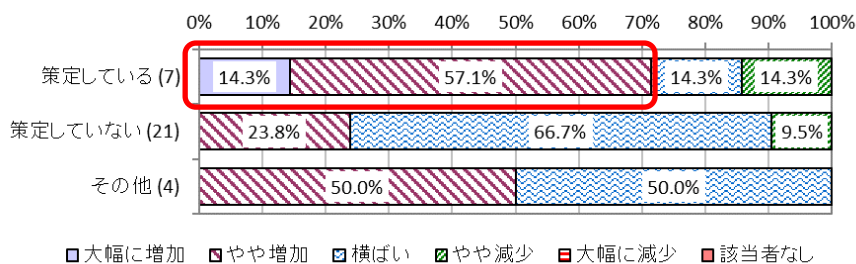
図表 III-7 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

パラスポーツ：国内大会レベル



図表 III-8 育成計画策定状況別 指導者数の増減見込み

パラスポーツ：育成レベル



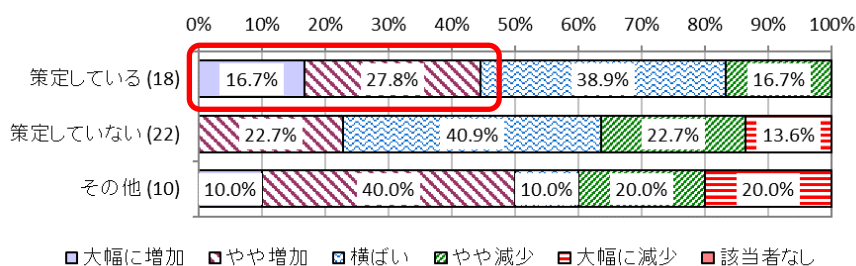
②審判員

- スポーツの審判員は、すべてのコーチレベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が約 6 割を占める。
- パラスポーツの審判員は、すべての指導者レベルにおいて、「不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）」が約 6～7 割を占める。

審判員育成計画の策定状況別に将来（5 年後）の指導者数の増減見込みをみると、スポーツ、パラスポーツのすべての審判員レベルにおいて、育成計画を策定している競技団体は策定していない競技団体より審判員数が増加すると見込んでいる割合が高い。

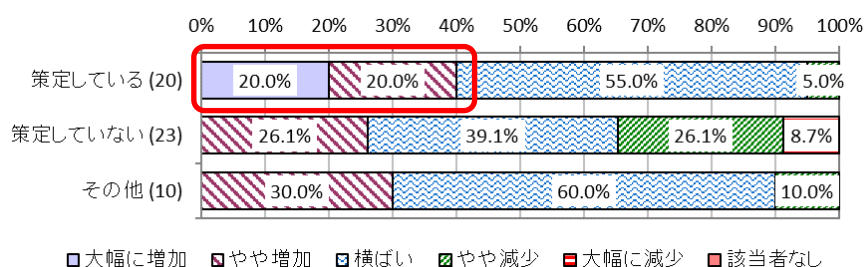
図表 III-9 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

国際大会レベルで審判可能な資格



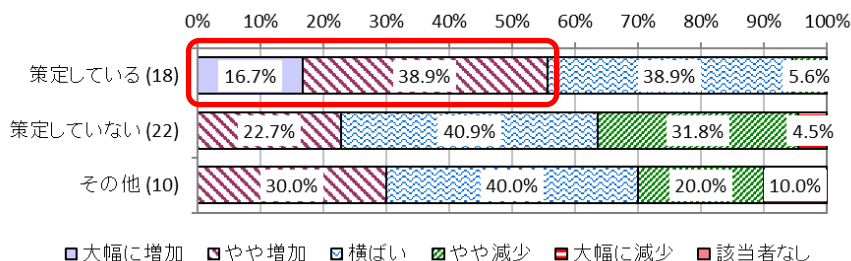
図表 III-10 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

全国大会レベルで審判可能な資格



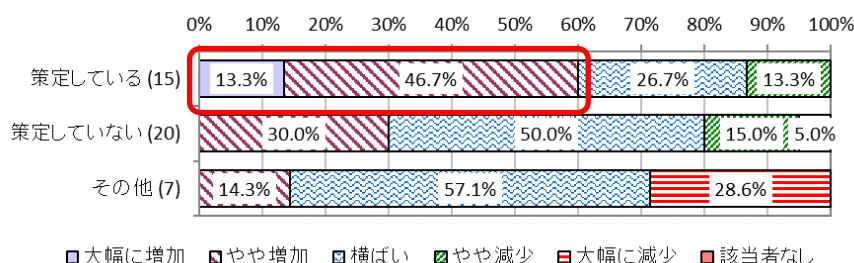
図表 III-11 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

地域大会レベルで審判可能な資格



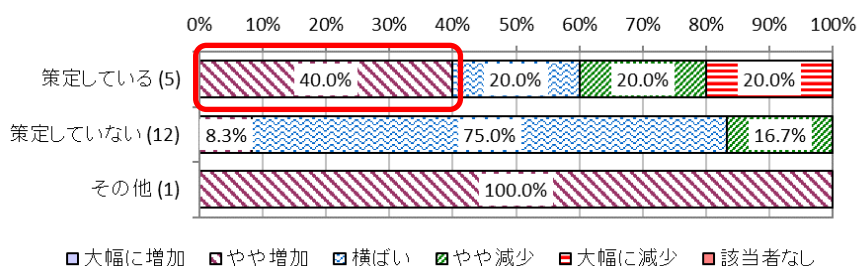
図表 III-12 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

市区町村大会レベルで審判可能な資格



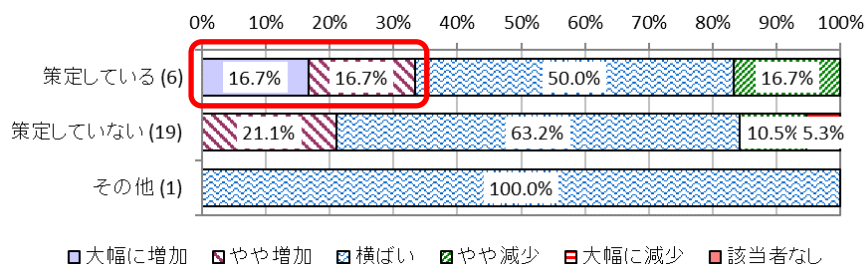
図表 III-13 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

パラスポーツ：国際大会レベルで審判可能な資格



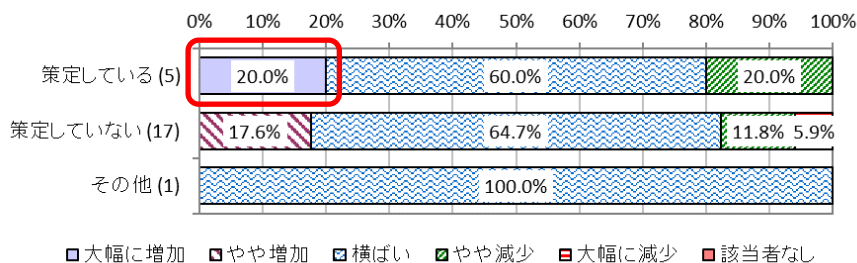
図表 III-14 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

パラスポーツ：全国大会レベルで審判可能な資格



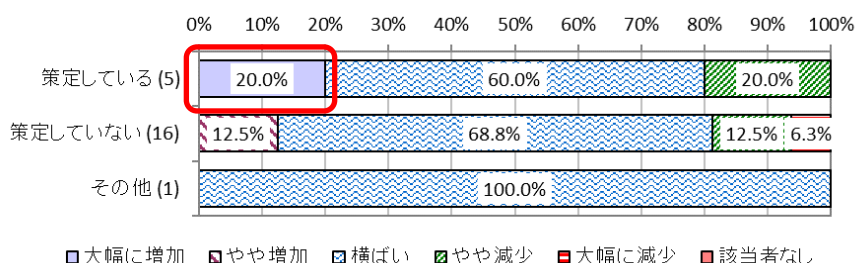
図表 III-15 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

パラスポーツ：地域大会レベルで審判可能な資格



図表 III-16 育成計画策定状況別 審判員数の増減見込み

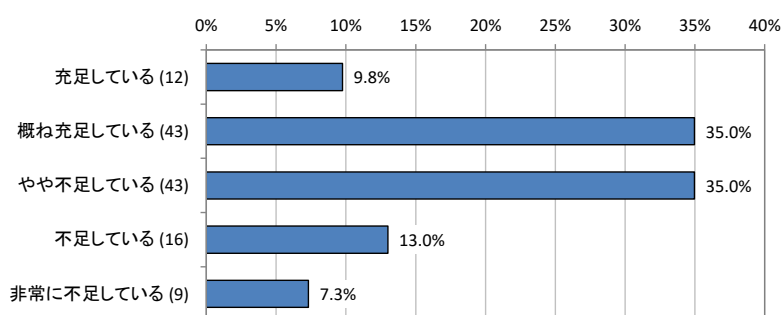
パラスポーツ：市区町村大会レベルで審判可能な資格



(2) トップアスリートを支える人材

トップリーグの指導者は、充足している（充足している＋概ね充足している）が 44.8%、不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）が 55.3%である。

図表 III-17 トップリーグの指導者の過不足状況

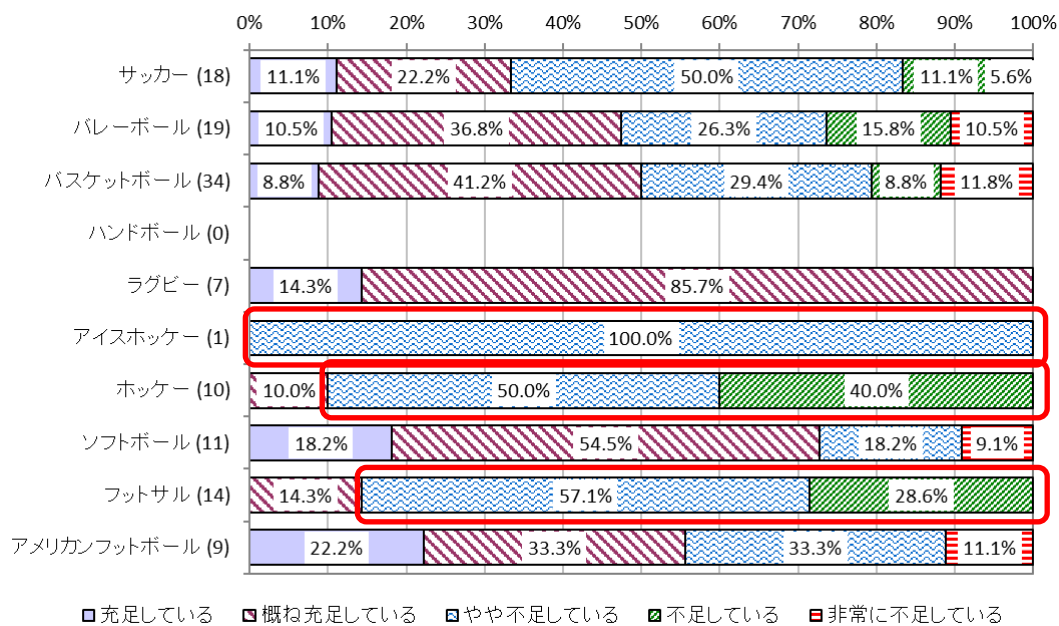


不足している背景として最も多い回答は、「必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と感じている。」で、不足し

ていると回答したチームではより丁寧な指導を行える指導者の確保に課題を感じている。

競技別にみると、不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）と回答したチームの割合が高い競技は、アイスホッケー（100.0%）、ホッケー（90.0%）、フットサル（85.7%）である。

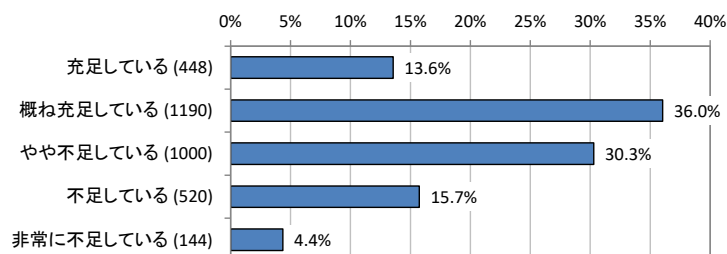
図表 III-18 トップリーグの指導者の競技別過不足状況



（３）ジュニア育成を支える人材

スポーツ少年団の指導者は、充足している（充足している＋概ね充足している）が 49.6%、不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）が 50.4%である。

図表 III-19 スポーツ少年団の指導者の過不足状況

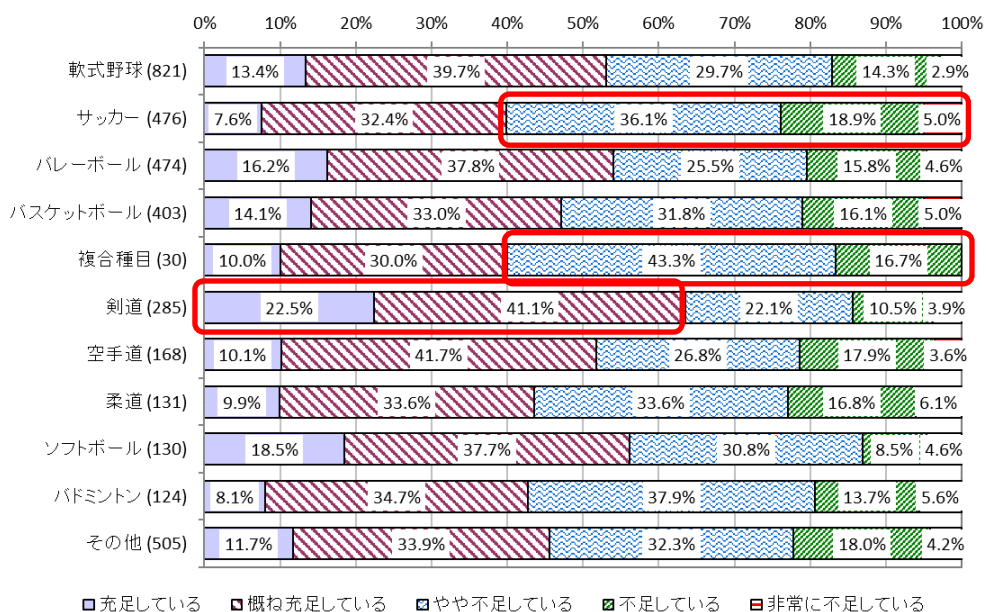


不足している背景として最も多い回答は、「成り手がおらず、必要最低限の人数を確保す

るのに苦労している」で、指導者の成り手の不足を感じている。また、スポーツ少年団はボランティアや本業の仕事を持った指導者が多く、平日の練習に参加できない、決まった曜日に活動できないといった状況が多くみられる。

競技別にみると、不足している（やや不足している＋不足している＋非常に不足している）と回答した団の割合は、サッカー（60.0%）と複合種目（60.0%）で比較的高い。一方、剣道は充足している（充足している＋やや充足している）と回答した団の割合が高い（63.6%）。

図表 III-20 スポーツ少年団の指導者の競技別過不足状況



3. 人材確保・維持に向けた活動環境の課題と対応方針の検討

対応方針の検討を行うにあたり、競技団体へヒアリングを実施した。以下に、アンケート及びヒアリング結果から、人材確保・維持に向けた活動環境の課題について整理する。

具体的には、(1) 指導者数の変動傾向の違いによる課題と対応、(2) 育成計画の有無による課題と対応という2つの観点から分析した。

(1) 指導者数の変動傾向の違いによる課題

① 指導者数が減少傾向にある競技団体が抱える課題

- 指導者数が減少していることから、人材発掘、人材確保や適切な人材の配置ができていない。特に、地域による不足、若年層の不足、国際水準の指導者不足等が指摘されている。
- また、指導者のレベルに対し待遇が見合わないなど高齢化の進展や報酬に関する課題が挙げられている。

② 指導者数が横ばいまたは増加傾向にある競技団体が抱える課題

- 指導者数の減少はみられないものの、地域、性別、年齢層、コーチレベルの偏りが指摘されている。特に、海外経験の豊富な指導者や、上位資格保有者、障がい者を適切に指導できる指導者の育成が課題とされている。
- その背景として、「兼業者が多く、活動できる曜日や時間帯、海外派遣に制約がある」、「業務に対し報酬が十分でない」、「国際資格を取得させるための環境整備や予算の確保ができていない」、「パラスポーツへの理解や受け入れが進まない」など兼業者が多いことと予算上の課題が挙げられている。

(2) 育成計画の有無による課題

① 育成計画を策定している競技団体が抱える課題

- 育成計画を策定している競技団体では、年齢層、コーチレベルに偏りがあるほか、女性が不足している。さらに、海外経験の豊富な指導者や、上位資格保有者、障がい者を適切に指導できる指導者の不足が課題として挙げられており、実質的には指導者や審判員等の質的不足が存在している。
- その背景として、講習の講師不足など、育成体制の不足が整っていないことや審判員への理解が進まず資格取得者が伸びない点が課題となっている。

② 育成計画を策定していない競技団体が抱える課題

- 育成計画を策定していない競技団体でも、育成計画を策定している団体同様に、地域、年齢層、コーチレベルに偏りがあるほか、女性が不足している。海外経験の豊富な指導者や、上位資格保有者、障がい者を適切に指導できる指導者不足も指摘されている。
- その背景として、国際資格を取得させるための環境整備や予算の確保ができていない、選手引退後に協会を離れてしまう等の課題が挙げられている。

(1) 活動環境整備に向けた課題

①指導者数が減少傾向にある競技団体が抱える課題

人材発掘、人材確保や適切な人材の配置に関する課題

指導現場の必要性に応じた知識や技能を持った指導者が適材適所で配置できない、パラアスリートのトレーナーを見つけることが難しいという課題がある。また、指導者育成に係るマンパワーの不足という課題も指摘されている。

地域や指導者・審判員属性（年齢層、性別等）の偏在に関する課題

地域により登録者数に偏りがある、大部分が60代以上と高齢化している等の課題がある。

雇用形態や活動形態に起因する課題

兼業により活動する場合、本業との兼ね合いから時間確保が難しいという課題がある。一方で、プロの指導者が多い競技では、ボランティアベースでの指導現場が成り立たないという課題もある。

待遇面や地位向上に関する課題

指導者のレベルに対し、待遇が見合わないという課題がある。

スポーツ人材の資質の向上に関わる課題

資格を持たない指導者が多いことや、高齢化による資質低下の課題がある。また、指導者のレベルを国際水準レベルに高めたり、国際審判員の資格を取得することが求められているが、資格取得には高い英語力が必要とされることが課題として指摘されている。

②指導者数が横ばいまたは増加傾向にある競技団体が抱える課題

人材発掘、人材確保や適切な人材の配置に関する課題

ジュニアレベルでは、部活動の社会体育移行に伴う指導者確保を課題とする競技がある。トップレベルでは、トレーナーの業務が細分化、専門化する傾向にあり選手が求める内容とマッチングしづらいこと、トップアスリートを支えるドクターや栄養士等、専門スタッフの確保に苦勞するという課題が指摘されている。また、上位資格の審判員を増やしすぎたことで活動の場が制限されるという課題を抱える団体もある。パラスポーツにおいては、障がい

を専門的に理解し指導できる人材を見つけることが難しいという課題がある。

地域や指導者・審判員属性（年齢層、性別等）の偏在に関する課題

競技全体での人数に不足感がない場合でも、女性の指導者、トレーナー、強化スタッフの不足という課題がみられる。背景として、女性のロールモデルが少ないことが指摘されている。また、都市部では有資格者が多いため活動の場が持てない審判員がいる一方で、地方では審判員が不足していたり高齢化が進んでいるという、地域偏在の課題が多くみられる。年齢層の面でも、特に審判員の年齢が高く、今後の日本選手権の開催を懸念する声も聞かれる。

雇用形態や活動形態に起因する課題

いずれの競技においても兼業の指導者、審判員が多く、平日や日中に指導現場に出られない、安定的な活動ができないという課題が多い。トップレベルの現場においても、平日の試合に対して職場の理解を得るのが難しい、長期休暇が必要になる海外遠征の帯同が難しいという課題を抱えているほか、職場で兼業が認められないケースもある。また、強化スタッフの場合はシーズンのみの雇用となるため、年間を通じた生活保障ができない点も指摘されている。

待遇面や地位向上に関する課題

業務内容や責任の大きさに対し、報酬が十分でないという課題が多い。また、特に審判員は、試合に必要不可欠な人材であるにもかかわらず陽の当たらない印象が強く、資格取得者が増えない要因の一つとして指摘されている。

スポーツ人材の資質の向上に関する課題

初級資格取得者が増加している団体では、より上位の資格を取得してもらうことが課題とされている。特に、海外の強豪地域での経験を積むことや、世界的にスタンダードな指導法やチームマネジメントを習得するといった、国際レベルの質の向上が求められている。パラスポーツにおいては、障がい者の特徴を理解し、障がいに応じた指導ができる指導者が必要とされている。

育成の制度や体制に関する課題

講習会の担い手やコーチングディベロッパーが不足していること、都道府県での指導者養成体制を充実させるという課題がある。また、国際公認の指導者、国際審判員、国際クラス分け委員の養成に意欲をみせる団体は多いが、計画策定や費用面、なり手の不足が課題となっている。パラスポーツにおいては、指導者パスウェイが構築できておらず、ピラミッド構造になっていないという課題を抱える団体もある。

運営資金面に関する課題

資格取得をサポートするための予算確保への課題が指摘されている。

パラスポーツへの理解や環境に関する課題

パラスポーツには特有の課題がある。選手の観点では、地域のクラブ等での受け入れが進まず、競技を始めたい人にとって障壁となっている。また指導者や審判員の観点では、都道府県の障がい者スポーツセンターの職員がスポーツの指導や審判を務めるため、人数が圧倒的に不足している。

その他（活躍の場の整備等）

強化指定選手引退後は協会に留まることなく退会してしまう選手が多いこと、東京大会に向けて資格を取得した審判員が、大会後にも活躍する場を地域レベルで作っていくことが指摘されている。

③育成計画を策定している競技団体が抱える課題

地域や指導者・審判員属性（年齢層、性別等）の偏在に関する課題

女性の指導者、トレーナー、強化スタッフの不足という課題がみられる。背景として、女性のロールモデルが少ないことが指摘されている。また、都市部では有資格者が多いため活動の場が持てない審判員がいる一方で、地方では審判員が不足していたり高齢化が進んでいるという、地域偏在の課題が多くみられる。年齢層の面でも、特に審判員の年齢が高く、日本選手権レベルの大会で審判長や統括審判クラスで動ける人が固定化されており、次の人材が育たないことが懸念されている。

スポーツ人材の資質の向上に関する課題

初級資格取得者が増加している団体では、より上位の資格を取得してもらうことが課題とされている。特に、世界的にスタンダードな指導法やチームマネジメントを習得するといった、国際レベルの質の向上が求められている。パラスポーツにおいては、障がい者の特徴を理解し、障がいに応じた指導ができる指導者が必要とされている。

育成の制度や体制に関する課題

トップレベルでは、海外指導者に依存していることを踏まえ、国内指導者の育成を課題とする団体がある。また、講習会の担い手やコーチングディベロッパーが不足していること、都道府県での指導者養成体制を充実させるという課題もみられる。パラスポーツにおいては、指導者パスウェイが構築できておらず、ピラミッド構造になっていないという課題を抱える団体もある。

スポーツ人材の活動環境に関する課題

女性の人材において、結婚出産等により継続できず、人員不足につながるという課題がある。また、審判員は、試合に必要な不可欠な人材であるにもかかわらず陽の当たらない印象が強く、資格取得者が増えない要因の一つとして指摘されている。

④育成計画を策定していない競技団体が抱える課題

地域や指導者・審判員属性（年齢層、性別等）の偏在に関する課題

女性の指導者、トレーナー、強化スタッフの不足という課題がみられる。また、都市部では有資格者が多いため活動の場が持てない審判員がいる一方で、地方では審判員が不足していたり高齢化が進んでいるという、地域偏在の課題が多くみられる。また、指導現場の必要性に応じた知識や技能を持った指導者が適材適所で配置できないという課題も指摘されている。

スポーツ人材の資質の向上に関する課題

世界的にスタンダードな指導法やチームマネジメントを習得するといった、国際レベルの質の向上が求められている。パラスポーツにおいては、障がい者の特徴を理解し、障がいに応じた指導ができる指導者が必要とされている。

育成の制度や体制に関する課題

国際公認の指導者、国際審判員、国際クラス分け委員の養成に意欲をみせる団体は多いが、計画策定や費用面が課題となっている。

スポーツ人材の活動環境に関する課題

強化指定選手引退後は協会に留まることなく退会してしまう選手が多いという課題がある。

(2) 対応方針の検討

(1) で示したように、指導者数が増加していても実質稼働可能なアクティブな指導者や審判員は常時不足していると捉えることができる。

以下では、(1) で示した各課題に対する対応方針を検討する。

① 指導者数・審判員数等スポーツ人材のアンバランス化の解消

指導者数・審判員数等が不足する背景には、「地域や指導者属性（年齢層、性別等）の偏在に関する課題」「人材発掘、人材確保や適切な人材の配置に関する課題」が挙げられている。グラスルーツのスポーツの指導者は地域単位で養成、確保することが基本であるが、地位格差と競技格差が大きな問題である。その背景には、地域の競技団体の経営力も関係しており、人材不足、地域格差、競技格差を解消するためには、地域の競技団体のマネジメント人材をどのように配置するかを並行して考える必要がある。また、有資格者は闇雲に増やせばよいというわけではなく、供給過多により活躍の場が制約されることもあり得る。一定期間のスパンで需給関係の把握を正確に行う必要がある。

なり手の視点からは、指導者や審判員のステータスや待遇改善、働きやすい環境整備により、若年層が魅力を感じる仕事になることが、人材不足の解消につながると思料される。

■人材発掘、人材確保がしやすい環境の整備

《ヒアリングから得られた対応方針の例》

資格取得のハードルを下げる講習のオンライン化

競技団体では、資格を取得しやすい環境の整備が進んでいる。たとえば、下位レベルの指導者・審判員資格については、eラーニングの受講により取得可能とする団体が多くみられる。また、従来は講習会の運営を都道府県協会が担っていたため年間に複数回を開催できない協会もあったが、日本協会主導でオンライン化し好きなタイミングで受講できるようになったことで、受講の促進につながった競技団体の例もある。

スポーツ科学系の大学等との連携による積極的な人材発掘

人材発掘においては、スポーツ科学系の大学と連携した人材確保を検討したり、クラス分け委員については医師のほか理学療法士も視野に、興味のある人材を積極的に発掘したりといった取組がなされている。

事例紹介：女性コーチ・女性審判員の育成、働きやすい環境の整備

バスケットボール協会では、女子・女性競技者数が多いにもかかわらず女性コーチが少なく、女性コーチのロールモデルが少ない、コーチ業務以外の役割・負担が大きい、社会的に女性コーチに対する認知度が低い等の課題を抱えていた。そこで、「1.女性コーチのロールモデルと出会う」「2.女性コーチが直面する課題を共有する」「3.様々な女性コーチとつながる」ことを目的とし、女性コーチを育成するための「女性コーチカンファレンス」を開始した。カンファレンス開催時には、子供を持つ方が参加しやすいよう託児サービスが行われている。

さらに、女性審判員の割合が約3割に留まっていることを背景に、2018年にJBA審判委員会女性分科会の全国組織化を図った。目的は、女性審判がライフプランと両立しながら安心して審判活動を継続できるために、都道府県・ブロックで実施している各種取り組みを共有し、全国的な取組として環境整備等を実施していくためである。例えば北海道ブロックでは、体育館内に託児所を設置し、子供連れでも業務に専念できる環境を整えている。

■指導者・審判員業務の理解を促す情報発信

《ヒアリングから得られた対応方針の例》

YouTubeを活用した審判業務等に関する情報発信

ある競技団体では、審判員のU-18制度を策定し、中学生・高校生のB級ライセンス取得を可能としている。若年層の資格取得率向上に力を入れるこの団体では、判定の仕方等、審判業務に関する情報をホームページやYouTubeで配信しており、中学生・高校生でも審判業務に触れるきっかけづくりがなされている。

② 現場ニーズに即した指導者・審判員等の育成

アンケート結果から、指導者育成計画の策定状況別に将来（5年後）の指導者数の増減見込みをみると、スポーツ、パラスポーツの大部分の指導者レベルにおいて、育成計画を策定している競技団体は策定していない競技団体より指導者数が増加すると見込んでいる割合が高い。

審判員に関しても、同様の結果がみられており、目標人数の設定および育成計画の策定は競技環境を支える人材確保に重要であるといえる。

また、パラスポーツの指導者については、一般スポーツ団体の有資格者がパラスポーツ団体の資格も取得することで十分な人材を確保している例がみられる。このような流れを促すには、パラスポーツへの理解や価値観の共有を広く浸透させることが必要であると考えられる。

■団体特性に応じた育成計画の策定

《ヒアリングから得られた対応方針の例》

指導者パスウェイの設置

ある競技団体では、従来 1 種類だった指導者資格を改め、5 段階の指導者パスウェイを策定した。段階を踏むことでナショナルコーチまでステップアップできる制度となっている。この団体の指導者パスウェイは選手パスウェイと関連しており、選手パスウェイと指導者パスウェイをマッチングさせることで選手のランクに応じた指導を行うことを目的としている。

パラスポーツにおける一般スポーツ競技連盟との連携

パラスポーツの資格取得については、一般スポーツ連盟の有資格者にパラ連盟の資格講習を受けてもらい、国内で審判ができる国際審判（レベル 2）が 40 名増加した競技団体がある。また、別の競技団体では、団体が主催・共催・後援する競技会に IF 資格保持者である NT0 を派遣し、一般スポーツ連盟の公認審判員にパラ規則の講習を行っている。こうして育成した審判員にパラ競技会でも審判業務にあたってもらうことで人員を充足させている。

パラスポーツにおける普及・発掘活動のサポート

パラスポーツでは発掘・普及も重要な業務であり、指導者や審判員は普及活動を行いながら競技指導、審判業務を務めることが一般的である。育成計画や活動環境の整備においては、指導者、審判の役割が一般スポーツと異なる面があることを考慮する必要がある。

③ 適切な人材配置を実現する仕組みづくり

指導者数および審判員数がおおむね充足している競技においても、実際に登録しているだけで稼働していない「ノンアクティブ指導者・審判員」が一定程度存在している。また、審判員数が多すぎると、稼働はしていても上位資格保有者がジュニア大会でしか審判ができず能力が伸びないといった問題も生じる。指導者・審判員の資格のレベルに応じた稼働の場があることが質の向上にもつながり、適正人数を考慮した配置の必要性が指摘されている。

■マッチングシステムの検討

《ヒアリングから得られた対応方針の例》

審判員の稼働状況をシステム化し把握

ある競技団体では、審判員の稼働記録の蓄積と試合参加要請を行うシステムを活用している。

システム化有無や規模大小に関わらず、地域大会レベルも含めた、登録者への定期的な要請と参加を促すようなシステムの検討も必要だと思われる。

④ トップアスリートの競技力向上に向けた指導者・審判員等の育成方法の検討

トップアスリートの育成環境では、能力・スキルの高い指導者・審判員の不足が指摘されている。トップリーグ等各チームでの取り組みは進められていると思われるが、上級レベルの指導者等を充実させるためには、より現場ニーズに即した必要スキルと能力を具現化し、育成手法を検討することが必要である。そのため、トップレベルの指導者や審判員をモデルケースに、スキルスタンダードを整備することも有効だと思われる。

■トップレベルの指導者・審判員の育成に向けた必要スキルと能力の明確化

《ヒアリングから得られた対応方針の例》

選手を惹きつける高い“人間力”が求められている

指導者や審判員に求められるスキルは技術面だけにとどまらない。ある競技団体では、具体的に、モチベーションを保ちながら選手を成長させられるような人材が求められており、そのために必要なスキルとして、メンタル面において選手を引っ張る力、選手を惹きつける力が重視されている。また別の競技団体では、トップレベルのコーチには高潔な人格者であること、高い競技知識、決断力、プランニング力を求めている。また、多くの競技団体において、国際公認の指導者、国際審判員、国際クラス分け委員の養成が目標とされており、そのためには高い語学力が求められている。

互いに学び合う講習スタイルの実践

指導者が自身の考え方の傾向を知り、他者の意見に耳を傾け理解する力を身に着けるため、指導者講習の受講生同士が交流し学び合う講習会のスタイルをとる競技団体もある。

⑤ ジュニアの育成環境を充実させるための仕組みづくり

ジュニア育成においては、指導者や審判員がボランティアで支えられている現状がある。子供が退会すると同時に指導者を辞める保護者コーチも少なくない。しかし保護者以外には、OB・OG や地域レベルで子供たちを支えているケースも多いことから、地域単位での指導者等育成・確保する方法の検討が重要だと思われる。

また、パラスポーツにおいては医療的サポートが必須であり、ドクター、理学療法士等が指導者として選手に関わる。こうしたサポートが地域レベルでできる環境の構築が必要で

ある。医療と支援学校との連携構築等、スポーツ専門家を軸に医療や教育といった多様なメンバーでチームを組んで選手を支えることが重要である。

■ジュニア育成環境の向上に向けた指導者・審判員登録制度

《ヒアリングから得られた対応方針の例》

子供たちが競技に触れるきっかけや環境づくり

ある競技では、大規模な国際大会に際し全国で体験会を実施したところ、2万6千人の子供がスクール等の体験会に参加した。子供たちが競技に触れるきっかけとなっただけでなく、指導者にとっても指導時の安全への意識向上や指導法を見直す機会につながり、ジュニア育成環境の向上にも貢献した。

子供たちの継続的な指導を支える仕組みづくり

パラスポーツの場面では、身近に指導者がいないという問題や、指導を学校の先生が担うことが多く、指導能力が身に着いても異動により継続的な指導ができないという問題が指摘されている。障がいを持った子供たちのスポーツ参加を支えるため、パラスポーツの意義を理解し、指導のできる指導者を育成する仕組みを整備することも必要であると考えられる。

IV. 参考（アンケート調査画面）

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

本アンケートで回答いただき、統計的に処理したデータは、今年度スポーツ庁において別途実施している「令和2年度スポーツ政策調査研究（国際競技力と中央競技団体に関する調査研究）」においても一部活用させていただきます。

【ご回答にあたっての注意事項】

- ・「次へ」ボタンを押して開始してください。
- ・回答方法は、設問により選択式と記述式があります。
選択式には単一選択と複数選択があり、設問に「当てはまるもの全て」と記載がある場合は、複数選択が可能です。
- ・設問文中に「数字でお答えください」と指定がある場合、半角数字でご入力ください。
（例：10人と回答したい場合、「10」を入力）
- ・アンケート画面の最終ページには「完了」ボタンが表示されます。回答が終了したら、必ず「完了」ボタンを押して終了してください。
- ・アンケートを回答中にブラウザを閉じた場合、再度URLからアクセスすることで終了時点から回答を続行することができます。

【ご回答期限】

令和2年12月7日（月）までにご回答ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

1. 団体について

* 問1. 貴団体名をお答えください。

* 問2. 貴団体に登録・加盟している団体数、競技者数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1. 都道府県協会（団体数）

2. 市区町村協会（団体数）

3. チーム（団体数）

4. 登録・加盟競技者数

上記1～4以外に登録・加盟している団体や個人がある場合、具体的にご記入ください。

(例：○○10団体、△△100人)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2．指導者について

* 問3. 2020年10月時点における、貴団体への登録指導者の総数（協同認定資格と独自認定資格の合計）
を数字でお答えください。

2020年10月時点の人数が不明の場合は、直近で把握されている時点の人数をお答えください。

(例：10人の場合→10、0人の場合→0)

上記の人数が2020年10月時点のデータではない場合、いつ時点のデータかご記入ください。

(例：2020年4月)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2．指導者について

認定指導者資格についておたずねします。

* 問4. JSPOとの協同認定資格以外に、貴団体が独自に認定する指導者資格はありますか。

- ☐ 1.ない
- ☐ 2.1つある
- ☐ 3.2つある
- ☐ 4.3つ以上ある

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2．指導者について

* 問4-1. 貴団体が独自に認定する資格について、具体的な資格名をお答えください。

* 問4-2. 上記の資格保有者の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)
(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

①「**NF独自資格**」保有者の年代別人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ②「**NF独自資格**」女性の資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

2. 指導者について

* 問4-1. 貴団体が独自に認定する資格について、具体的な資格名をお答えください。

NF独自資格 1

NF独自資格 2

* 問4-2. 上記の資格保有者の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)
(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

①「**NF独自資格 1**」保有者の年代別人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ②「**NF独自資格 1**」女性の資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ① 「NF独自資格2」保有者の年代別人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ② 「NF独自資格2」女性の資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2. 指導者について

* 問4-1. 貴団体が独自に認定する資格について、具体的な資格名をお答えください。4つ以上ある場合は、保有者数の多い資格上位3つをお答えください。

NF独自資格1

NF独自資格2

NF独自資格3

* 問4-2. 上記の資格保有者の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)
(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

①「**NF独自資格1**」保有者の年代別人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ②「**NF独自資格1**」女性の資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ① 「**NF独自資格 2**」保有者の年代別人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ② 「**NF独自資格 2**」女性の資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ①「NF独自資格3」保有者の年代別の人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* ②「NF独自資格3」女性の資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2. 指導者について

問5. 指導者の過去5年間の変化についてお答えください。

※貴団体としての印象でお答えください。

* ①指導者数の変化

1.大幅に増加

2.やや増加

3.横ばい

4.やや減少

5.大幅に減少

1.NF独自資格1

☐☐☐☐☐

* ②年齢層の変化

	1.急速に高齢化が進行	2.緩やかに高齢化が進行	3.変化なし	4.緩やかに若年化が進行	5.急速に若年化が進行
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐

* ③男女比の変化

	1.急速に男性比率が増加	2.緩やかに男性比率が増加	3.変化なし	4.緩やかに女性比率が増加	5.急速に女性比率が増加
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

2. 指導者について

問5. 指導者の過去5年間の変化についてお答えください。

※貴団体としての印象でお答えください。

* ①指導者数の変化

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐
2.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐

* ②年齢層の変化

	1.急速に高齢化が進行	2.緩やかに高齢化が進行	3.変化なし	4.緩やかに若年化が進行	5.急速に若年化が進行
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐
2.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐

* ③男女比の変化

	1.急速に男性比率が増加	2.緩やかに男性比率が増加	3.変化なし	4.緩やかに女性比率が増加	5.急速に女性比率が増加
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐
2.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

2. 指導者について

問5. 指導者の過去5年間の変化についてお答えください。

※貴団体としての印象でお答えください。

* ①指導者数の変化

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐
2.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐
3.NF独自資格 3	☐	☐	☐	☐	☐

* ②年齢層の変化

	1.急速に高齢化が進行	2.緩やかに高齢化が進行	3.変化なし	4.緩やかに若年化が進行	5.急速に若年化が進行
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐
2.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐
3.NF独自資格 3	☐	☐	☐	☐	☐

* ③男女比の変化

	1.急速に男性比率が増加	2.緩やかに男性比率が増加	3.変化なし	4.緩やかに女性比率が増加	5.急速に女性比率が増加
1.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐
2.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐
3.NF独自資格 3	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

2. 指導者について

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

2. 指導者について

* 問6. 下記の問6-1の選択肢を参照の上、貴競技の指導者数の過不足状況をお答えください。
資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

	1.充足している	2.概ね充足している	3.やや不足している	4.不足している	5.非常に不足している	6.該当者なし
1.JSPOコーチ 4レベル (国際大会レベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.JSPOコーチ 3レベル (全国大会レベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.JSPOコーチ 2レベル (部活動等責任者レベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.JSPOコーチ 1レベル (部活動等コーチスタッフレベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5.JSPOスタートコーチ レベル (部活動等サ ポートスタッフレベ ル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8.NF独自資格 3	☐	☐	☐	☐	☐	☐

* 問6-1. 問6の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(当てはまるもの全て)

※問6で「1.充足している」「2.概ね充足している」を選択された場合は「6.その他」を選択し、充足していると回答された背景をご記入ください。

- ☐ 1.現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している。
- ☐ 2.必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、より多くの指導者の確保が必要と感じている。
- ☐ 3.全国的に見ると必要な数を確保できているが、地域、時間等の理由により指導現場との間でミスマッチが生じている。
- ☐ 4.現場から、指導者が不足しているという意見が出ていない。
- ☐ 5.一定の競争倍率があり、指導の場を持ってない指導者がいる。
- ☐ 6.その他

「6.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

2. 指導者について

* 問7. 将来（5年後）の指導者数の増減見込みをお答えください。
資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。
※貴団体としての印象でお答えください。

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少	6.該当者なし
1.JSPOコーチ 4レベル (国際大会レベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.JSPOコーチ 3レベル (全国大会レベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.JSPOコーチ 2レベル (部活動等責任者レベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.JSPOコーチ 1レベル (部活動等コーチスタッフレベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5.JSPOスタートコーチ レベル (部活動等サポートスタッフレベル)	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6.NF独自資格 1	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7.NF独自資格 2	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8.NF独自資格 3	☐	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2. 指導者について

* 問8. 貴団体では指導者の育成目標人数を定めていますか。

- ☐ 1.目標人数あり
☐ 2.目標人数なし

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2. 指導者について

* 問8-1. 指導者の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。
(例：○年までに○級指導者を○人)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

2．指導者について

* 問9. 貴団体では指導者の育成計画を策定されていますか。

- ☐ 1.策定している
- ☐ 2.策定していない
- ☐ 3.その他

「3.その他」の内容 (具体的に)

* 問10. 指導者に対して、指導活動による損害を補償する制度や保険制度はありますか。

- ☐ 1.団体として独自に制度を設けている
- ☐ 2.公認スポーツ指導者総合保険制度を活用している
- ☐ 3.上記2以外の外部の保険制度を活用している
- ☐ 4.団体としては統一した対応はとらず、個々の指導者の判断に委ねている
- ☐ 5.その他

「5.その他」の内容 (具体的に)

問11. 貴団体として感じておられる指導者に関する課題があればお答えください。（当てはまるもの全
て）

選択肢以外の課題については、「6.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.指導者の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.稼働していない優秀な指導者が多い
- ☐ 6.その他
- ☐ 7.特になし

「6.その他」の内容 (具体的に)

3．審判員について

* 問12. 登録審判員の年代別人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)
(例：10人の場合→10、0人の場合→0)

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* 問13. 登録審判員のうち、女性の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)
(例：10人の場合→10、0人の場合→0)

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

* 問14. 登録審判員の資格レベル別の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

1.国際大会レベルで審判可能な資格

2.全国大会レベルで審判可能な資格

3.地域大会レベルで審判可能な資格

4.市区町村大会レベルで審判可能な資格

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

3. 審判員について

審判員資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

3. 審判員について

* 問15. プロとして専業で審判を行っている方の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数
をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

3. 審判員について

問16. 過去5年間に於ける、審判員の変化についてお答えください。

資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

※貴団体としての印象でお答えください。

* ①審判員数の変化

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

* ②年齢層の変化

	1.急速に高齢化が進行	2.緩やかに高齢化が進行	3.変化なし	4.緩やかに若年化が進行	5.急速に若年化が進行	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

* ③男女比の変化

	1.急速に男性比率が増加	2.緩やかに男性比率が増加	3.変化なし	4.緩やかに女性比率が増加	5.急速に女性比率が増加	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

3. 審判員について

* 問17. 下記の問17-1の選択肢をご参照の上、貴競技における審判員数の過不足状況についてお答えください。

資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

※貴団体としての印象でお答えください。

	1.充足している	2.概ね充足している	3.やや不足している	4.不足している	5.非常に不足している	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

* 問17-1. 問17の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。（当てはまるもの全て）

※問17で「1.充足している」「2.概ね充足している」を選択された場合、「5.その他」を選択し、充足していると回答された背景をご記入ください。

- ☐ 1.現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している。
- ☐ 2.全国的に見ると必要な数を確保できているが、地域、時間等の理由により現場との間でミスマッチが生じている。
- ☐ 3.現場から、審判員が不足しているという意見が出ていない。
- ☐ 4.一定の競争倍率があり、審判活動の場を持ってない審判員がいる。
- ☐ 5.その他

「5.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加盟団体向け調査票）

3. 審判員について

* 問18. 将来（５年後）の審判員数の増減見込みをお答えください。
資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。
※貴団体としての印象でお答えください。

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

3. 審判員について

* 問19. NF主催の日本選手権等最上位の大会において、審判員へ支給する手当について当てはまるものをお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問19-1に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問19-2に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容（具体的に）

問19-1. 問19で「2.日当」を選択した場合、1日当たりの金額をお答えください。
（例：1000円の場合、1000と入力）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問19-2. 問19で「3.謝金」を選択した場合、1日当たりの金額をお答えください。
(例：1000円の場合、1000と入力)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

3. 審判員について

* 問20. 貴団体では審判員の育成目標人数を定めていますか。

- ☐ 1.目標人数あり
- ☐ 2.目標人数なし

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

3. 審判員について

* 問20-1. 審判員の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。
(例：○年までに○レベルの審判を○人)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JOC、JSPO加
団体向け調査票)

3. 審判員について

* 問21. 貴団体では審判員の育成計画を策定されていますか。

- ☐ 1.策定している
- ☐ 2.策定していない
- ☐ 3.その他

「3.その他」の内容 (具体的に)

*問22. 貴団体として感じておられる審判員に関わる課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「6.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.審判員の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.稼働していない審判員が多い
- ☐ 6.その他
- ☐ 7.特になし

「6.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加団体向け調査票）

ご回答いただいた方のお名前、ご連絡先、役職、ご職業をお答えください。

ご回答者名	
電話番号	
メールアドレス	
貴団体内での役職	
ご職業（ご回答者がNFの職員ではない場合、本業のご職業をお答えください。）	

【プライバシーポリシー】

ご記入いただいた個人情報は、スポーツ庁が実施する、「スポーツキャリアサポート支援事業におけるスポーツ人材の効果的な活用のための基礎的調査研究」（以下「当調査」といいます）およびこれらに付随する業務に利用いたします。

当調査の結果は、当調査の委託先である株式会社リベルタス・コンサルティングにおいて厳重に管理いたします。ご本人の承諾なく上記目的以外に個人情報を利用または事業主体であるスポーツ庁を除く第三者に提供しません。

原則としてご本人に限り、「個人情報の利用目的」の通知、登録した個人情報の開示、訂正、追加または削除、利用停止、消去、ならびに第三者への提供の停止を求めることができますものとします。具体的な方法については下記の個人情報管理の問い合わせ先にご連絡ください。

なお、個人情報への不当なアクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えいなどの危険に対して、技術面および組織面において必要な安全対策を継続的に講じるよう努めています。

【個人情報管理責任者】

委託先：株式会社リベルタス・コンサルティング 五十嵐義明

上記プライバシーポリシーに同意の上、ご回答ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JOC、JSPO加
団体向け調査票）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「完了」ボタンを押して終了してください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

本アンケートで回答いただき、統計的に処理したデータは、今年度スポーツ庁において別途実施している「令和2年度スポーツ政策調査研究（国際競技力と中央競技団体に関する調査研究）」においても一部活用させていただきます。

【ご回答にあたっての注意事項】

- ・アンケート画面を開き、「次へ」ボタンを押して開始してください。
- ・回答方法は、設問により選択式と記述式があります。
選択式には単一選択と複数選択があり、設問に「当てはまるもの全て」と記載がある場合は、複数選択が可能です。
- ・設問文中に「数字でお答えください」と指定がある場合、半角数字でご入力ください。
（例：10人と回答したい場合、「10」を入力）
- ・アンケート画面の最終ページには「完了」ボタンが表示されます。回答が終了したら、必ず「完了」ボタンを押して終了してください。
- ・アンケートを回答中にブラウザを閉じた場合、再度URLからアクセスすることで終了時点から回答を続行することができます。

【ご回答期限】

令和2年12月7日（月）までにご回答ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

1．団体について

* 問1. 貴団体名をお答えください。

* 問2. 貴団体に登録・加盟している団体数、競技者数、指導者数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1.都道府県協会（団体数）

2.市区町村協会（団体数）

3.チーム（団体数）

4.登録・加盟競技者

5.登録指導者

上記1～5以外に登録・加盟している団体や個人がある場合、具体的にご記入ください。

(例：〇〇10団体、△△100人)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

2．指導者について

問3. 貴団体の登録指導者について、以下の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

(例：10人の場合→10、0人の場合→0)

※登録指導者がいない場合は、すべてに0と入力してください。

①登録指導者の年代別人数

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

②女性の登録指導者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

問4. 登録指導者は以下に示す資格を保有していますか。

(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.日本障がい者スポーツ協会認定資格（障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツコーチ）
- ☐ 2.日本スポーツ協会認定資格もしくは健全者競技の連盟・協会の認定資格
- ☐ 3.上記資格は保有していない
- ☐ 4.把握していない

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

2. 指導者について

* 問5 貴団体が独自に認定する指導者資格はありますか。

- ☐ 1.ある
- ☐ 2.ない

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

2. 指導者について

問6. 貴団体が認定する指導者資格の種類（資格名）をお答えください。4つ以上の資格がある場合、保有者数の多い資格上位3つをご記入ください。

1.独自資格 1

2.独自資格 2

3.独自資格 3

問6-1. 問6で記入いただいた資格について、以下の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

①独自資格保有者の年代別人数

※「独自資格1」～「独自資格3」の合計人数をご記入ください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

②女性の独自資格保有者の年代別人数

※①のうち、女性の人数をお答えください。

※「独自資格1」～「独自資格3」の合計人数をご記入ください。

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

2. 指導者について

問7. 指導者の過去5年間の変化についてお答えください。

※貴団体としての印象でお答えください。

* ①指導者数の変化

1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少
☐	☐	☐	☐	☐

* ②年齢層の変化

1.急速に高齢化が進行	2.緩やかに高齢化が進行	3.変化なし	4.緩やかに若年化が進行	5.急速に若年化が進行
☐	☐	☐	☐	☐

* ③男女比の変化

1.急速に男性比率が増加	2.緩やかに男性比率が増加	3.変化なし	4.緩やかに女性比率が増加	5.急速に女性比率が増加
☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

2. 指導者について

* 問8. 貴競技における指導者数の過不足状況について、以下の3つの競技レベルでそれぞれお答えください。

競技レベルの該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

	1.充足している	2.概ね充足している	3.やや不足している	4.不足している	5.非常に不足している	6.該当者なし
1.国際大会レベル	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.国内大会レベル	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.育成レベル	☐	☐	☐	☐	☐	☐

* 問9. 問8の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(当てはまるもの全て)

※問8で「1.充足している」「2.概ね充足している」を選択された場合、「6.その他」を選択し、充足していると回答された背景をご記入ください。

- ☐ 1.指導現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している
- ☐ 2.必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、より多くの指導者の確保が必要と感じている
- ☐ 3.全国的に見ると必要な数を確保できているが、地域、時間等の理由により指導現場との間でミスマッチが生じている
- ☐ 4.指導現場から、指導者が不足しているという意見が出ていない
- ☐ 5.一定の競争倍率があり、指導の場を持たない指導者がいる
- ☐ 6.その他

「6.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JPC加盟競技団体向け)

2. 指導者について

問10. 将来(5年後)の指導者数の増減見込みをお答えください。

資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

※貴団体としての印象でお答えください。

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少	6.該当者なし
1.国際大会レベル	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.国内大会レベル	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.育成レベル	☐	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JPC加盟競技団体向け)

2. 指導者について

* 問11. 貴団体では指導者の育成目標人数を定めていますか。

- ☐ 1.目標人数あり
- ☐ 2.目標人数なし

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JPC加盟競技団体向け)

2．指導者について

* 問11-1. 指導者の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。
(例：○年までに○級指導者を○人)

--

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

2．指導者について

* 問12. 貴団体では指導者の育成計画を策定されていますか。

- ☐ 1.策定している
- ☐ 2.策定していない
- ☐ 3.その他

「3.その他」の内容 (具体的に)

--

* 問13. 指導者に対して、指導活動による損害を補償する制度や保険制度はありますか。

- ☐ 1.団体として独自に制度を設けている
- ☐ 2.公認スポーツ指導者総合保険制度を活用している
- ☐ 3.上記2以外の外部の保険制度を活用している
- ☐ 4.団体としては統一した対応はとらず、個々の指導者の判断に委ねている
- ☐ 5.その他

「5.その他」の内容 (具体的に)

--

問14. 貴団体として感じている指導者に関する課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）
選択肢以外の課題については、「6.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.指導者の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.稼働していない指導者が多い
- ☐ 6.その他
- ☐ 7.特になし

「6.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3. 審判員について

※審判員には、技術代表（TD）、国内技術委員（NTO）、国際技術委員(ITO)も含まれます。

* 問15. 貴団体が独自に認定する審判員資格はありますか。

JOC、JSPO加盟団体が認定する審判員資格を準用している場合は、「2.ない」を選択ください。
一部競技のみJOC、JSPO加盟団体が認定する資格を準用している場合は、「1.ある」を選択ください。

- ☐ 1.ある
- ☐ 2.ない

問16. IFが認定する審判員資格の保有者数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3. 審判員について

問17. 貴団体が独自に認定している審判員の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

問18. 貴団体が独自に認定している審判員のうち、女性の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

20代以下

30代

40代

50代

60代以上

年齢不明

問19. 貴団体が独自に認定している審判員の資格レベル別の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

1.国際大会レベル(世界大会・アジア大会等)で審判可能な資格

2.全国大会レベルで審判可能な資格

3.地域大会(都道府県大会・ブロック大会)レベルで審判可能な資格

4.市区町村大会レベルで審判可能な資格

審判員数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート(JPC加盟競技団体向け)

3. 審判員について

問20. 過去5年間における、審判員の変化についてお答えください。

資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

※貴団体としての印象でお答えください。

①審判員数の変化

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

②年齢層の変化

	1.急速に高齢化 が進行	2.緩やかに高齢 化が進行	3.変化なし	4.緩やかに若年 化が進行	5.急速に若年化 が進行	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベル で審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

③男女比の変化

	1.急速に男性比 率が増加	2.緩やかに男性 比率が増加	3.変化なし	4.緩やかに女性 比率が増加	5.急速に女性比 率が増加	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベル で審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団
体向け）

3. 審判員について

* 問21. 下記の問21-1の選択肢をご参照の上、貴競技における審判員数の過不足状況についてお答えくだ
さい。

資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

	1.充足している	2.概ね充足して いる	3.やや不足して いる	4.不足している	5.非常に不足し ている	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審 判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベル で審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

* 問21-1. 問21の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(当てはまるもの全て)

※問21で「1.充足している」「2.概ね充足している」を選択された場合、「5.その他」を選択し、充足していると回答された背景をご記入ください。

- ☐ 1.現場において、必要最低限の人数を確保するのに苦労している
- ☐ 2.全国的に見ると必要な数を確保できているが、地域、時間等の理由により現場との間でミスマッチが生じている
- ☐ 3.現場から、審判員が不足しているという意見が出ていない
- ☐ 4.一定の競争倍率があり、審判活動の場を持ってない審判員がいる
- ☐ 5.その他

「5.その他」の内容(具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3. 審判員について

問22. 将来（5年後）の審判員数の増減見込みをお答えください。

資格の該当者がいない場合、「6.該当者なし」を選択してください。

※貴団体としての印象でお答えください。

	1.大幅に増加	2.やや増加	3.横ばい	4.やや減少	5.大幅に減少	6.該当者なし
1.国際大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.全国大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.地域大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.市区町村大会レベルで審判可能な資格	☐	☐	☐	☐	☐	☐

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3. 審判員について

* 問23. NF主催の日本選手権等、国内最上位の大会において、審判員へ支給する手当について当てはまるものをお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問23-1に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問23-2に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容 (具体的に)

問23-1. 問23で「**2.日当**」を選択した場合、1日当たりの金額を**数字**でお答えください。
（例：1000円→1000）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問23-2. 問23で「**3.謝金**」を選択した場合、1日当たりの金額を**数字**でお答えください。
（例：1000円→1000）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3. 審判員について

* 問24. 貴団体では審判員の育成目標人数を定めていますか。

- ☐ 1.目標人数あり
- ☐ 2.目標人数なし

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3．審判員について

* 問24-1. 審判員の育成目標について、計画期間や目標とする人数を具体的にお答えください。
(例：○年までに○レベルの審判を○人)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

3．審判員について

* 問25. 貴団体では審判員の育成計画を策定されていますか。

- ☐ 1.策定している
- ☐ 2.策定していない
- ☐ 3.その他

「3.その他」の内容 (具体的に)

問26. 貴団体として感じておられる、審判員に関わる課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「6.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.審判員の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.稼働していない優秀な審判員が多い
- ☐ 6.その他
- ☐ 7.特になし

「6.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

4．クラス分け委員について

* 問27. 貴団体に所属するクラス分け委員の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

上記内容について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

問27-1. 上記のうち、IFが認定する資格を保有するクラス分け委員の人数を数字でお答えください。

（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

4．クラス分け委員について

国内クラス分け委員について

* 問28. 国内クラス分け委員へ支給する手当をお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問28-1に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問28-2に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容（具体的に）

問28-1. 問28で「**2.日当**」を選択した場合、1日当たりの金額を**数字**でお答えください。
(例：1000円→1000)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

問28-2. 問28で「**3.謝金**」を選択した場合、1日当たりの金額を**数字**でお答えください。
(例：1000円→1000)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JPC加盟競技団体向け)

4. クラス分け委員について

国際クラス分け委員について

* 問29. 国際クラス分け委員へIFから支給する手当について当てはまるものをお答えください。(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当 (→問29-1に金額を記入)
- ☐ 3.謝金 (→問29-2に金額を記入)
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容 (具体的に)

問29-1. 問29で「**2.日当**」を選択した場合、1日当たりの金額を**数字**でお答えください。
(例：1000円→1000)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

問29-2. 問29で「3.謝金」を選択した場合、1日当たりの金額を数字でお答えください。
(例：1000円→1000)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JPC加盟競技団体向け)

4. クラス分け委員について

問30. 貴団体として感じておられる、クラス分け委員に関わる課題があればお答えください。(当てはまるもの全て)

選択肢以外の課題については、「5.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.クラス分け委員の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.その他
- ☐ 6.特になし

「5.その他」の内容 (具体的に)

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート (JPC加盟競技団体向け)

ご回答いただいた方のお名前、ご連絡先、役職、ご職業をお答えください。

ご回答者名

電話番号

メールアドレス

貴団体内での役職

ご職業 (ご回答者がNFの職員ではない場合、本業のご職業をお答えください。)

【プライバシーポリシー】

ご記入いただいた個人情報は、スポーツ庁が実施する、「スポーツキャリアサポート支援事業におけるスポーツ人材の効果的な活用のための基礎的調査研究」（以下「当調査」といいます）およびこれらに付随する業務に利用いたします。

当調査の結果は、当調査の委託先である株式会社リベルタス・コンサルティングにおいて厳重に管理いたします。ご本人の承諾なく上記目的以外に個人情報を利用または事業主体であるスポーツ庁を除く第三者に提供しません。

原則としてご本人に限り、「個人情報の利用目的」の通知、登録した個人情報の開示、訂正、追加または削除、利用停止、消去、ならびに第三者への提供の停止を求めることができますものとします。具体的な方法については下記の個人情報管理の問い合わせ先にご連絡ください。

なお、個人情報への不当なアクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えいなどの危険に対して、技術面および組織面において必要な安全対策を継続的に講じるよう努めています。

【個人情報管理責任者】

委託先：株式会社リベルタス・コンサルティング 五十嵐義明

上記プライバシーポリシーに同意の上、ご回答ください。

中央競技団体を対象とした指導者・審判員の全体像に関するアンケート（JPC加盟競技団体向け）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「完了」ボタンを押して終了してください。

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

本アンケートで回答いただき、統計的に処理したデータは、今年度スポーツ庁において別途実施している「令和2年度スポーツ政策調査研究（国際競技力と中央競技団体に関する調査研究）」においても一部活用させていただきます。

【ご回答にあたっての注意事項】

- ・「次へ」ボタンを押して開始してください。
- ・回答方法は、設問により選択式と記述式があります。
選択式には単一選択と複数選択があり、設問に「当てはまるもの全て」と記載がある場合は、複数選択が可能です。
- ・設問文中に「数字でお答えください」と指定がある場合、半角数字でご入力ください。
(例：10人と回答したい場合、「10」を入力)
- ・アンケート画面の最終ページには「完了」ボタンが表示されます。回答が終了したら、必ず「完了」ボタンを押して終了してください。
- ・アンケートを回答中にブラウザを閉じた場合、再度URLからアクセスすることで終了時点から回答を続行することができます。

【ご回答期限】

令和2年12月7日（月）までにご回答ください。

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

1．ナショナルチームについて

* 問1. 貴団体における強化指定選手の選定方法をお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.個人単位で選抜（例：サッカー）
- ☐ 2.チーム単位で選抜（例：カーリング）
- ☐ 3.その他

「3.その他」の内容 (具体的に)

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

2．強化スタッフについて

指導者（監督・コーチ）、ドクター、トレーナー、アナリスト、カウンセラー、栄養士など、ナショナルチームに関わる強化スタッフについておたずねします。

*問2. 強化スタッフの中に、指導者（監督・コーチ）はいますか。

- ☐ 1.いる
- ☐ 2.いない

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

2. 強化スタッフについて

指導者（監督・コーチ）について

*問3. ナショナルチームの指導者（監督・コーチ）に必要な資格をお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.JSPOコーチ 4レベル（国際大会レベル）
- ☐ 2.JSPOコーチ 3レベル（全国大会レベル）
- ☐ 3.JSPOコーチ 2レベル（部活動等責任者レベル）
- ☐ 4.JSPOコーチ 1レベル（部活動等コーチスタッフレベル）
- ☐ 5.JSPOスタートコーチレベル（部活動等サポートスタッフレベル）
- ☐ 6.初級障がい者スポーツ指導員
- ☐ 7.中級障がい者スポーツ指導員
- ☐ 8.上級障がい者スポーツ指導員
- ☐ 9.障がい者スポーツコーチ
- ☐ 10.その他
- ☐ 11.特になし

「10.その他」の内容（具体的に）

*問4. ナショナルチームの指導者（監督・コーチ）の専業/兼業別の人数を数字でお答えください。
（2020/10/1時点の人数をご記入ください）
（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

専業とは強化スタッフの活動を本業としている者、兼業とは強化スタッフの活動の他に本業（他チームとの兼任を含む）がある者を指します。

1.専業

2.兼業

問4-1. 問4の「1.専業」にあたる指導者についておたずねします。

指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問4-2に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問4-3に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容(具体的に)

問4-2. 問4-1で「2.日当」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。

（例：1000円→1000）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問4-3. 問4-1で「3.謝金」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。

（例：1000円→1000）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問4-4. 問4の「2.兼業」にあたる指導者についておたずねします。

指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問4-5に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問4-6に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容(具体的に)

問4-5. 問4-4で「**2.日当**」を選択した場合、1日当たりの支給金額を**数字**でお答えください。
(例：1000円→1000)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

問4-6. 問4-4で「**3.謝金**」を選択した場合、1日当たりの支給金額を**数字**でお答えください。
(例：1000円→1000)

最低額 (単位：円)

最高額 (単位：円)

* 問5. ナショナルチームの指導者としての年間活動日数 (平均的な日数) を、専業・兼業別に数字でお答えください。

(例：年間10日程度の場合→10、0日の場合→0)

1.専業の指導者

2.兼業の指導者

* 問6. ナショナルチームの指導者の選考基準・方法を定めていますか。

- ☐ 1.定めている
- ☐ 2.定めていない

問6-1. 問6で「**1.定めている**」と回答した場合、選考基準・方法をお答えください。

問7. 問6-1で回答された選考基準・方法をホームページ等で公開していますか。

- ☐ 1.公開している
- ☐ 2.公開していない

問7-1. 問7で「**1.公開している**」と回答した場合、URLをご記入ください。

* 問8. 貴団体において、ナショナルチームの指導者を評価する制度を定めていますか。

- ☐ 1.定めている
- ☐ 2.定めていない

*問9. 貴団体において、ナショナルチームの指導者の育成計画を策定していますか。

- ☐ 1.策定している
- ☐ 2.策定していない

問10. 貴団体として感じておられる、ナショナルチームの指導者に関する課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「5.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.指導者の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.その他
- ☐ 6.特になし

「5.その他」の内容 (具体的に)

--

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

2.強化スタッフについて

*問11. 強化スタッフの中に、トレーナーはいますか。

- ☐ 1.いる
- ☐ 2.いない

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

2.強化スタッフについて

トレーナーについて

* 問12. ナショナルチームのトレーナーに必要な資格をお答えください。(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.JSPOアスレティックトレーナー
- ☐ 2.障がい者スポーツトレーナー
- ☐ 3.JATI-ATI(トレーニング指導者)
- ☐ 4.JATI-AATI(上級トレーニング指導者)
- ☐ 5.JATI-SATI(特別上級トレーニング指導者)
- ☐ 6.鍼灸師
- ☐ 7.あん摩マッサージ指圧師
- ☐ 8.柔道整復師
- ☐ 9.理学療法士
- ☐ 10.作業療法士
- ☐ 11.その他
- ☐ 12.特になし

「11.その他」の内容(具体的に)

* 問13. ナショナルチームのトレーナーの専業/兼業別の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

専業とは強化スタッフの活動を本業としている者、兼業とは強化スタッフの活動の他に本業(他チームとの兼任を含む)がある者を指します。

1.専業のトレーナー

2.兼業のトレーナー

問13-1. 問13の「1.専業」にあたるトレーナーについておたずねします。

トレーナーへ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当(→問13-2に金額を記入)
- ☐ 3.謝金(→問13-3に金額を記入)
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容(具体的に)

問13-2. 問13-1で「**2.日当**」を選択した場合、1日当たりの支給金額を**数字**でお答えください。

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問13-3. 問13-1で「**3.謝金**」を選択した場合、1日当たりの支給金額を**数字**でお答えください。

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問13-4. 問13の「**2.兼業**」にあたるトレーナーについておたずねします。

トレーナーへ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問13-5に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問13-6に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容（具体的に）

問13-5. 問13-4で「**2.日当**」を選択した場合、1日当たりの支給金額を**数字**でお答えください。

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問13-6. 問13-4で「**3.謝金**」を選択した場合、1日当たりの支給金額を**数字**でお答えください。

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

* 問14. ナショナルチームのトレーナーとしての年間活動日数（平均的な日数）を、専業・兼業別に数字でお答えください。

（例：年間10日程度の場合→10、0日の場合→0）

1.専業のトレーナー

2.兼業のトレーナー

* 問15. ナショナルチームのトレーナーの選考基準・方法を定めていますか。

- ☐ 1.定めている
- ☐ 2.定めていない

問15-1. 問15で「**1.定めている**」と回答した場合、選考基準・方法をお答えください。

問16. 問15-1で回答された選考基準・方法をホームページ等で公開していますか。

- ☐ 1.公開している
- ☐ 2.公開していない

問16-1. 問16で「**1.公開している**」と回答した場合、URLをご記入ください。

* 問17. 貴団体において、ナショナルチームのトレーナーを評価する制度を定めていますか。

- ☐ 1.定めている
- ☐ 2.定めていない

* 問18. 貴団体において、ナショナルチームのトレーナーの育成計画を策定していますか。

- ☐ 1.策定している
- ☐ 2.策定していない

問19. 貴団体として感じておられる、ナショナルチームのトレーナーに関する課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「5.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.トレーナーの質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.その他
- ☐ 6.特になし

「5.その他」の内容 (具体的に)

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

2.強化スタッフについて

* 問20. 指導者（監督・コーチ）、トレーナー以外の強化スタッフについて、スタッフ種類別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→0、0人の場合→0）

1.ドクター

2.アナリスト

3.カウンセラー

4.栄養士

5.その他

「5.その他」について、具体的な職種をお答えください。

上記内容について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

* 問21. 貴団体として感じておられる、ナショナルチームの強化スタッフに関する課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「5.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.強化スタッフの質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.その他
- ☐ 6.特になし

「5.その他」の内容 (具体的に)

--

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

ご回答いただいた方のお名前、ご連絡先、役職、ご職業をお答えください。

ご回答者名	
電話番号	
メールアドレス	
貴団体内での役職	
ご職業	
団体名	

【プライバシーポリシー】

ご記入いただいた個人情報は、スポーツ庁が実施する、「スポーツキャリアサポート支援事業におけるスポーツ人材の効果的な活用のための基礎的調査研究」（以下「当調査」といいます）およびこれらに付随する業務に利用いたします。

当調査の結果は、当調査の委託先である株式会社リベルタス・コンサルティングにおいて厳重に管理いたします。ご本人の承諾なく上記目的以外に個人情報を利用または事業主体であるスポーツ庁を除く第三者に提供しません。

原則としてご本人に限り、「個人情報の利用目的」の通知、登録した個人情報の開示、訂正、追加または削除、利用停止、消去、ならびに第三者への提供の停止を求めることができますものとします。具体的な方法については下記の個人情報管理の問い合わせ先にご連絡ください。

なお、個人情報への不当なアクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えいなどの危険に対して、技術面および組織面において必要な安全対策を継続的に講じるよう努めています。

【個人情報管理責任者】

委 託 先：株式会社リベルタス・コンサルティング 五十嵐義明

上記プライバシーポリシーに同意の上、ご回答ください。

ナショナルチームに係る強化スタッフに関するアンケート

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「完了」ボタンを押して終了してください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

本アンケートで回答いただき、統計的に処理したデータは、今年度スポーツ庁において別途実施している「令和2年度スポーツ政策調査研究（国際競技力と中央競技団体に関する調査研究）」においても一部活用させていただきます。

【ご回答にあたっての注意事項】

- ・「次へ」ボタンを押して開始してください。
- ・回答方法は、設問により選択式と記述式があります。
選択式には単一選択と複数選択があり、設問に「当てはまるもの全て」と記載がある場合は、複数選択が可能です。
- ・設問文中に「数字でお答えください」と指定がある場合、半角数字でご入力ください。
(例：10人と回答したい場合、「10」を入力)
- ・アンケート画面の最終ページには「完了」ボタンが表示されます。回答が終了したら、必ず「完了」ボタンを押して終了してください。
- ・アンケートを回答中にブラウザを閉じた場合、再度URLからアクセスすることで終了時点から回答を続行することができます。

【ご回答期限】

令和2年12月7日（月）までにご回答ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

1. チームについて

* 問1. 貴チーム名をお答えください。

* 問2. 貴チームに所属している選手の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

(例：10人の場合→10、0人の場合→0)

* 問3. 貴チームは次のうちの形態に当てはまりますか。

- ☐ 1. 企業所有のチーム
- ☐ 2. クラブ型チーム
- ☐ 3. その他（大学等）

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

1．チームについて

*問4. 問3で「**1.企業所有のチーム**」を選択した場合、貴チームの指導者の雇用形態をお答えください。
(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.正社員
- ☐ 2.契約社員
- ☐ 3.嘱託社員
- ☐ 4.パート・アルバイト
- ☐ 5.その他

「5.その他」の内容(具体的に)

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

1．チームについて

*問5. 貴チームの競技をお答えください。

- ☐ 1.サッカー
- ☐ 2.バレーボール
- ☐ 3.バスケットボール
- ☐ 4.ハンドボール
- ☐ 5.ラグビー
- ☐ 6.アイスホッケー
- ☐ 7.ホッケー
- ☐ 8.ソフトボール
- ☐ 9.フットサル
- ☐ 10.アメリカンフットボール

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2．指導者について サッカー

*問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を**数字**でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

1.S級コーチ (JSPOコーチ 4)

2.A級コーチ (JSPOコーチ 4)

3.B級コーチ (JSPOコーチ 3)

4.C級コーチ (JSPOコーチ 1)

5.D級コーチ

6.キッズリーダー

7.資格を有しない指導者

8.その他

「8.その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「7.資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

(例: 無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。)

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について バレーボール

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1. コーチ 4（JSPO コーチ 4）

2. コーチ 3（JSPO コーチ 3）

3. コーチ 2（JSPO コーチ 2）

4. コーチ 1（JSPO コーチ 1）

5. スタートコーチ（JSPO スタートコーチ）

6. 資格を有しない指導者

7. その他

「7. その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「6. 資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について バスケットボール

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1.S級コーチ（JSPOコーチ4）

2.A級コーチ（JSPOコーチ4）

3.B級コーチ（JSPOコーチ3）

4.C級コーチ（JSPOコーチ1）

5.D級コーチ

6.E級コーチ

7.ジュニアエキスパート

8.キッズインストラクター

9.資格を有しない指導者

10.その他

「10.その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「9.資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリークに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について ハンドボール

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1. コーチ 4（JSPOコーチ 4）

2. コーチ 3（JSPOコーチ 3）

3. コーチ 2（JSPOコーチ 2）

4. コーチ 1（JSPOコーチ 1）

5. スタートコーチ（JSPOスタートコーチ）

6. コーチングアシスタント

7. 資格を有しない指導者

8. その他

「8. その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「7. 資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について ラグビー

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1.S級コーチ

2.A級コーチ（JSPOコーチ3）

3.B級コーチ（JSPOコーチ1）

4.C級コーチ

5.スタートコーチ

6.資格を有しない指導者

7.その他

「7.その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「6.資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について アイスホッケー

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1. コーチ 1（JSPOコーチ 1）

2. 資格を有しない指導者

3. その他

「3. その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「2. 資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について ホッケー

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を**数字**でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を**数字**でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1. コーチ 4（JSPO コーチ 4）

2. コーチ 3（JSPO コーチ 3）

3. コーチ 2（JSPO コーチ 2）

4. コーチ 1（JSPO コーチ 1）

5. 資格を有しない指導者

6. その他

「6. その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「5. 資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について ソフトボール

* 問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1. コーチ 4（JSPO コーチ 4）

2. コーチ 3（JSPO コーチ 3）

3. コーチ 2（JSPO コーチ 2）

4. コーチ 1（JSPO コーチ 1）

5. 資格を有しない指導者

6. その他

「6. その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「5. 資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について フットサル

*問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

*問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1.A級コーチ（JSPOコーチ4）

2.B級コーチ（JSPOコーチ3）

3.C級コーチ（JSPOコーチ1）

4.資格を有しない指導者

5.その他

「5.その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「4.資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について アメリカンフットボール

*問6. 貴チームの指導者（監督、コーチ等）数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

* 問7. 貴チームに所属する指導者について、資格別の人数を数字でお答えください。（2020/10/1時点の人数をご記入ください）

（例：10人の場合→10、0人の場合→0）

1.コーチ 3（JSPOコーチ 3）

2.コーチ 1（JSPOコーチ 1）

3.資格を有しない指導者

4.その他

「4.その他」について、具体的な資格名称をお答えください。

問7-1. 問7の「3.資格を有しない指導者」がいる場合、その理由をお答えください。

（例：無資格ではあるがOBの選手をコーチとして雇用している。財政上、有資格の指導者を抱えるのに限界がある。）

指導者資格の種類や人数について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について

* 問8. 貴チームの指導者数の過不足状況をお答えください。

1.充足している

2.概ね充足している

3.やや不足している

4.不足している

5.非常に不足している

☐☐☐☐☐

* 問9. 問8の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。（当てはまるもの全て）

※問8で「1.充足している」「2.概ね充足している」を選択された場合は「4.その他」を選択し、充足していると回答された背景をご記入ください。

- ☐ 1.必要最低限の人数を確保するのに苦労している
- ☐ 2.必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と感じている。
- ☐ 3.指導者が不足しているという意見が出ていない
- ☐ 4.その他

「4.その他」の内容 (具体的に)

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について

* 問10. 貴チームの指導者の年間指導日数（平均的な日数）を数字でお答えください。

（例：年間10日程度の場合→10）

* 問11. スポーツ少年団等の地域のジュニアクラブに対し、貴チームの指導者を派遣する機会がありますか。

- ☐ 1.ある
- ☐ 2.ない

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について

* 問11-1. スポーツ少年団等の地域のジュニアクラブに対する、年間の指導者派遣回数を数字でお答えください。

（例：年間10回程度の場合→10）

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

2. 指導者について

問12. 貴チームとして感じておられる、指導者に関わる課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「6.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.指導者の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.特定のレベルのコーチが不足している
- ☐ 6.その他
- ☐ 7.特になし

「6.その他」の内容 (具体的に)

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

3.専門スタッフについて

* 問13. 貴チームに所属する専門スタッフについて、スタッフ種類別の人数を数字でお答えください。
(2020/10/1時点の人数をご記入ください)
(例：10人の場合→10、0人の場合→0)

1.トレーナー

2.ドクター

3.アナリスト

4.カウンセラー

5.栄養士

6.その他

「6.その他」について、具体的な職種をお答えください。

上記内容について参考ホームページ等があればURLを記入ください。

問14. 貴チームとして感じておられる、専門スタッフに関する課題があればお答えください。（当てはまるもの全て）

選択肢以外の課題については、「6.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.専門スタッフの質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.特定の職種が不足している
- ☐ 6.その他
- ☐ 7.特になし

「6.その他」の内容 (具体的に)

--

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

ご回答いただいた方のお名前、ご連絡先、役職、ご職業をお答えください。

ご回答者名

--

電話番号

--

メールアドレス

--

貴チーム内での役職

--

ご職業

--

【プライバシーポリシー】

ご記入いただいた個人情報は、スポーツ庁が実施する、「スポーツキャリアサポート支援事業におけるスポーツ人材の効果的な活用のための基礎的調査研究」（以下「当調査」といいます）およびこれらに付随する業務に利用いたします。

当調査の結果は、当調査の委託先である株式会社リベルタス・コンサルティングにおいて厳重に管理いたします。ご本人の承諾なく上記目的以外に個人情報を利用または事業主体であるスポーツ庁を除く第三者に提供しません。

原則としてご本人に限り、「個人情報の利用目的」の通知、登録した個人情報の開示、訂正、追加または削除、利用停止、消去、ならびに第三者への提供の停止を求めることができます。具体的な方法については下記の個人情報管理の問い合わせ先にご連絡ください。

なお、個人情報への不当なアクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えいなどの危険に対して、技術面および組織面において必要な安全対策を継続的に講じるよう努めています。

【個人情報管理責任者】

委 託 先：株式会社リベルタス・コンサルティング 五十嵐義明

上記プライバシーポリシーに同意の上、ご回答ください。

トップリーグに所属するクラブチームや企業所有チームの指導者・スタッフに関するアンケート

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「完了」ボタンを押して終了してください。

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

本アンケートで回答いただき、統計的に処理したデータは、今年度スポーツ庁において別途実施している「令和2年度スポーツ政策調査研究（国際競技力と中央競技団体に関する調査研究）」においても一部活用させていただきます。

【ご回答にあたっての注意事項】

- ・「次へ」ボタンを押して開始してください。
- ・回答方法は、設問により選択式と記述式があります。
選択式には単一選択と複数選択があり、設問に「当てはまるもの全て」と記載がある場合は、複数選択が可能です。
- ・設問文中に「数字でお答えください」と指定がある場合、半角数字でご入力ください。
(例：10人と回答したい場合、「10」を入力)
- ・アンケート画面の最終ページには「完了」ボタンが表示されます。回答が終了したら、必ず「完了」ボタンを押して終了してください。
- ・アンケートを回答中にブラウザを閉じた場合、再度URLからアクセスすることで終了時点から回答を続行することができます。

【ご回答期限】

令和2年12月11日（金）までにご回答ください。

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

1. 団体について

* 問1. 貴団の種目をお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.軟式野球
- ☐ 2.サッカー
- ☐ 3.バレーボール
- ☐ 4.バスケットボール
- ☐ 5.複合種目
- ☐ 6.剣道
- ☐ 7.空手道
- ☐ 8.柔道
- ☐ 9.ソフトボール
- ☐ 10.バドミントン
- ☐ 11.その他

「11.その他」の内容(具体的に)

* 問2. 貴団に所属している団員の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

* 問3. 貴団は総合型地域スポーツクラブと連携して活動していますか。

- ☐ 1. 連携して活動している
- ☐ 2. 連携した活動はしていない
- ☐ 3. その他

「3.その他」の内容(具体的に)

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

2. 指導者について

* 問4. 貴団の指導者の属性をお答えください。(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.保護者
- ☐ 2.教員
- ☐ 3.貴団のOB・OG
- ☐ 4.元アスリート(プロ・アマは問わない)
- ☐ 5.上記以外の地域住民
- ☐ 6.その他

「6.その他」の内容(具体的に)

* 問5. 貴団の登録指導者数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

2. 指導者について

* 問6. 貴団の指導者の専業、兼業別の人数を数字でお答えください。(2020/10/1時点の人数をご記入ください)

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

専業とは貴団の指導活動のみを本業としている者、兼業とは他に本業がある者としてします。

1.専業

2.兼業

3.その他(専業主婦/主夫、年金生活者等)

問6-1. 問6の「1.専業」にあたる指導者についておたずねします。

指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。(当てはまるもの全て)

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当(→問6-2に金額を記入)
- ☐ 3.謝金(→問6-3に金額を記入)
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容(具体的に)

問6-2. 問6-1で「2.日当」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。

(例: 1000円→1000)

最低額(単位:円)

最高額(単位:円)

問6-3. 問6-1で「3.謝金」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。

(例: 1000円→1000)

最低額(単位:円)

最高額(単位:円)

問6-4. 問6の「2.兼業」「3.その他（専業主婦/主夫、年金生活者等）」にあたる指導者についておたずねします。

指導者へ支給する手当について、当てはまるものをお答えください。（当てはまるもの全て）

- ☐ 1.月給・年俸
- ☐ 2.日当（→問6-5に金額を記入）
- ☐ 3.謝金（→問6-6に金額を記入）
- ☐ 4.交通費
- ☐ 5.宿泊費
- ☐ 6.食事代
- ☐ 7.その他
- ☐ 8.手当等の支給はない

「7.その他」の内容 (具体的に)

問6-5. 問6-4で「2.日当」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。
（例：1000円→1000）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

問6-6. 問6-4で「3.謝金」を選択した場合、1日当たりの支給金額を数字でお答えください。
（例：1000円→1000）

最低額（単位：円）

最高額（単位：円）

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

2. 指導者について

* 問7. 問7-1の選択肢を参照の上、貴団の指導者数の過不足状況をお答えください。

- 1.充足している 2.概ね充足している 3.やや不足している 4.不足している 5.非常に不足している

☐☐☐☐☐

* 問7-1. 問7の過不足状況を選択された理由や背景をお答えください。(当てはまるもの全て)

※問7で「1.充足している」「2.概ね充足している」を選択された場合、「5.その他」を選択し、充足していると回答された背景をご記入ください。

- ☐ 1.成り手がおらず、必要最低限の人数を確保するのに苦労している
- ☐ 2.指導者を確保する予算が不足している
- ☐ 3.必要最低限の人数はいるが、より丁寧な指導を行うために、指導者資格を保有している指導者の確保が必要と感じている
- ☐ 4.現場内で、指導者が不足しているという意見が出ていない
- ☐ 5.その他

「5.その他」の内容(具体的に)

問8. 問7で「3.やや不足している」「4.不足している」「5.非常に不足している」と回答された方におたずねします。

貴団が理想とする指導者数を数字でお答えください。

(例: 10人の場合→10、0人の場合→0)

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

2. 指導者について

問9. 貴団として感じておられる指導者に関する課題があればお答えください。(当てはまるもの全て) 選択肢以外の課題については、「5.その他」に具体的にご記入ください。

- ☐ 1.指導者の質の確保・向上が必要
- ☐ 2.十分な報酬が与えられず成り手が少ない
- ☐ 3.高齢化が進んでおり、若年層の確保が急務
- ☐ 4.育成計画を策定しているが、予算や人員不足等により、順調に進んでいない
- ☐ 5.その他
- ☐ 6.特になし

「5.その他」の内容(具体的に)

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

ご回答いただいた方のお名前、ご連絡先、役職、ご職業をお答えください。

ご回答者名

電話番号

メールアドレス

貴団内での役職

ご職業

【プライバシーポリシー】

ご記入いただいた個人情報は、スポーツ庁が実施する、「スポーツキャリアサポート支援事業におけるスポーツ人材の効果的な活用のための基礎的調査研究」（以下「当調査」といいます）およびこれらに付随する業務に利用いたします。

当調査の結果は、当調査の委託先である株式会社リベルタス・コンサルティングにおいて厳重に管理いたします。ご本人の承諾なく上記目的以外に個人情報を利用または事業主体であるスポーツ庁を除く第三者に提供しません。

原則としてご本人に限り、「個人情報の利用目的」の通知、登録した個人情報の開示、訂正、追加または削除、利用停止、消去、ならびに第三者への提供の停止を求めることができるものとします。具体的な方法については下記の個人情報管理の問い合わせ先にご連絡ください。

なお、個人情報への不当なアクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えいなどの危険に対して、技術面および組織面において必要な安全対策を継続的に講じるよう努めています。

【個人情報管理責任者】

委 託 先：株式会社リベルタス・コンサルティング 五十嵐義明

上記プライバシーポリシーに同意の上、ご回答ください。

スポーツ少年団の指導者等に関するアンケート

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

「完了」ボタンを押して終了してください。

対象外条件 SC2_1 < 15 または SC2_1 > 99 (即時回答終了)

アンケート画面開始

Page 1

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

0 50 100(%)

SC1 必須設定 回答必須

SC1
あなたがお住まいの都道府県をお答えください。

--- ▼

次へ

0 50 100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

SO2 対象外条件 SC2_1 < 15 または SC2_1 > 99 (即時回答終了)
- カテゴリ 1.歳
必須設定 回答必須
回答制御 回答範囲「0～99」 に該当しない場合はアラートを表示

SC2
あなたの年齢をお答えください。

歳

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

SC3必須設定回答必須

SC3
あなたの性別をお答えください。

- 1 男性
- 2 女性

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

SC4 必須設定 回答必須
回答制御 排他カテゴリ「4. 上記のいずれもしたことがない」に該当しない場合はアラートを表示

SC4
スポーツ活動に関わる活動経験について、以下の中から該当するものをすべて選択してください。ボランティアでの活動も含みます。(いくつでも)

- 1 ☐ スポーツチームの指導者(監督・コーチ)をしている/したことがある
- 2 ☐ スポーツチームのスタッフ※をしている/したことがある
- 3 ☐ スポーツの審判員をしている/したことがある
- 4 ☐ 上記のいずれもしたことがない

※スポーツチームのスタッフの例:スポーツドクター、トレーナー、栄養士、アナリストなど

次へ

050100(%)

アンケート画面開始

Page 1

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

現在、審判員・指導者・スタッフとして従事していない方は、以降の設問では従事していた時のことについてお答えください。

Q1
必須設定 回答必須
- カテゴリ 6.その他
- カテゴリ 6.その他 の詳細入力 1
必須設定 回答必須
入力文字数 100文字まで

Q1
審判員・指導者・スタッフとして携わっているスポーツの対象範囲についてお答えください。(いくつでも)

- 1 ☐ スポーツ少年団等のジュニアクラブ
- 2 ☐ 小・中・高の部活動
- 3 ☐ 大学の部活動
- 4 ☐ 社会人チーム(実業団またはクラブチーム)
- 5 ☐ プロチーム
- 6 ☐ その他(具体的に:)

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q2
必須設定 回答必須
- カテゴリ 10.その他
- カテゴリ 10.その他 の詳細入力 1
必須設定 回答必須
入力文字数 100文字まで

Q2
審判員・指導者・スタッフとして携わっているスポーツは何ですか。
複数ある場合は、すべてお答えください。(いくつでも)

- 1 ☐ 軟式野球
- 2 ☐ サッカー
- 3 ☐ バレーボール
- 4 ☐ バスケットボール
- 5 ☐ 剣道
- 6 ☐ 空手道
- 7 ☐ 柔道
- 8 ☐ ソフトボール
- 9 ☐ バドミントン
- 10 ☐ その他

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q3 必須設定 回答必須
- カテゴリ 6.その他
- カテゴリ 6.その他 の詳細入力 1
必須設定 回答必須
入力文字数 100文字まで

Q3
審判員・指導者・スタッフとしての活動頻度をお答えください。
※現在、審判員・指導者・スタッフとして従事していない方は、直近で従事していた時のことについてお答えください。

- 1 ☐ ほぼ毎日
- 2 ☐ 週2～3回程度
- 3 ☐ 週1回程度
- 4 ☐ 月2～3回程度
- 5 ☐ 月1回程度
- 6 ☐ その他（具体的に: ）

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q4必須設定回答必須

Q4
審判員・指導者・スタッフとしての活動形態をお答えください。
※現在、審判員・指導者・スタッフとして従事していない方は、直近で従事していた時のことについてお答えください。

- 1 ○ 専業(審判員・指導者を本業としている)
- 2 ○ 兼業(審判員・指導者の他に本業がある)

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q5

必須設定

回答必須

回答制御

排他カテゴリ「8. 手当等の支給はない」に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 7.その他

- カテゴリ 7.その他 の詳細入力 1

必須設定

回答必須

入力文字数

100文字まで

Q5
審判員・指導者・スタッフとしての活動に対し、次の手当を受け取っていますか。(いくつでも)

- 1

☐

月給・年俸
- 2

☐

日当
- 3

☐

謝金
- 4

☐

交通費
- 5

☐

宿泊費
- 6

☐

食事代
- 7

☐

その他(具体的に:)
- 8

☐

手当等の支給はない

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q6回答者条件 Q5 = 「2. 日当」

- カテゴリ 1.約/円

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0～999999」に該当しない場合はアラートを表示

Q6
Q5で「日当」を選択した場合、1日当たりの支給金額をお答えください。

約 円

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q7回答者条件 Q5 = 「3. 謝金」

- カテゴリ 1.約/円

必須設定 回答必須

回答制御 回答範囲「0～999999」に該当しない場合はアラートを表示

Q7
Q5で「謝金」を選択した場合、1日当たりの支給金額をお答えください。

約 円

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q8 必須設定 回答必須

Q8
あなたが活動するチーム・団体では、審判員、指導者の人数は充足していますか。
※現在、審判員・指導者・スタッフとして従事していない方は、直近で従事していた時のことについてお答えください。

- 1 ☐ 充足している
- 2 ☐ 概ね充足している
- 3 ☐ やや不足している
- 4 ☐ 不足している
- 5 ☐ 非常に不足している

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q8 回答者条件 Q8 = 「3. やや不足している」～「5. 非常に不足している」
- カテゴリ 1.FA
必須設定 回答必須
入力文字数 400文字まで

Q9
どんな場合に不足しますか。

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q10 - カテゴリ 1.FA
必須設定 回答必須
入力文字数 400文字まで

Q10
審判員、指導者として活動する上で求められる能力は何ですか。

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q11 - カテゴリ 1.FA
必須設定 回答必須
入力文字数 400文字まで

Q11
あなたはその能力をどういう経験や学びを通じて修得しましたか。

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

0

50

100(%)

Q12_1

- カテゴリ 1.競技名

必須設定 無回答可**入力文字数** 100文字まで**回答制御** q12_1_1とq12_1_2はセットで回答 に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 2.年

必須設定 無回答可**入力文字数** 2文字まで**回答制御** 回答が半角数字 に該当しない場合はアラートを表示**回答制御** SC2_1 >= Q12_1_2 に該当しない場合はアラートを表示**回答制御** q12_1_1とq12_1_2はセットで回答 に該当しない場合はアラートを表示

Q12

あなたのこれまでの選手としての競技経験をお答えください。
複数の競技の経験がある場合は、それぞれについてお答えください(経験年数の長い競技3つまで)。

※選手としての競技経験のない方は、未記入のままお進みください。

競技名 : 年

Q12_2

- カテゴリ 1.競技名

必須設定 無回答可**回答者条件** Q12_1_1 ≠ null**入力文字数** 100文字まで**回答制御** Q12_1_1 ≠ null に該当しない場合はアラートを表示**回答制御** q12_2_1とq12_2_2はセットで回答 に該当しない場合はアラートを表示

- カテゴリ 2.年

必須設定 無回答可**入力文字数** 2文字まで**回答制御** 回答が半角数字 に該当しない場合はアラートを表示**回答制御** SC2_1 >= Q12_2_2 に該当しない場合はアラートを表示**回答制御** q12_2_1とq12_2_2はセットで回答 に該当しない場合はアラートを表示競技名 : 年

Q12_3

- カテゴリ 1.競技名

必須設定 無回答可**回答者条件** Q12_2_1 ≠ null**入力文字数** 100文字まで**回答制御** Q12_2_1 ≠ null に該当しない場合はアラートを表示

- 回答制御

q12_3_1とq12_3_2はセットで回答 に該当しない場合はアラートを表示
- カテゴリ 2.年
- 必須設定

無回答可
- 入力文字数

2文字まで
- 回答制御

回答が半角数字 に該当しない場合はアラートを表示
- 回答制御

SC2_1 >= Q12_3_2 に該当しない場合はアラートを表示
- 回答制御

q12_3_1とq12_3_2はセットで回答 に該当しない場合はアラートを表示

競技名 : 年

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q13 - カテゴリ 1.FA
必須設定 無回答可
入力文字数 400文字まで

Q13
審判員・指導者・スタッフ以外の形でスポーツに携わっていた経験がある場合は、内容をお答えください。部活動への参加は除きます。
(例:プロ選手、スポーツ行政の担当官、スポーツ団体の職員)

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q14 必須設定 回答必須
- カテゴリ 1.保有している
- カテゴリ 1.保有している の詳細入力 1
必須設定 回答必須
入力文字数 100文字まで

Q14
スポーツの指導者、審判、スタッフに関する資格を保有していますか。
保有している場合、具体的な資格名もお答えください。

- 1 ☐ 保有している ⇒(資格名:)
- 2 ☐ 保有していない

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q15 - カテゴリ 1.FA
必須設定 回答必須
入力文字数 400文字まで

Q15
あなたがスポーツの指導者や審判員、スタッフとして従事することになったきっかけは何ですか。

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q16 - カテゴリ 1.FA
必須設定 無回答可
入力文字数 400文字まで

Q16
過去に指導者や審判員、スタッフとして従事していたが、現在は携わっていない方へおたずねします。現在携わっていない理由をお答えください。
※現在も携わっている方は、未記入のままお進みください。

次へ

050100(%)

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

050100(%)

Q17 - カテゴリ 1.FA
必須設定 回答必須
入力文字数 400文字まで

Q17
あなたがスポーツの指導者や審判員として活動したり、キャリアを形成するにあたって抱えている課題にはどんなものがありますか。
(例:本業の仕事があるため、指導や審判活動に参加できない、指導や審判活動に支出する費用の負担が大きい等)

送信

050100(%)